医療法人社団

筑波記念会

2017年度年報

2017.4-2018.3

筑波記念病院
筑波総合クリニック
つくばトータルヘルスプラザ
つくばケアセンター
つくば訪問看護ステーション

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

INDEX

Fiscal year 2017

医療法人社団 筑波記念会　概要 …… 2
基本理念・基本方針 …… 2
筑波記念会 組織図 …… 2
筑波記念病院 組織図 …… 3
沿革 …… 4
施設概要 …… 5
筑波記念病院 …… 5
筑波総合クリニック …… 7
つくばトータルヘルスプラザ …… 7
介護老人保健施設 つくばケアセンター …… 8
診療部門 …… 10
循環器内科 …… 10
消化器内科 …… 12
血液内科 …… 14
神経内科 …… 16
代謝内科 …… 18
呼吸器内科 …… 20
消化器外科 …… 22
呼吸器外科 …… 24
心臓血管外科 …… 26
脳神経外科 …… 28
整形外科 …… 30
婦人科 …… 32
眼　科 …… 34
耳鼻咽喉科 …… 36
皮膚科 …… 38
小児科 …… 39
精神科 …… 40
麻酔科 …… 42
放射線科 …… 44
病理診断科 …… 46
リハビリテーション科 …… 48
救急科 …… 50
リウマチ・アレルギー科 …… 52
形成外科 …… 52
血管専門外来 …… 52
腎臓内科 …… 53
乳腺甲状腺外科 …… 53
泌尿器科 …… 53
もの忘れ診療科 …… 54
内　科 …… 54
筑波記念病院　研修医 …… 55
業績集 …… 56
論文 …… 56
書籍 …… 57
学会・講演・セミナー等 …… 58
診療支援部門 …… 66
看護部 …… 66
薬剤部 …… 74
放射線部 …… 76
リハビリテーション部 …… 78
臨床検査科 …… 84
臨床工学科 …… 86
栄養科 …… 88
医療相談室 …… 90
臨床心理 …… 92
地域医療連携部 …… 94
委　員　会 …… 97
病院運営管理会議 …… 97
医療安全管理委員会 …… 97
医療安全対策チーム …… 98
転倒転落対策 WG …… 101
感染対策管理委員会 …… 103
感染対策チーム …… 104
労働安全衛生管理委員会 …… 107
防火防災管理委員会 …… 108
臨床研修管理委員会 …… 109
臨床研修運営チーム …… 110
医療従事者研修管理委員会 …… 112
職員研修運営チーム …… 112
地域医療研修運営チーム …… 113
診療管理委員会 …… 114
救急診療運営チーム …… 115
外来診療運営チーム …… 115
手術部運営チーム …… 116
ICU 運営チーム …… 117
リハビリテーション運営チーム …… 117
病院機能改善管理委員会 …… 118
医療ガスチーム …… 119
がん化学療法運営チーム …… 119
輸血運営チーム …… 120
診療録チーム …… 121
臨床検査運営チーム …… 121
補助人工心臓チーム …… 122
栄養チーム …… 123
NST（栄養サポートチーム） …… 124
摂食嚥下ケアチーム …… 125
褥瘡対策チーム …… 126
クリティカルパスチーム …… 127
DPC チーム …… 127
地域医療サービスチーム …… 128
企画広報運営チーム …… 129
倫理委員会 …… 130
薬事委員会 …… 132
筑波総合クリニック …… 133
つくばトータルヘルスプラザ …… 134
介護老人保健施設 つくばケアセンター …… 138
つくば訪問看護ステーション …… 139
筑波記念病院 統計 …… 140
患者統計 …… 140
科別外来患者数 …… 140
救急車搬送患者記録 …… 141
ドクターヘリ搬送患者数 …… 142
平均在院日数（一般病棟） …… 142
入院延べ患者数 …… 143
新入院患者数 …… 144
手術件数（入院・外来） …… 145
手術件数（入院のみ・時間帯別） …… 146
病床利用率 …… 146
主な指導料・管理料 …… 147
地域がん登録部位別件数 …… 148
院内・院外　研修・講演会一覧 …… 149

医療法人社団 筑波記念会　概要

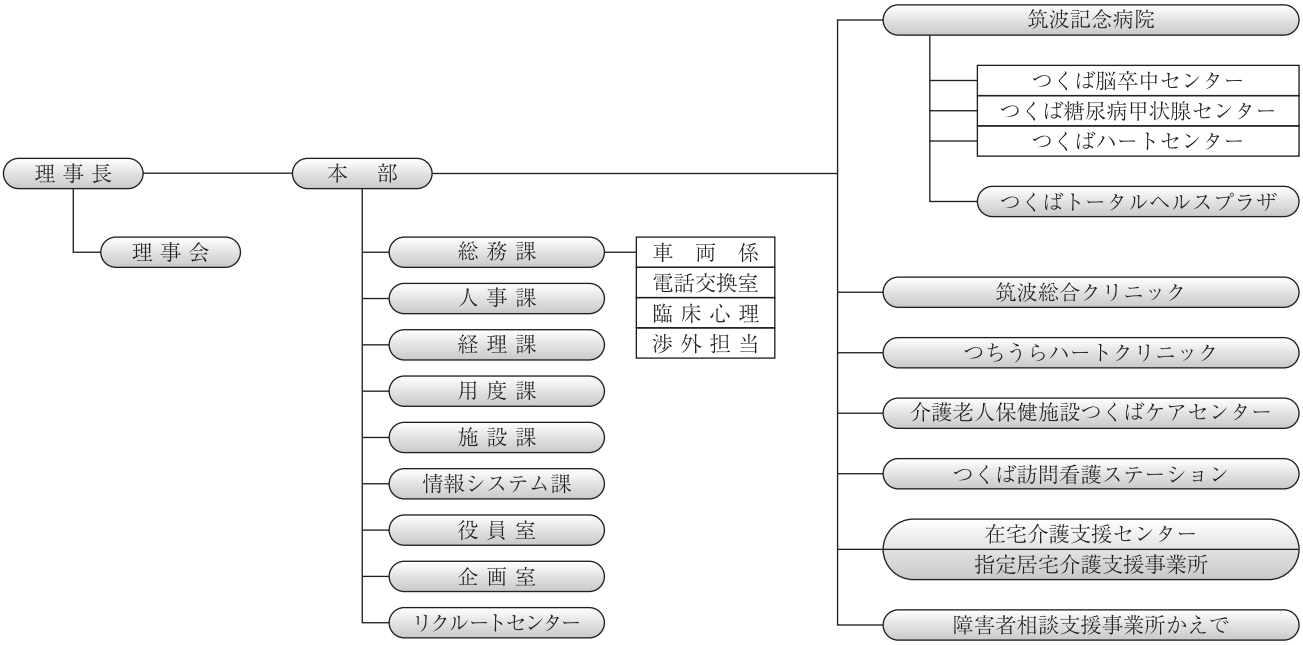
基　本　理　念

誠意を以って最善をつくす

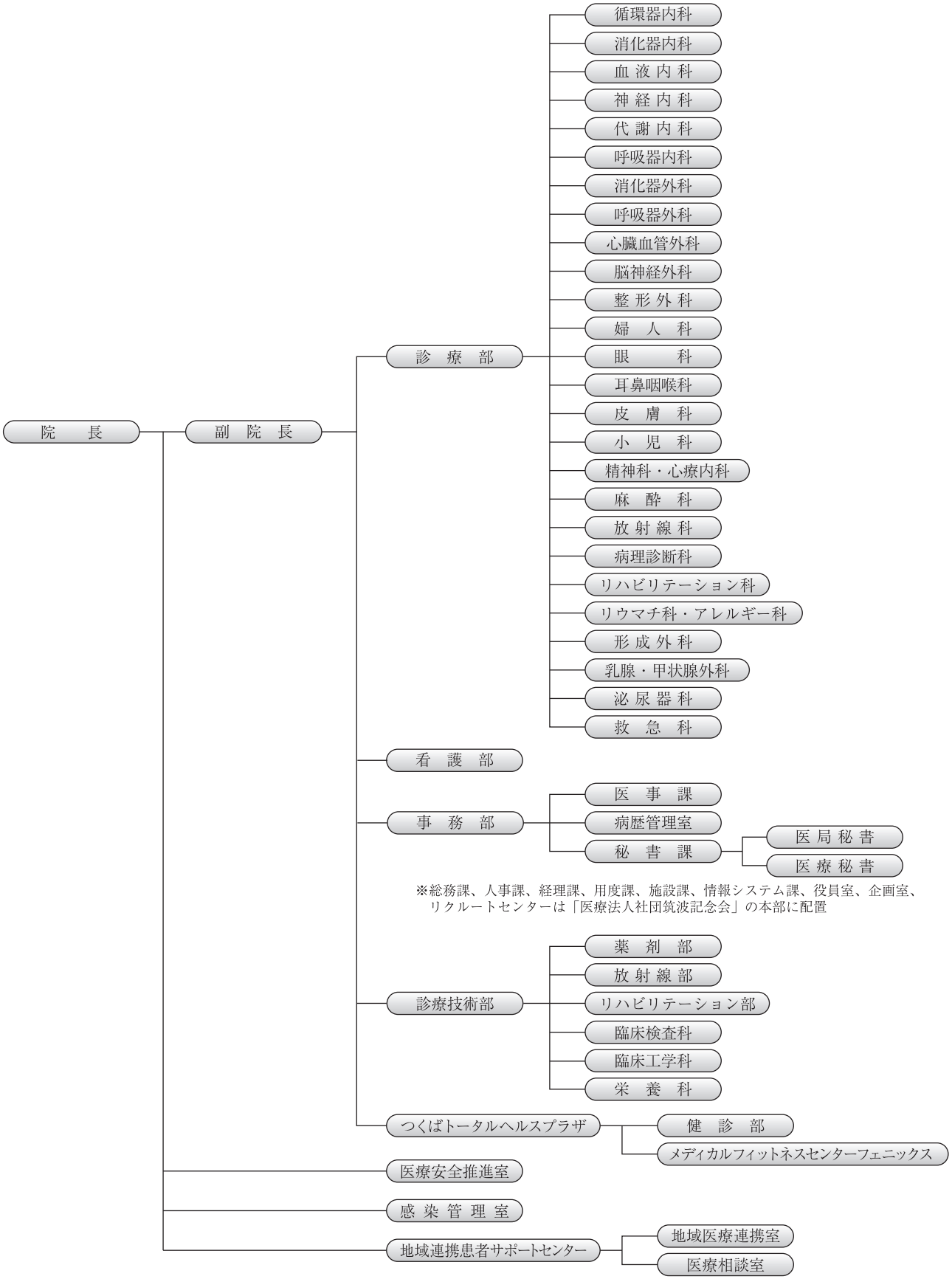
基　本　方　針

1．患者と社会に奉仕する
2．最新、最高の総合医療を提供する
3．患者の権利と意向を尊重する
4．地域の医療・保健・福祉に貢献する
5．地域社会での良好な職場環境を提供する

筑波記念会　組織図



筑波記念病院　組織図


院　長
副　院　長
診　療　部
循環器内科
消化器内科
血 液 内 科
神 経 内 科
代 謝 内 科
呼吸器内科
消化器外科
呼吸器外科
心臓血管外科
脳神経外科
整 形 外 科
婦　人　科
眼　　科
耳鼻咽喉科
皮　膚　科
小　児　科
精神科・心療内科
麻　酔　科
放 射 線 科
病理診断科
リハビリテーション科
リウマチ科・アレルギー科
形 成 外 科
乳腺・甲状腺外科
泌 尿 器 科
救　急　科
看　護　部
事　務　部
医　事　課
病歴管理室
秘　書　課
医 局 秘 書
医 療 秘 書
※総務課、人事課、経理課、用度課、施設課、情報システム課、役員室、企画室、
リクルートセンターは「医療法人社団筑波記念会」の本部に配置
診療技術部
薬　剤　部
放 射 線 部
リハビリテーション部
臨床検査科
臨床工学科
栄　養　科
つくばトータルヘルスプラザ
健　診　部
メディカルフィットネスセンターフェニックス
医療安全推進室
感 染 管 理 室
地域連携患者サポートセンター
地域医療連携室
医療相談室

沿　　革

1982	2	筑波記念病院開設
		保険医療機関指定
	4	生活保護法医療機関指定
	5	第二次救急医療機関指定
	6	労災保険医療機関指定
1983	2	筑波健康推進センター開設
		人間ドック及び健康診断実施
		日本体力医科学研究所開設
1984	8	結核指定医療機関指定
1985	1	託児所「アイビー保育園」開設
1986	1	医療法人社団筑波記念会認可
1987	12	筑波記念病院附属第一病院開設
1989	8	附属第一病院廃止、筑波記念病院に吸収合併
1992	2	中央管理棟完成
	3	在宅介護支援センター開設
	10	つくば訪問看護ステーション開設
1994	11	「つくばトータルヘルスプラザ」、メディカルフィットネスセンター「フェニックス」開設
1996	6	老人デイケア施設「ピンクハウス」開設
1997	7	ホームページ開設
1998	4	老人保健施設「つくばケアセンター（現２号棟）」開所
1999	4	指定居宅介護支援事業所開設
		クリティカルパス導入
	12	難病医療協力病院指定
2000	12	つくば市より事業委託 病後児保育「ピーターパン」開設
2001	3	病児家族宿泊施設「ファミリーハウス」開設
	8	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（一般病院Ｂ（200 床以上））認定取得
	9	茨城県地域リハ・ステーション指定
2002	7	「つくばクリニック（眼科）」開設
	10	茨城県訪問リハビリテーション・ステーション指定
2003	6	地域医療連携室設置
	7	介護老人保健施設「つくばケアセンター」リニューアルオープン
	8	療養病棟「けやき」開設
	11	開放型病院指定
2004	4	臨床研修病院指定
	6	セカンドオピニオン外来開始
	7	DPC（診断群分類・包括評価）開始
	9	回復期リハビリテーション病棟「ひのき」開設
2005	5	外来専門クリニック「筑波総合クリニック」開設
	9	「つくばケアセンター」内に訪問リハビリテーション事業所開設
2006	1	県南スポーツ医科学センター認定
		茨城県地域リハビリテーション研修推進支援センター指定
	9	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（審査体制区分：3）認定更新（ver.5）
2008	4	特定健康診査・特定保健指導機関登録
	5	高機能医療センター開設
2010	7	ドクターヘリ受入開始
2011	1	回復期リハビリテーション病棟リニューアル
	11	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（審査体制区分：3）認定更新（ver.6）
2012	3	「つくばトータルヘルスプラザ」リニューアル
	9	地域医療支援病院　承認
	10	メディカルフィットネスセンター「フェニックス」指定運動療法施設認定
		「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション下妻出張所開設
2013	2	「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション桜川出張所開設
	10	障害者相談支援事業所「かえで」開設
2014	4	筑波記念病院附属「アイビー保育園」新築移転
	5	「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション土浦出張所開設
2015	9	筑波記念病院「Ｓ棟」竣工
2016	4	「つちうらハートクリニック」開設
	8	日本医療機能評価機構認定基準（機能種別版評価項目 3rdG：Ver.1.1）認定更新
2017	1	（主たる機能：一般病院２、副機能：リハビリテーション病院）
	11	DMAT 指定医療機関指定
		筑波記念グループが誕生し、新たに医療法人恵仁会加わる
2018	3	「つちうらハートクリニック」閉院

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

施　設　概　要

筑波記念病院

管理者：長澤　俊郎

〒300-2622　茨城県つくば市要 1187-299　　TEL 029-864-1212　FAX 029-864-8135

ベッド数　487 床　　一般病床：387 床（ICU 8 床　7 対 1 病棟 327 床　回復期リハビリテーション病棟 52 床）

療養病床（医療保険適用）：100 床（療養病棟 51　地域包括ケア病棟 49 床）

標榜科目

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、アレルギー科、リウマチ科、血液内科、心療内科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科、形成外科、小児科、婦人科、精神科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科

基準情報

地域医療支援病院	特定疾患（一般・小児）治療研究機関
ＤＰＣ対象病院	生活保護法第４９条規定医療機関
日本医療機能評価機構 （主たる機能：一般病院 2、副機能：リハビリテーション病院）認定	難病医療協力病院
第二次救急指定病院	原子爆弾被爆者指定医療機関
臨床研修病院指定（基幹型）	自立支援医療機関（精神通院）
茨城県指定地域リハ・ステーション	医療機関検診実施指定病院
労災保険二次健診等給付医療機関	DMAT 指定医療機関

施設基準（基本診療料）

一般病棟入院基本料１（７対 1）	感染防止対策加算１　地域連携加算
療養病棟入院基本料２	患者サポート体制充実加算
診療録管理体制加算２	総合評価加算
医師事務作業補助体制加算２チ（100 対 1）	病棟薬剤業務実施加算１
急性期看護補助体制加算３（50 対 1）	データ提出加算２
看護職員夜間配置加算１ロ（12 対 1 加算 2）	退院支援加算１
療養環境加算	特定集中治療室管理料３
療養病棟療養環境加算１	回復期リハビリテーション病棟入院料１
無菌治療室管理加算１	地域包括ケア病棟入院料１（療養病棟）H29.9 ～
栄養サポートチーム加算	地域包括ケア病棟入院料２
医療安全対策加算１	

施設基準（特掲診療料）

がん性疼痛緩和指導管理料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
開放型病院共同指導料	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
がん治療連携指導料	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術
薬剤管理指導料	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
医療機器安全管理料１	大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法）
在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料	補助人工心臓
持続血糖測定器加算	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
検体検査管理加算（Ⅰ），（Ⅱ）	頭蓋内腫瘤摘出術等
ヘッドアップティルト試験	肺悪性腫瘍手術等
画像診断管理加算１，２	経皮的カテーテル心筋焼灼術
ＣＴ撮影（６４列以上のマルチスライスＣＴ）	靭帯断裂形成手術等
ＭＲＩ撮影（３テスラ以上）	水頭症手術等
心臓ＭＲＩ撮影加算	肝切除術等
冠動脈ＣＴ撮影加算	食道切除再建術等
外来化学療法加算２	胸腔鏡又は腹腔鏡を用いる手術
無菌製剤処理料	人工関節置換術
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを含む。）及び体外循環を要する手術
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	胃瘻造設術
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
がん患者リハビリテーション料	麻酔管理料（Ⅰ），（Ⅱ）
集団コミュニケーション療法料	病理診断管理加算１
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）	

諸指定

日本リハビリテーション医学会研修施設	日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部ステントグラフト実施施設
日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院	日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部ステントグラフト実施施設
日本脳神経外科学会専門医研修（連携）施設 【筑大の連携施設。研究プログラムの１施設】	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本内科学会認定医制度教育関連病院	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
日本整形外科学会専門医研修施設	日本消化管学会胃腸科暫定指導施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	一般財団法人日本作業療法士協会　作業療法士臨床実習指導施設
日本眼科学会認定専門医制度研修施設	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設
日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練機関	日本医療薬学会認定日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
日本内分泌学会認定教育施設	日本医療薬学会認定日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設	日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定基幹施設
日本神経学会専門医准教育施設	呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設
日本消化器病学会認定専門医制度認定施設	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設	植込型補助人工心臓実施施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	茨城県肝疾患専門医療機関
日本呼吸器学会認定施設	茨城県広域スポーツセンター事業協力医療機関
日本血液学会認定血液研修施設	マンモグラフィー検診施設画像認定施設

IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設
公益社団法人　日本理学療法士協会　生涯学習制度（新人研修プログラム）臨床指導施設	日本認知症学会教育施設認定
日本脈管学会認定研修指定施設	茨城県指定地域リハ・ステーション
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設	茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院	茨城県指定小児リハ・ステーション
日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設	茨城県指定訪問リハビリテーション・ステーション
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設	

筑波総合クリニック

院長：飯田　要

〒 300-2622　茨城県つくば市要 65　　TEL 029-877-1221　FAX 029-877-1191

標榜科目

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科、形成外科、小児科、婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、精神科、放射線科

つくばトータルヘルスプラザ

施設長：中原　朗

〒 300-2622　茨城県つくば市要 1187-299　　TEL 029-864-3588　FAX 029-864-8585

諸指定

厚生労働大臣認定健康増進施設	日本脳ドック学会認定脳ドック施設
全国健康保険協会生活習慣病予防健診実施機関	厚生労働省指定運動療法施設
日本総合健診医学会認定優良総合健診施設	日本総合健診医学会及び日本人間ドック学会認定人間ドック健診専門医研修施設
健康評価施設査定機構認定人間ドック・総合健診・特定健診・特定保健指導施設	

介護老人保健施設 つくばケアセンター

管理者：小關　　迪

〒300-2622　茨城県つくば市要 76　　TEL 029-877-1313　FAX 029-877-1334

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション

〒300-2622　茨城県つくば市要 76（介護老人保健施設 つくばケアセンター内）

TEL 029-877-1313　FAX 029-877-1334

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　下妻出張所

〒304-0051　茨城県下妻市小島 695　ブリランテ下妻 105

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　桜川出張所

〒300-4414　茨城県桜川市真壁町椎尾 1632-1

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　土浦出張所

〒300-0812　茨城県土浦市下高津 1-19-33

サービスの種類

介護保健施設サービス（入所）
介護予防短期入所療養介護・短期入所療養介護（ショートステイ）
介護予防通所リハビリテーション・通所リハビリテーション（デイケア）
介護予防訪問リハビリテーション・訪問リハビリテーション

定員等

入所定員	100 名（介護予防短期入所療養介護・短期入所療養介護も含む） 療養室　　個室　12 室、4 床室　22 室
通所定員	40 名（介護予防通所リハビリテーションも含む）

基準情報

生活保護法等指定介護機関
茨城県指定訪問リハ・老健ステーション
全国老人保健施設協会実地研修指定施設

施設基準等

入所

介護保健施設サービス費（Ⅰ）	ターミナルケア加算
サービス提供体制強化加算（Ⅰ）	再入所時栄養連携加算
夜勤職員配置加算	かかりつけ医連携薬剤調整加算
短期集中リハビリテーション実施加算	所定疾患施設療養費
認知症短期集中リハビリテーション実施加算	認知症行動・心理症状緊急対応加算
栄養マネジメント加算	認知症情報提供加算
低栄養リスク改善加算	入所前後訪問指導加算
療養食加算	地域連携診療計画情報提供加算
経口維持加算	褥瘡マネジメント加算
初期加算	排泄支援加算

口腔衛生管理体制加算	施行的退所時指導加算
口腔衛生管理加算	退所時情報提供加算
外泊時費用	退所前連携加算
緊急時治療管理	訪問看護指示加算
在宅復帰・在宅療養支援機能加算	介護職員処遇改善加算（Ⅲ）

短期入所療養介護

介護老人保健施設短期入所療養介護費（Ⅰ）	送迎加算
介護老人保健施設介護予防短期入所療養介護費（Ⅰ）	重度療養管理加算
個別リハビリテーション実施加算	在宅復帰・在宅療養支援機能加算（Ⅰ）
療養食加算緊急	短期入所受入加算
サービス提供体制強化加算	緊急時治療管理
夜勤職員配置加算	認知症行動・心理症状緊急対応加算
介護職員処遇改善加算（Ⅲ）	

通所リハビリテーション

通常規模型リハビリテーション費	サービス提供体制強化加算（Ⅰ）
6時間以上8時間未満の前後延長サービス	介護予防通所リハビリテーション費
リハビリテーション提供体制加算	理学療法士等体制強化加算
入浴介助加算	重度療養管理加算
リハビリテーションマネジメント加算（Ⅰ～Ⅲ）	中重度者ケア体制加算
短期集中個別リハビリテーション実施加算	社会参加支援加算
認知症短期集中リハビリテーション実施加算	運動器機能向上加算
生活行為向上リハビリテーション実施加算	選択的サービス複数実施加算
栄養改善加算	事業所評価加算
口腔機能向上加算	介護職員処遇改善加算（Ⅲ）

訪問リハビリテーション

訪問リハビリテーション費	サービス提供体制強化加算
介護予防訪問リハビリテーション費	社会参加支援加算
短期集中リハビリテーション実施加算	リハビリテーションマネジメント加算(Ⅰ)～(Ⅳ)
事業所評価加算	

協力医療機関

筑波記念病院
筑波総合クリニック
大久保歯科医院

診　療　部　門

循環器内科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

2017 年度、循環器内科には、榎本強志（副院長･循環器内科部長）、井川昌幸（不整脈診療部長）、井藤葉子医師，沼田るり子医師が在籍した。つくばハートセンターには、我妻賢司（つくばハートセンターセンター長）、新居秀郎（循環器内科診療科長･集中治療部科長）、内田靖人（循環器内科診療医長）が在籍した。筑波総合クリニックには、飯田要（同クリニック院長）、飯田啓治（同クリニック副院長）が在籍した。循環器内科は筑波大学附属病院循環器内科関連施設として、筑波大学と連携し、不整脈、虚血性心疾患、心不全、心筋症の診療を行った。つくばハートセンターでは虚血性心疾患、末梢動脈疾患を中心に診療を行った。

虚血性心疾患部門での PCI 件数は 185 件と前年より減少した。不整脈部門での経皮的カテーテル心筋焼灼術は 85 件、ペースメーカー移植は 23 件と前年を若干上回った。

平均在院日数は虚血性心疾患、不整脈は 14 日以内であるが心不全は 34.3 日と 14 日を超えた。

学会発表は前年同様に積極的に行えた。

2．2018 年度の課題・目標

虚血性心疾患部門での PCI の件数はここ数年伸び悩んでいる。病院外来のみでの新規患者の獲得は困難であり，近隣協力診療所からの紹介患者の獲得に力を注ぎ，昨年と同等の件数を維持できるよう努力していきたい。不整脈部門でも近隣協力診療所からの紹介患者を増やせるよう努力したい。心不全治療の平均在院日数の短縮を図るべく治療内容の見直しを行いたい。学会発表は今後も積極的に行う方針である。

［文責：榎本強志］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
小關　迪	会長・総院長	常（HP）
飯田　要	筑波総合クリニック管理者	常（CL）
飯田　啓治	筑波総合クリニック副院長	常（CL）
榎本　強志	副院長・循環器内科診療部長	常（HP）
我妻　賢司	つくばハートセンター長	常（HP）
井川　昌幸	不整脈診療部長	常（HP）
新居　秀郎	循環器内科診療科長・集中治療部科長	常（HP）
内田　靖人	循環器内科診療医長	常（HP）
井藤　葉子		常（HP）
沼田るり子		常（HP）
垣花　昌明	つちうらハートクリニック管理者	常（HC）
青沼　和隆		非（HP）
永井　直		非（HP）
朴　要俊		非（HP）
芳賀　厚子		非（HP）
長谷川純郎		非（HP）
宮内　卓		非（CL）

【手術件数】

分　類	件　数
経皮的冠動脈ステント留置術	175
経皮的カテーテル心筋焼灼術	85
ペースメーカー移植術	23
経皮的冠動脈形成術	10
その他の手術	9
総手術件数	302

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	301	6.1
050130	心不全	151	34.3
050070	頻脈性不整脈	125	9.6
050030	急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞	38	16.6
040081	誤嚥性肺炎	32	48.1

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2,673	2,583	2,582	2,615	2,715	2,514	2,645	2,496	2,603	2,645	2,578	2,649	31,298

消 化 器 内 科

【総括】

1．2017 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①2017年度の当科入院のべ患者数は18,675、新入院患者数1,091、外来受診者数25,734であり、前年の2016年度とほぼ同規模であった。

②内視鏡診療では、胃内視鏡施行数4,337件という過去最高の実績を達成した。検診業務での胃透視判定にて胃カメラが必要との指示を受けた場合、予約検査ではなく外来受診日に可能な限り即日内視鏡検査が実施できるように取り組んだ成果である。なお大腸内視鏡検査2,138件およびERCP検査277件も、過去最高数であった。2015年8月に稼働を開始した「内視鏡センター」の運営が軌道に乗りつつあると考える。

③学会での発表は、岩井健太郎医師が日本消化器内視鏡学会（大阪）にて、越智大介医師が日本消化器病学会（福岡）にて、それぞれ「主題」で講演したことが特筆に値する。当科をローテーションした研修医の学会発表についても、これまで同様に安定した指導が実施できた。

④論文執筆では、池澤が日本肝臓学会雑誌へ症例報告を上梓した（筆頭著者）。また、自治医科大学岡本教授との協同研究の成果であるE型肝炎に関する臨床データを「Virology」誌へ投稿し掲載された（共同著者）。

⑤学会専門医関係では、小林真理子医師が「日本内科学会・総合内科専門医」を取得した。

2．2018 年度の課題・目標

①来年度は内視鏡業務の更なる拡充を図り、胃内視鏡4500件および大腸内視鏡2500件をそれぞれ目標とする。2017年度の課題であったが未達成となった消化管悪性腫瘍に対するESD100件、ERCP年間300件をクリアするように努力していく。

②病-診連携・病-病連携の強化をさらに推進する。具体的には、紹介患者数年間1000例を目指し（2016年度：927例、2017年度：970例）、今以上に多くの紹介患者さんを受け入れられるような体制への整備を図る。

［文責：池澤和人］

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	116	16.1
060020	胃の悪性腫瘍	96	20.1
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	53	29.9
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	46	18.6
060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	45	9.5
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	44	25.5
060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	42	34.5
060350	急性膵炎	40	19.7
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	37	17.4
150010	ウイルス性腸炎	37	6.2

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
池澤　和人	副院長・消化器内科診療部長	常（HP）
添田　敦子	消化器内科診療科長・化学療法部長	常（HP）
大塚公一朗		常（HP）
越智　大介	消化器内科診療医長・内視鏡センター長	常（HP）
小林真理子		常（HP）
岩井健太郎		常（HP）
萩原　悠也		常（HP）
中原　　朗	つくばトータルヘルスプラザ施設長	常（HP）
設楽佐代子	消化器内科診療科長	常（HP）
本橋　　歩	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	常（HP）
山田　武史		非（CL）
新里　悠輔		非（CL）
山浦　正道		非（CL）
白石　貴久		非（HP）
山本　祥之		非（HP）
杉山　弘明		非（HP）
水井　恒夫		非（HP）
福田由紀子		非（HP）
中森　　容		非（HP）

【手術件数】　※ ESD は除く

名　称	件　数
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	742
内視鏡的胆道ステント留置術	146
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ切除術	58
内視鏡的乳頭切開術	57
内視鏡的胆道結石除去術	43
内視鏡的消化管止血術	42
結腸内視鏡的止血術	27
下部消化管ステント留置術	17
内視鏡的膵管ステント留置術	17
胃瘻造設術	16
大腸 ESD	15
食道・胃静脈瘤結紮術・硬化療法	14
内視鏡的食道・胃内異物摘出術	9
その他の手術	46
総計	1249

【内視鏡検査数】

上部消化管内視鏡検査	総数	4337
	（経口）	3929
	（経鼻）	234
治療内視鏡	食道 ESD	3
	胃 ESD	50
	胃 EMR	8
	EVL	14
	止血術	42
	胃瘻造設・交換	36
	異物摘出術	9
	胃、十二指腸ステント留置術	8
	胃・十二指腸狭窄拡張術	4

下部消化管内視鏡検査	総数	2138
治療内視鏡	ESD	15
	EMR	742
	止血術	27

ERCP	総数	277
治療内視鏡（重複あり）	EST	56
	EPBD	22
	ステント留置	163
	砕石除去術	42

全内視鏡検査総数	6752

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,868	1,968	2,216	2,219	2,135	2,231	2,194	2,074	2,367	2,124	2,095	2,243	25,734

血　液　内　科

【総括】

2017年度は医師7人態勢であったため入院・外来患者数は多めであり、病棟のベッド稼働率も高かった。ただし、平均在院日数が20日を超えたところは改善すべきであると考える。学術業績については不振であり、学会発表は内科学会地方会の一演題のみであった。

2018年度は常勤医が一名減って6名となるため患者数は減少するものと思われるが、今年度も他院からの御紹介は原則としてすべてお受けする方針は堅持したいと考える。在院日数については、他科に比べて長いところがこれまでも問題とされており、短縮が求められている。SWと連絡を取りながら短縮に努めたい。学術業績については、初期研修医になるべく多く学会を経験してもらうために今年度は日本内科学会地方会で3件の演題提出を予定している。また、日本血液学会総会に1演題、学術論文提出を一本予定している。当院ではこれまで少数ではあるが臍帯血移植を行ってきた。昨年日本造血幹細胞移植学会の施設認定基準が厳格化されたことにより、残念ながら2017年度をもって当院は移植認定施設の資格を返上することとなった。今後は同種移植症例の多くは筑波大学に依頼することとなる。バンクを介さない自家移植と同胞間移植については引き続き症例があれば実施する方針である。

［文責：佐藤祐二］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
長澤　俊郎	管理者・院長	常（HP）
佐藤　祐二	副院長・血液内科診療部長	常（HP）
長山　人三		常（HP）
鈴木　幸恵		常（HP）
田岡　謙一	血液内科診療医長	常（HP）
福田　匡芳	血液内科診療医長	常（HP）
一色　雄裕		常（HP）
小松　恒彦		非（HP）
小原　　直		非（HP）
坂本　竜弘		非（HP）
福本　浩太		非（HP）
真家紘一郎		非（HP）
丸山ゆみ子		非（HP）
助川慎一郎		非（HP）
小林　一彦		非（CL）
石塚幹太郎		非（CL）

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
130030	非ホジキンリンパ腫	208	24.2
130060	骨髄異形成症候群	108	22.6
130040	多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物	69	32.5
130010	急性白血病	65	32.9
040080	肺炎等	41	30.2

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
703	810	794	845	893	816	853	752	835	945	869	831	9,946

神　経　内　科

【総括】

1．病棟診療

常勤医１人体制であり、前年度と同様に長期療養病棟への他院からの転院及び急性期病棟から転棟する症例の一部と回復期リハビリテーション病棟を主に担当した。

てんかん、内科疾患に伴う神経系障害等の急性期病棟の入院は他科に担当していただき、神経内科で併診する形式を継続させていただいた。

2017 年度の入院診療数と疾患内容は次のようになった。

神経内科入院患者数は 25 名、他科からのコンサルテーションは 121 件であった。 コンサルテーション疾患内容は内科疾患に伴う神経系障害（25%）、てんかん（16%）、パーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、認知症（6%）、感染性疾患＜脳炎・髄膜炎・ギランバレー症候群＞（6%）であった。

高度な専門的治療が必要な急性期神経内科疾患は、適切な診療体制の医療機関へ紹介した。

他院からの転入院依頼は、看護部、地域医療連携室、リハビリテーション部と共に定期的に判定会議を行なった。

前年度に比べて主担当入院患者数、併診総数が増加した。特にてんかん症例が増加した。

2．外来診療

神経内科専門外来（年間 4223 人、月平均 351 人）では、神経変性疾患（パーキンソン病、多系統萎縮症、運動ニューロン疾患、認知症）、末梢神経障害、てんかんを始めとする神経内科疾患全般を診療した。

3．学術、教育活動

第 58 回日本神経学会学術大会において２題発表し、これまでの発表を論文にした。

また、日本神経学会準教育施設として、コンサルテーションを通じて初期研修医の診療指導を随時行なった。

4．次年度へ向けて

総合病院の神経内科であり、神経疾患だけでなく他科疾患に伴う神経障害を含む全般的診療が必要とされる。

可能な限り高い専門性を維持する。他院からの療養病棟への専門領域疾患の転入院依頼は、看護部、地域医療連携室と連携し、現在の体制で対応できる症例を受け入れるよう努力する。これらを次年度の目標とする。

［文責：星野幸子］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
星野　幸子	神経内科診療医長	常（HP）
白岩　伸子		非（CL）
寺田　　真		非（CL）
三宅　善嗣		非（CL）

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
010170	基底核等の変性疾患	12	47.2
010069	脳卒中の続発症	4	655.8
161040	損傷の続発性後遺症	3	20.0
010160	パーキンソン病	2	28.5
010050	非外傷性硬膜下血腫	1	66.0
010060	脳梗塞	1	105.0
010111	慢性炎症性多発根神経炎	1	90.0
040081	誤嚥性肺炎	1	207.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
369	348	405	363	361	357	356	304	375	315	312	358	4,223

代　謝　内　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

病棟診療は常勤医３名、病棟入院再開３年目となったが、糖尿病治療の進歩により、経口糖尿病薬が多岐にわたり外来治療の可能性が広がったこと、インスリン注射の製剤やデバイスの改良により外来インスリン導入が容易となったことより入院患者数は伸び悩んだ。糖尿病教育入院数の増加につながらなかったことも要因として考えられる。但し、病棟で他科からのコンサルテーションにより併診にて糖尿病の血糖コントロールを行う患者数は年間 200～300 例となっており、他科入院中患者の糖尿病コントロールに寄与し、退院後の外来診療継続につながっている。

外来診療は、毎月 1000 例前後の患者数で推移しているが、高齢化による糖尿病をはじめとする慢性疾患患者数の増加により、代謝内科外来予約患者枠がどの曜日もほぼ満員の状態である。24 時間持続血糖測定を在宅で行う CGM 外来は、自己血糖測定の補正が不要な機器に変更したことにより、より簡便に検査可能となり、受診患者数が増加した。また穿刺による血液採取不要な自己血糖測定 FGM も導入し、より簡便に厳密な血糖コントロールが可能となった。

教育・研究は、今年度より初期研修医を毎月定期的に受け入れを開始し、昨年度の２名から 11 名に増加した。代謝内分泌疾患の診断、加療のための基礎知識および実際の治療技術の指導を行なった。学会発表３件、研究会発表６件行なった。

2．2018 年度の課題・目標

①４月より常勤医１名増員予定であり、積極的に入院患者を受け入れ、入院及び外来患者数120％の増加に努めたい。

②初期研修医および後期研修医の指導を継続し、当分野に興味をもち将来専門医となる人材の育成、症例報告および研究業績の発表に努める。

［文責：藤田利枝］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
藤田　利枝	代謝内科診療部長	常（HP）
藤原　　淳	代謝内科診療医長	常（HP）
片山　暁子		常（HP）
山下亀次郎		非（CL）
松島　照彦		非（CL）
竹越　一博		非（CL）
石垣　直美		非（CL）
松田ひとみ		非（CL）

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
010060	脳梗塞	2	41.5
010061	一過性脳虚血発作	1	9.0
030390	顔面神経障害	1	7.0
030400	前庭機能障害	2	3.0
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	1	56.0
040080	肺炎等	4	18.7
040081	誤嚥性肺炎	6	44.0
050130	心不全	3	34.3
050140	高血圧性疾患	1	7.0
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	1	5.0
060335	胆嚢水腫、胆嚢炎	1	20.0
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	1	9.0
080011	急性膿皮症	4	17.8
100040	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡	15	29.1
100060	１型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全なし。）	5	15.3
100070	２型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全なし。）	48	19.2
100071	２型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全あり。）	17	22.6
100080	その他の糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全なし。）	6	42.5
100100	糖尿病足病変	5	53.0
100140	甲状腺機能亢進症	5	13.2
100180	副腎皮質機能亢進症、非機能性副腎皮質腫瘍	3	4.7
100210	低血糖症	5	22.6
100220	原発性副甲状腺機能亢進症、副甲状腺腫瘍	1	6.0
100285	ＡＤＨ分泌異常症	1	14.0
100380	体液量減少症	5	28.2
100391	低カリウム血症	1	26.0
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	1	12.0
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	1	32.0
110290	急性腎不全	2	24.0
110310	腎臓または尿路の感染症	3	16.7
150010	ウイルス性腸炎	2	5.5
160610	四肢筋腱損傷	1	17.0
180010	敗血症	1	7.0
100160	甲状腺機能低下症	1	50.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,123	1,042	1,158	1,003	1,111	1,075	1,007	1,041	1,192	1,103	1,070	1,156	13,081

呼　吸　器　内　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

呼吸器内科は、2015 年 4 月から入院診療を開始し、2017 年度で 3 年目となった。肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺癌、間質性肺炎などの入院・外来診療を行った。藤原啓司医師、大塚茂男医師、渡邉裕子医師、折居美波医師、大塚盛男が常勤医師として、病院・クリニックの診療に従事し、松野洋輔医師が筑波大学呼吸器内科からの非常勤医師としてクリニックの診療に従事した。常勤医師数が 1 名増加したこともあり、クリニックの外来診療日を 1 日増やした。新入院患者数は年間 325 名で、昨年度より 26 名増加し、一般病床と療養病床を合わせた入院延べ患者数は年間 8,768 名で、昨年度に比べ 3,541 名増加した。病院・クリニックの外来受診者は年間 5,774 名で、昨年度より 178 名増加した。

気管支内視鏡検査や局所麻酔下胸腔鏡検査は呼吸器外科医師の協力を得て行った。気管支内視鏡検査は 17 件、局所麻酔下胸腔鏡検査は 2 件実施した。

2．2018 年度の課題・目標

2017 年度は常勤医師数が 1 名増加したが、入院患者数も 3 年連続で増加し、特に年間の延べ入院患者数が著明に増加したため、常勤医師の負担は増加した。通常の肺炎と誤嚥性肺炎を合わせた患者数が全体の約 40% を占め、特に 2016 年度に比べ誤嚥性肺炎の患者数が大幅に増加し、通常の肺炎との比率が逆転した。肺癌、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など、専門的対応の必要な疾患の患者数も増加傾向にあり、それらに対する診療を充実させるためにも、誤嚥性肺炎患者の診療は他の内科系診療科の協力が不可欠である。2018 年度は常勤医師が 1 名減少したため、昨年度以上に入院患者数を増やすことは困難であり、専門的対応が必要な疾患への対応の充実も容易ではないため、さらなる入院患者の疾患分布の見直しが必要である。また、より高度な医療を要する患者の診療は、筑波大学附属病院等の呼吸器内科と連携して行う必要がある。

［文責：大塚盛男］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
大塚　盛男	呼吸器センター長	常（HP）
折居　美波		常（HP）
渡邉　裕子		常（HP）
藤原　啓司		常（HP）
大塚　茂男		常（HP）
松野　洋輔		非（CL）

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
040081	誤嚥性肺炎	83	44.0
040040	肺の悪性腫瘍	70	15.0
040080	肺炎等	52	25.1
040110	間質性肺炎	24	40.6
040120	慢性閉塞性肺疾患	26	19.0

【外来件数】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
464	480	515	496	483	460	472	465	439	546	468	486	5,774

消　化　器　外　科

【総括】

1．概要

地域のニーズに幅広く応えるべく、救急を含めた腹部消化器疾患に対する外科手術を担当している。消化管穿孔（胃・十二指腸・小腸・大腸）、急性虫垂炎、絞扼性腸閉塞、ヘルニア嵌頓（鼠径／大腿／閉鎖孔など）、外傷による腹腔内臓器損傷などに対しては緊急手術にて対応し、悪性疾患（胃癌・大腸癌・肝臓癌・胆道癌など）や良性疾患である胆石症、ヘルニアなどに対しては待機的な予定手術にて対応している。

2．診療方針

地域から信頼される外科診療の確立を基本方針としており、幸い直接受診される患者さんに加え、近隣の開業医の先生方から多くの紹介を頂いている。

また、院内の消化器内科・放射線科などの各科との密な連携を図り、手術治療のみならず、患者さんの病状に即した幅広い治療の選択を心掛けている。

3．外来診療

1年間の延べ外来患者総数は、概ね例年通り推移している。

4．手術件数

近年、早期の胃癌・大腸癌に対する内視鏡的治療が確実に進歩していることから、この領域において手術適応となる件数は減少傾向にあり、特に胃癌症例において顕著であった。

1年間の手術総数は412件であり、救急を含めた紹介による手術症例数が確保されている。

5．学術活動

数編の論文発表を予定している。

6．次年度に向けて

標準手術を確実に施行することを継続すると共に、腹腔鏡下手術については、安全性に充分な配慮を置きつつ、適応を拡大している。

［文責：坂本俊樹］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
齋藤　　節	大腸外科センター長	常（HP）
坂本　俊樹	副院長	常（HP）
松井　　聡	副医局長・消化器外科診療部長	常（HP）
佐々木量矢	消化器外科診療医長	常（HP）
井関　陽平		常（HP）
小田　竜也		非（HP）
下田　　貢		非（CL）
山口　雄司		非（CL）

【手術件数】

分　　類	件　数
ヘルニア手術（鼡径、大腿など）	92
腹腔鏡下胆嚢摘出術	53
虫垂切除術	42
胆嚢摘出術	33
結腸切除術（悪性腫瘍手術）	32
胃切除・全摘術（悪性腫瘍手術）	28
直腸切除術（悪性腫瘍手術）	16
人工肛門造設術	10
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	9
直腸腫瘍摘出術	3
その他の手術	94
総計	412

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	98	13.4
060040	直腸肛門（直腸Ｓ状部から肛門）の悪性腫瘍	91	16.4
060160	鼠径ヘルニア	76	6.4
060150	虫垂炎	62	10.3
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	56	27.4
060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	50	18.4
060020	胃の悪性腫瘍	40	24.4
060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	24	15.6
060330	胆嚢疾患（胆嚢結石など）	17	9.8
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	15	12.7
060190	虚血性腸炎	12	13.2

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
806	868	950	850	913	867	862	768	848	759	740	737	9,968

呼　吸　器　外　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

①2017年度の当科総手術件数は74件で、昨年度よりわずかながら増加した。

内訳としては、原発性肺癌の手術件数が24件と昨年度の15件より大幅に増やすことができたことは喜んでいる。

②入院患者数は229人と昨年度の206人より23人増加した。

平均在院日数は12.0日であった。

筑波記念病院・筑波総合クリニックを合わせた外来患者数は4676名であった。

③気管支鏡検査件数は55件で、これも昨年度の41件と比較して増加した。

④学術活動としては、第34回日本呼吸器外科学会総会、第58回日本肺癌学会学術集会で1例ずつ発表を行った。

2．次年度目標

2017 年度は手術件数、検査件数、延べ入院患者数とも前年度を上回ったが、外来患者数は昨年度（4893 名）、一昨年度（5114 名）と比較し、残念ながら減少傾向が続いている。更なる飛躍のためには外来患者数の増加が不可欠と考えている。健診・ドック等で胸部異常陰影要精査で受診される患者様や、近隣のクリニック・病院の先生方から御紹介いただいた患者様に対しては、また当科を選んでいただけるように迅速かつ丁寧な診療を継続してゆきたい。

［文責：木村正樹］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
神山　幸一	副院長・医局長・手術室室長	常（HP）
木村　正樹	呼吸器外科診療部長	常（HP）
河村　知幸		非（HP）
中岡浩二郎		非（HP）

【手術件数】

分　　類	件　数
原発性肺癌	24
転移性肺腫瘍	4
自然気胸・嚢胞性肺疾患	13
良性肺腫瘍	3
縦隔腫瘍	4
胸膜疾患	3
縦隔リンパ節生検	3
体表リンパ節生検	8
気管切開術	1
皮下腫瘍摘出術	1
中心静脈静脈ポート植え込み	3
心嚢ドレナージ	2
乳腺腫瘍	4
その他	1
総計	74

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
040040	肺の悪性腫瘍	117	12.3
040200	気胸	28	9.6
090010	乳房の悪性腫瘍	9	28.7
160400	胸郭・横隔膜損傷	7	26.9
040030	呼吸器系の良性腫瘍	6	8.8
040020	縦隔の良性腫瘍	5	6.8
160450	肺・胸部気管・気管支損傷	4	7.0
090020	乳房の良性腫瘍	3	3.3
040050	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	1	6
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	1	20
040190	胸水、胸膜の疾患（その他）	1	10
040230	血胸、血気胸、乳び胸	1	6

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
369	368	442	432	405	415	367	408	378	350	351	391	4,676

心　臓　血　管　外　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①2017年度の手術患者数は昨年と同様、茨城県内トップクラスを維持している。

②無駄のない正確かつスピーディーな低侵襲手術および最先端の心筋保護法の導入、INVOS、術中リアルタイム三次元経食道エコーの導入、心臓血管外科コーディネーターの導入、心臓リハビリテーションの積極介入など様々な新しい取り組みを行っている。また、手術の低侵襲化に関しても積極的に取り組んでおり、患者の年齢、状態に応じたベストな治療を選択するようにしている。

③学会活動としては全国学会をはじめ多くの学会にて報告、発表を行っている。

④論文執筆では、8編の論文が掲載された。学術活動を含めた、修練医および学生の指導を積極的に行っている。

2．2018 年度の課題・目標

今後も 24 時間 365 日迅速に対応する体制を維持し、循環器内科とともに北関東の心臓血管外科治療の拠点として地域の患者様に貢献していけるように診療を継続していく。

［文責：森住 誠］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
末松　義弘	統括診療部長	常（HP）
森住　　誠	心臓血管外科診療部長・集中治療部科長	常（HP）
吉本　明浩	心臓血管外科診療医長	常（HP）
藤﨑　正之		常（HP）
倉橋　果南		常（HP）
西　　智史		常（HP）
清水　隆玄		常（HP）
藤原　彩織		常（HP）
松岡　貴裕		非（HP）
李　　洋伸		非（HP）
岡村　賢一		非（HP）
岩井　武尚		非（CL）
井上　堯文		非（CL）

【手術件数】

分　　類	件　数
下肢静脈瘤手術	126
ステントグラフト内挿術	99
胸腔鏡下左心耳切除術	45
冠動脈、大動脈バイパス移植術	36
大動脈瘤切除術	33
弁置換・形成術	23
血管移植、バイパス移植術	15
その他の手術	54
総計	431

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
050180	静脈・リンパ管疾患	131	3.1
050161	解離性大動脈瘤	81	15.1
050163	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	79	12.5
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	68	9.7
050070	頻脈性不整脈	54	6.0
050080	弁膜症（連合弁膜症を含む。）	48	11.0
050170	閉塞性動脈疾患	21	8.8
050130	心不全	13	18.7
180040	手術・処置等の合併症	11	17.4
050030	急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞	8	19.4

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
393	429	501	496	458	501	518	530	492	514	439	502	5,773

脳　神　経　外　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

脳神経外科の新入院患者数は 2015 年 4 月に新体制に代わって以降、毎年増加しており、本年度は 600 人を越えた。手術件数は 180 件で、クリッピングが 37 件、CEA が 12 件と増加し、血管内治療も 27 件と増加した。急性期血栓回収療法も、大学脳卒中グループとのハングアウトの活用もあり、11 件まで増加した。脳動脈瘤、特に頚動脈狭窄病変についてはガイドラインを遵守して治療適応を決定している。平成 29 年 1 月からは血管撮影装置を PHILIPS 社製の Allura Crality に更新され、診断治療精度が向上した。当院では経験や技量に応じて血管障害の直達手術、特にクリッピングやバイパス、CEA の研修ができる体制が整いつつあり、さらに血管内治療を含む脳卒中診療の研修が可能となっている。学術的には研修医を中心に論文の作成指導を行い、昨年度は 2 本のケースレポートがアクセプトされた。学会発表は脳卒中関連の全国学会を中心に、論文作成を見据えつつコンスタントに発表をおこなっている。

2．2018 年度の課題・目標

2018 年度の目標としては、実働 4 人の体制で年間 180 件の手術を維持していく。脳卒中入院患者数や手術件数の増加に伴い、急性期病棟だけでなく回復期や療養病棟には脳神経外科で常時 80 名程度の入院患者がおり、手術以外の日常業務や救急外来の対応で忙殺されることが多く、今後の院内診療体制の整備が課題である。引き続き、筑波大学附属病院や筑波メディカルセンター病院と連携し、つくば市と周辺地域の脳卒中診療に寄与できるよう取り組んでいきたいと思う。

［文責：中村和弘］

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
010060	脳梗塞	198	47.6
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	63	33.7
010040	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	50	66.5
010030	未破裂脳動脈瘤	41	12.8
010050	非外傷性硬膜下血腫	40	24.9
010070	脳血管障害	28	17.9
010061	一過性脳虚血発作	22	5.9
010020	くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	21	85.9
010230	てんかん	19	8.5
010200	水頭症	18	24.3

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
小林　栄喜	筑波総合クリニック名誉院長	常（CL）
谷中　清之	脳卒中センター長	常（HP）
中村　和弘	脳神経外科診療部長	常（HP）
赤星　　南		常（HP）
岩元　博史		常（HP）
小沼　邦之		常（HP）
鯨岡　裕司		非（HP）
佐藤　博明		非（CL）
三原　忠紘		非（CL）
滝川　知司		非（CL）

【手術件数】

分　類	件　数
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2 以上4 未満）	1
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径４ 以上）	1
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3 以上6 未満）	1
脊椎固定術（前方椎体固定）	1
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓切除）	3
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）	4
穿頭脳室ドレナージ術	13
穿頭術（トレパナチオン）	1
減圧開頭術（その他）	1
頭蓋内微小血管減圧術	4
頭蓋内血腫除去術（開頭して行うもの）硬膜外のもの	1
頭蓋内血腫除去術（開頭して行うもの）脳内のもの	1
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	44
定位的脳内血腫除去術	1
頭蓋内腫瘍摘出術（その他のもの）	10
脳動静脈奇形摘出術	1
水頭症手術　シャント手術	12
髄液シャント抜去術	3
脳動脈瘤流入血管クリッピング（開頭して行うもの）1箇所	2
脳動脈瘤流入血管クリッピング（開頭して行うもの）２箇所以上	1
脳動脈瘤頸部クリッピング（１箇所）	32
脳動脈瘤頸部クリッピング（２箇所以上）	4
脳血管内手術（１箇所）	5
脳血管内手術（脳血管内ステント）	1
経皮的脳血栓回収術	9
髄液漏閉鎖術	1
頭蓋骨形成手術（頭蓋骨のみ）	1
神経縫合術（指（手・足））	1
脊髄ドレナージ術	7
重症痙性麻痺治療薬髄腔内持続注入用植込型ポンプ設置術	1
気管切開術	3
動脈血栓内膜摘出術（内頸動脈）	11
経皮的頸動脈ステント留置術	4
動脈形成術、吻合術（頭蓋内動脈）	3
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）止血術	1
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）その他	1
総計	191

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,667	1,549	1,658	1,557	1,653	1,463	1,651	1,506	1,650	1,489	1,398	1,677	18,918

整　形　外　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

10 年前と比較して、交通事故による骨折･脱臼、高齢者の大腿骨頚部骨折とも明らかに減少している。飲酒規制･罰則の強化による交通事故の減少、骨粗鬆症治療の進歩が要因と考える。これにより外傷に対する手術は減少したが、紹介を含めた筑波総合クリニックからの待機手術は年々増加傾向にある。この 10 年の変化に対応できた当院は、1 年を通して安定した手術件数を維持できる状態になっている。

新入院患者数は 2016 年度と比較して増加したが、入院延べ患者数は減少した。平均在院日数を 21.4 日から 19.9 日に減少させた影響と考える。

筑波総合クリニックの外来は 2015 年度から予約制としたが、2017 年度も外来患者数は減少しなかった。医師 1 人あたり 8 人／日の新患枠を設け、夜間･休日に救急外来を受診された患者･紹介患者･他科からのコンサルテーション患者に加えて、かかりつけで急性発症の患者は予約外でも受診できるように対応しているためと考える。

手術に関しては、これまで同様に筑波大学整形外科の三島准教授（股関節）・金森講師（膝関節）が週に 2 ～ 3 日非常勤医師として外来及び手術に来てくださり、関節を専門とする兵頭医師・長谷川医師が常勤として勤務していたこともあり、人工股関節全置換術（人工骨頭置換術を含む）が 153 件／年（昨年度 170 件）・人工膝関節全置換術が 108 件／年（昨年度 85 件）･膝関節の鏡視下手術が 95 件／年（昨年度 97 件）と、引き続き県内トップレベルの件数を達成した。脊椎手術も、相野谷・箱岩医師に加えて脊椎を専門とする蒲田医師が赴任したことで、県内の他施設では行われていない脊椎矯正固定術等の長時間手術を継続した上で、手術件数が 138 件／年（昨年度 110 件）と増加した。

2．2018 年度の課題・目標

筑波総合クリニックからの待機手術・外傷等の緊急手術は毎月安定して行えているが、回復期及び療養病棟 30 ～ 35 床を維持し、平均在院日数を 20 日以内に抑えた上で、急性期病棟 52 床の利用率を 90% 以上で維持するのはなかなか大変である。今年度も回復期及び療養病棟 30 ～ 35 床を維持し、急性期病棟 52 床の平均利用率を 85% 以上（できれば 90% 以上）で維持できるように努力する。

外傷全般は減少しているものの、基本的に保存的治療を選択し、入院が長期化する高齢者の脊椎椎体骨折・化膿性脊椎炎の患者数は相変わらず多く、肺炎・尿路感染・心不全等の合併症に悩まされることが多々ある。当科の医師・病棟スタッフが疲弊して病棟運営が悪化しないよう、当科的に対応しきれない状態の患者を内科が主科となって診てくださる状態を期待したい。

関節の手術は、今年度同様に県内トップレベルの件数を維持する。

脊椎に関しては、蒲田医師が赴任したことで、脊椎矯正固定術等の長時間手術を継続した上で、手術件数を増やすことができた。蒲田医師は昨年度末で異動となったが、今年度も同水準の手術件数を維持したいと考える。

そして、手術が必要な患者をさらに紹介していただけるように、他病院の先生方に信頼していただけるような医療をしていきたい。

最後に、筑波総合クリニックの外来は 1 日に診ることができる患者数の限界に達している曜日もあるが、当院の未来を考慮すると、研究学園地区に転居されてきた若年・中年層の患者が当院を受診してくださるよう、何らかの対策をとる必要があると考えている。

［文責：相野谷武士］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
相野谷武士	整形外科診療部長	常（HP）
箱岩　篤生	整形外科診療科長	常（HP）
長谷川隆司		常（HP）
蒲田　久典		常（HP）
安永　将太		常（HP）
淺川　俊輔		常（HP）
猪股　兼人		常（HP）
向井　直樹		非（CL）
金森　章浩		非（CL）
三島　　初		非（CL）
谷口　　悠		非（CL）
兵頭康次郎		非（CL）

【手術件数】

分　　類	件　数
人工股関節置換術（人工骨頭挿入術）	153
四肢骨折接合術	139
脊椎（頚椎、胸椎、腰椎）手術	138
人工膝関節置換術（人工骨頭挿入術）	108
脱臼非観血的整復術	41
関節鏡下半月板切除術	40
靱帯断裂形成手術	39
関節内骨折手術	22
関節滑膜切除術	16
その他の手術	244
総計	940

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む。）	126	27.8
070230	膝関節症（変形性を含む。）	117	28.1
160620	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む。）	106	8.8
160800	股関節大腿近位骨折	91	65.5
070343	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）　腰部骨盤、不安定椎	66	34.8
160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	61	52.9
070341	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）　頸部	34	31.9
160820	膝関節周辺骨折・脱臼	18	88.8
160835	下腿足関節周辺骨折	18	36.5
160850	足関節・足部の骨折、脱臼	16	22.5

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2,287	2,271	2,647	2,446	2,598	2,505	2,266	2,265	2,590	2,265	2,190	2,700	29,030

婦　人　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

1）クリニック外来に関して

今年度の外来体制の変化としては、手術日の午前外来の終了を 30 分繰り上げたこと（筑波大に派遣依頼している手術介助医がなるべく定時に帰院できるように手術開始時間を早めたため）、土曜午後外来を担当医の事情により閉鎖したことがあり、それによる受診可能者数減をカバーするため、平日の外来開始時間を 30 分繰り上げ、週２回午後外来枠を増設した。その影響効果がどの程度あったのかは判断しかねるが、受診者数自体はほぼ前年度並みとなった。なるべく速やかに予約が取れるよう、以前から行っていた、医師専用枠に余裕がある際に１～２週前の段階でオープン枠に切り替える対策は引き続き行っており、当日に無駄な空きがほぼない状態となっている。

また新たに開設した午後枠も、認知度の問題もあるかもしれないが、午前外来よりは予約が取りやすい状態となっており、早く受診したいというニーズの受け皿となっているように思う。

外来受診者数は手術件数に直結するため、なるべく効率よい運営ができるよう、引き続き努力したい。

2）手術件数に関して

今年度は前年度の約 20％減という数字になった。原因ははっきりしないが、手術介助医を大学に派遣依頼している事情もあり、介助医が学会出張などで来院できない際は予定手術を入れられないことと、手術希望者数も季節的な自然変動があるため、今年度はその間合いが悪く今ひとつ手術日を効率的に利用できなかったかった印象である。

しかし基本的に、手術件数に関しては、件数自体を増やすことが目的の診療になるのは本末転倒であるため、手術適応を持つ患者さんがいかにスムーズに外来受診できるか、ということに尽力すべきと考えている。

2．2018 年度の課題・目標

人的な配置に関しては変更がないため、前年度同等の診療実績を上げることが目標と考えている。

また、婦人科診療に欠かすことのできない細胞診に関して、長年の懸案事項であった液状検体による標本作製がようやく現実化する方向となりつつある。液状検体で作成した標本では、標本１枚あたりの検鏡に要する時間と労力が飛躍的に少なくなるため、診断のスピードアップと効率化、そしてクリニック外来と THP ドックからの膨大な検体の診断に日夜追われている細胞検査士の負担減に少しでも繋がればと考えている。

［文責：佐藤有希］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
佐藤　有希	婦人科診療部長	常（HP）
小關　剛	副院長	常（HP）
小松あかね	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	常（HP）
中村　優子		非（HP）

【手術件数】

分　類	件　数
子宮附属器腫瘍摘出術（両側）開腹によるもの	23
子宮全摘術	19
子宮頚部（腟部）切除術	16
子宮筋腫摘出（核出）術	5
子宮脱手術　腟壁形成手術及び子宮全摘術（腟式、腹式）	3
その他の手術	6
総計	72

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
12002x	子宮頸・体部の悪性腫瘍	23	4
120070	卵巣の良性腫瘍	21	9
120060	子宮の良性腫瘍	15	8
120110	子宮・子宮附属器の炎症性疾患	7	31
120090	生殖器脱出症	6	10

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
765	773	871	805	805	836	824	775	866	709	789	915	9,733

眼　　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

①クリニック外来に関して

外来総患者数は昨年とほぼ同数であった。地域医療連携病院として、眼科のみならず他科の先生方からもご紹介いただくことが多くなってきている。

②手術に関して

斜視の手術件数が大幅に増えたことから全体の手術件数が増加した。麻酔科医、病棟、手術室が一体となって麻酔の導入から退室までスムーズに行えるようになり、手術件数も増加可能となった。また入院から退院まで１泊2日と入院期間の短縮にも努めている。

白内障手術も件数が増加しており、今年度は入院手術希望の方が多く見られた。

2．2018 年度の課題・目標

臨床に於いては中長期計画に掲げている白内障手術の多焦点眼内レンズの導入に向けて準備を加速する。光学的眼軸長測定器が購入できればほぼ準備が整うものと考えられる。

小児領域では、外来を受診している小児患者の兄弟への迅速なスクリーニングに対応して行くためにも、スポットビジョンスクリナーの導入をすすめていく。

研究に於いては放射線科との連携をもとに３DMRI での強度近視に伴う斜視患者の外眼筋の評価を引き続き行っていく予定である。

［文責：長井恭子］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
長井　恭子	眼科診療科長	常（CL）
森田　由香	眼科診療科長	常（HP）
坂田　千穂		非（HP）
品川　樹美		非（CL）
本村　幸子		非（CL）
森　悠大		非（CL）

【手術件数】

分　類	件　数
水晶体再建術	248
斜視手術	200
眼瞼内反症手術	31
眼瞼下垂症手術	28
翼状片手術	7
その他の手術	21
総計	535

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
020150	斜視（外傷性・癒着性を除く。）	136	2.0
020110	白内障、水晶体の疾患	128	4.2
020320	眼瞼、涙器、眼窩の疾患	21	2.7
020230	眼瞼下垂	2	3.0
100140	甲状腺機能亢進症	2	9.0
140090	先天性鼻涙管閉塞	2	2.0
02006x	眼の良性腫瘍	1	1.0
020250	結膜の障害	1	3.0
070560	全身性臓器障害を伴う自己免疫性疾患	1	15.0
140100	眼の先天異常	1	2

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,200	1,123	1,328	1,291	975	1,300	1,284	1,213	1,175	1,111	1,028	1,308	14,336

耳　鼻　咽　喉　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

①病棟診療

2017年度の入院患者数（転科加療を含む）は266例、入院手術症例は81例であった。2016年度はそれぞれ219例、106例であったので入院患者数は21.5％増加、入院手術症例は23.6％減少である。神経耳科疾患に加えて急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍などの入院症例数が増えた一方で手術症例が減少してしまっており、今後の改善点としたい。

これらの平均在院日数は6.4日であり、前年度の6.6日と比して短縮を認めた。

②外来診療

つくば総合クリニック・筑波記念病院合わせての外来患者数は12825例と前年度の12109例と比して約6％の増加であった。2014年に外来診療担当医が3名から2名に減り一時期外来患者数も減少したが、その後回復し3名で外来診療にあたっていた時と同等の人数を2名の常勤医で診察している状態であり、ややキャパシティーオーバーなところもある。当院での初期治療が終了した際には地域開業医へ逆紹介してうまく役割分担をしていきたいと思う。

外来手術症例数は106例（前年度101例）であった。

2．2018 年度の課題・目標

2017 年度は入院患者数を増やすことが出来た。2018 年度は入院手術症例を 100 例以上に戻したい。外来患者数・外来手術件数については現在の人員ではこれ以上の増加は難しいと考えられるため現状維持を目指したい。

紹介患者数はこの 5 年度で 338 例→ 326 例→ 380 例→ 458 例→ 491 例と増加しており、 地域の医療機関と良い連携がとれ、また当科の役割が認知されてきていると考えている。期待に添えるように、今後も 1 例 1 例丁寧な対応を心掛けていきたい。

［文責：及川慶子］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
及川　慶子	耳鼻咽喉科診療科長	常（HP）
中森　暁子		常（HP）

【手術件数】

分　類	件　数
口蓋扁桃手術	32
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	20
喉頭・声帯ポリープ切除術	13
鼻腔粘膜焼灼術	8
扁桃周囲膿瘍切開術	6
その他の手術	19
総計	98

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
030400	前庭機能障害	70	4.8
030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	55	6.0
030390	顔面神経障害	25	8.4
030428	突発性難聴	20	7.4
030350	慢性副鼻腔炎	13	6.2

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,094	1,030	1,181	1,082	975	1,041	1,030	1,156	1,060	945	1,005	1,226	12,825

皮　膚　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

- 2017年度も常勤医1名、非常勤医2名の体制で筑波総合クリニックにおける5,664件の外来診療（一般皮膚科診療、外来手術、皮膚生検、多汗症に対するボトックス注射など）をおこなった。クリニックでの外来手術が難しい4件は病院手術室で手術を実施した。
- 筑波記念病院内の美容皮膚科外来において、IPL光治療や表情じわに対するボトックス注射などの自由診療を128件おこなった。
- 筑波記念病院に設置された褥瘡対策委員会のメンバーとともに、病院全棟の入院患者の褥瘡リスク評価、予防および治療をおこなった。
- 入院患者の皮膚トラブルについて、他科から約500件のコンサルテーションを受けた。

2．2018 年度の課題と目標

- クリニック外来の診療レベルをこれまで通りに維持しながら、予約患者だけでなく当日受付患者の外来診療待ち時間の短縮につとめる。
- 美容皮膚科外来に関する情報発信を再開して診療件数増加を目指す。
- 入院患者の褥瘡発症予防につとめ、最近数年間で改善した褥瘡有病率をさらに改善することを目指す。

［文責：照沼　篤］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
照沼　篤	皮膚科診療部長	常（HP）
髙瀬　孝子		非（HP）
石井亜希子		非（CL）
吉岡　華子		非（CL）
久保田典子		非（CL）

【手術件数】

分　類	件　数
皮膚悪性腫瘍切除術	1
皮膚皮下腫瘍摘出術	3
総計	4

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
481	454	490	523	625	441	466	464	433	425	415	447	5,664

小　児　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

現在、小児科診療の主な活動として、筑波総合クリニックにおいて、一般小児科外来診療を行っている。診療領域としては、小児感染症、気管支喘息などの小児アレルギー疾患、小児神経（てんかんなど：専門外来）、予防接種（専門外来）、発達障害児の医療などがあげられる。

小児人口の減少、予防接種の普及などによる、重篤な感染症の減少があって、近年、小児科医療の構造が劇的に変化をしてきている。今後の小児医療の対象となる疾病は、治療が難しく、長期にわたって援助が必要な疾患が主なものとなって行かざるを得ない。対象となる疾患の一つとして、発達障害児への医療がある。当院には、リハビリテーション部に多くのスタッフがおり、発達に困難さを抱える小児の外来リハビリテーションを行う体制が充実しているため、年々、小児外来リハビリの実績が伸びてきている。最近では月に 650 例を超えることもあり、前年比２割以上の増加が続いている。

2014 年に着任した岩松雅子医師は、小児一般外来とともに、小児リハビリテーション分野を担当し、専門性を生かした診療を行っている。

2．2018 年度の課題と目標

2018 年４月より、恵仁会筑波中央病院で、小児科外来診療を開始し、一般小児科外来診療が出来るよう体制を整えている。

前年度まで、筑波大学副学長を務めた宮本信也医師をクリニック外来へ迎え、2018 年４月より「発達外来」を開始している。宮本医師は全国的に名を知られており、患者数の増加や、当院のこの分野の医療レベル向上に大いに役立つものと期待をしている。

今後も、当院の特性を生かした小児医療の充実を目標として、診療を続けていく。

［文責：右田琢生］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
右田　琢生	副院長・小児科診療部長	常（HP）
岩松　雅子	小児科診療医長	常（HP）
野中美喜子		非（HP）
宮川恵美子		非（CL）
堀米　ゆみ		非（CL）
竹田　一則		非（CL）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
794	841	842	872	901	878	892	863	944	850	809	968	10,454

精　神　科

【総括】

精神科は、本年度は大きな変化があった。３年前から当科リハビリテーション部門は廃止になっていたが、加えて平成29年７月より常勤医師の山里医師が退職し、常勤医師は沼倉医師１名となり、山里医師は週１日のみの非常勤となり、診療体制は半分に縮小となった。このため、山里医師が担当していた再来患者の多くは、他の医療機関へ転院となり、同医師が担当していた高次脳機能外来も廃止となった。このため、平成30年３月現在の当科の診療体制は、常勤医師１名と非常勤医師２名（１名は毎週木曜日午前再来担当、午後紹介患者の初診担当、１名は月１～２回土曜日午前、再来のみ）で、沼倉医師が、月曜～水曜日、金曜・隔週土曜日の午前を再来担当、月曜午後は紹介初診患者を担当し診療に従事している。

筑波総合クリニックでは、沼倉医師が、紹介状を持たない初診患者を、毎週火曜・金曜及び隔週水曜のいずれも午後に担当している。このため、平成29年３月まで行っていたつくばケアセンター（老人保健施設）の精神科コンサルテーションは、辞退させて貰っている。

業務実績としては、病院の初診・紹介患者数は、それぞれ64名・87名と前年度に比べ約半数に減少、再来患者数は延べ4311名と、昨年度に比べ４割の減少だった。筑波総合クリニックの初診患者数は、135名と昨年度に比べ約２割の減少であった。他科からの依頼の精神科コンサルテーションの数は、68件と昨年度に比べ３割減少であった。常勤医師が２名から１名に減少したのが大きく影響している。

教育・研究では、平成29年12月の約１ヶ月間２年目の臨床研修医を対象に、沼倉医師が精神科臨床の研修指導を行った。また、昨年度に引き続き沼倉医師が中心となり、最新の精神科診断マニュアルである、DSM-5の輪読会を他科の医師２名、臨床心理士１名で週１～２回行っている。各学会での発表・講演はない。

2017年度の目標として、チーム医療の構築と総合病院の無床精神科としての役割の更なる発展を上げたが、他部門との協力関係は余り広まらず、訪問看護との協力は少なく臨床心理士（本年度より国家資格として公認心理士制度がスタートしている）の仕事は、主に物忘れ診療外来からの依頼の知能検査が中心となってきており、精神科との協力関係は減少している。精神保健福祉士の資格を持つケースワーカーとの連携は少ない。来年度の数値目標としては、筑波総合クリニックでの紹介状のない初診患者数を、昨年度並みの170名程度を達成したい。病院の初診・再診患者数は、本年度より１～２割の増加を目指す。当科は、初診患者の予約受付からの診察までの待ち日数は長くて１～２週間であり、他の公的精神科医療機関での２～３ヶ月待ちに比べ大幅に短い。これは維持して行きたい。

［文責：沼倉泰二］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
沼倉　泰二		常（HP）
佐藤　晋爾		非（HP）
山里　道彦		非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	11	6	5	3	4	7	8	5	2	3	5	5	64
紹介	14	7	6	4	7	8	14	5	5	3	6	8	87
再診	554	586	437	294	330	279	326	304	309	298	290	304	4311

【外来患者数（筑波総合クリニック：沼倉医師　紹介状不要】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新患	14	7	13	16	13	15	15	8	12	6	8	8	135

【精神科コンサルテーション（他科依頼）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
精神科コンサルト	8	8	7	7	4	3	7	8	7	2	4	3	68

麻　酔　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

①常勤医３名と、非常勤医３名、筑波大学からの非常勤で手術麻酔を行ってきた。24時間、緊急手術に対応できるよう毎日オンコール体制をとっている。

②入院診療

麻酔管理：心臓外科手術をはじめとしたすべての全身麻酔管理と、一部の局所麻酔管理を行っている。前年度より全手術件数で 114件、全身麻酔件数で124件増加した（詳細は別項参照）。

集中治療管理：集中治療室の管理運営に貢献している。

③術後鎮痛

硬膜外麻酔、末梢神経ブロック、自己調節鎮痛法などを用い、積極的に術後鎮痛を行っている。全身麻酔の危険性が高い患者では、末梢神経ブロックや脊髄くも膜下麻酔のみによる麻酔管理を行うこともある。

④外来診療

麻酔科術前外来：手術安全の向上を目的に、予定手術患者を対象に行っており、全身麻酔症例の24.9%であった（症例数は別項参照）。また高リスク患者のコンサルトも兼ねている。

ペインクリニック外来：入院中の患者と退院後の患者に限り、診察やブロック注射を行っている。

⑤自己評価

全ての麻酔科管理を安全に実施できた。麻酔科術前外来により術前管理を向上させ、手術室での安全で質の高い麻酔を提供することに貢献した。集中治療室の管理運営に貢献した。

2．2018 年度の課題と目標

①麻酔科診療業務の発展のために、常勤医の1名増員をめざす。

②全身麻酔症例や重症症例が増加しており、手術周術期の安全性を再確認し、確実な麻酔管理を行う。

③よりよい術後鎮痛を提供できるよう様々な方法を追求する。

④外来診療では、麻酔科術前外来の利用率の向上を図るとともに、各科の協力を得ながら効率の良い手術室運営を目指す。ペインクリニック外来の週１回の定期的な開設を目指す。

［文責：田島啓一］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
田島　啓一	副院長・麻酔科診療部長	常（HP）
髙瀬　　肇	麻酔科診療科長	常（HP）
富田　絵美	麻酔科診療医長	常（HP）
箱岩　沙織		非（HP）
石丸美都彦		非（HP）
高橋　　宏		非（HP）

【麻酔科外来件数 2017】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
37	36	41	35	40	39	31	40	23	35	31	35	423

【麻酔管理料件数 2017】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
126	101	130	109	127	113	117	105	80	98	118	103	1,327

【麻酔手技内訳（ＯＲ分）】

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
全身麻酔	2016 年度	141	128	129	110	126	128	145	142	130	118	123	152	1,572
	2017 年度	145	119	145	136	161	139	139	142	130	138	155	147	1,696
腰椎麻酔	2016 年度	2	4	5	2	4	3	1	0	4	0	4	2	31
	2017 年度	4	5	3	3	3	5	0	0	1	1	2	0	27
その他	2016 年度	22	35	38	39	31	33	32	29	38	32	47	37	413
	2017 年度	30	35	36	43	25	32	36	45	24	42	29	30	407
総手術件数	2016 年度	165	167	172	151	161	164	178	171	172	150	174	191	2,016
	2017 年度	179	159	184	182	189	176	175	187	155	181	186	177	2,130

放　射　線　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

2017 年度は常勤の放射線診断専門医 3 名、非常勤診断専門医 1 名、非常勤専攻医 1 名の体制で CT、MR、核医学、単純写真の読影診断業務と超音波および IVR（画像下治療）を行った。年間の CT、MRI および核医学検査の検査総数は昨年の 16,611 件から 17,655 件と増加している。血管内・外の IVR は 47 件（うち時間外 6 件）、CT ガイド下生検は 6 件が行われた。専門医による年間の読影率は 98.7%、翌日までの読影レポート完成率は 90.7% と昨年と同等であり目標値を保つことができた。地域連携関連病院・医院の先生方からのご依頼による CT、MRI、超音波、核医学の検査数は、2016 年度 456 件、今年度は 502 件と 1 か月あたり 4 例ほど増加した。課題であった休日の読影に関しては長期休暇となるゴールデンウィークと年末年始に出勤日を設けることでその期間の症例に対処した。

初期研修医 3 名がそれぞれ 2・3 か月間の研修を行った。画像診断の基本である単純写真の読影、救急診療で頻度の高い疾患の CT、MRI の読影を中心に、各研修医の進路の希望に基づいて、超音波検査や造影検査の研修などを加えたプログラムで行った。1 年目の初期研修医を対象として放射線科技師の協力を得て腹部超音波検査の基本手技の実習を行った。

2．2018 年度の課題・目標

読影率、翌日までのレポート完成率は現状の 90% を越える率を保てるようにする。各診療科、地域連携病院の先生方から依頼を受けての検査であり、検査数を直接コントロールすることは困難であるが、トータルヘルスプラザ検診部門と協力し CT コロノグラフィなどの検査数の増加を図る。教育、研修では初期研修医の教育用のティーチングファイルの充実、筑波大学病院の連携施設として放射線科専攻医向けの研修プログラムの整備を行う。

部署内での技師の教育（マンモグラフィ認定技師、超音波検査士の育成等）を引き続き行う。

［文責：鯨岡結賀］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
鯨岡　結賀	副院長・放射線科診療部長	常（HP）
髙橋　信幸	放射線科診療科長	常（HP）
岩田　　賢	放射線科診療医長	常（HP）
楊川　哲代		非（HP）
天野　太史		非（HP）
原田　　舟		非（HP）
小竹　文雄		非（HP）

【読影数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CT	1036	1081	1084	1032	1059	1096	1078	1105	1103	1097	970	1049	12790
MRI	340	368	403	398	393	388	389	369	433	341	350	390	4562
RI	13	29	25	30	30	28	24	17	25	20	30	32	303
合計	1389	1478	1512	1460	1482	1512	1491	1491	1561	1458	1350	1471	17655

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
専門医による読影率	99.5%	97.5%	98.9%	98.9%	99.0%	99.2%	99.0%	98.9%	98.2%	97.5%	98.9%	99.0%	98.70%
翌日までのレポート完成率	91.3%	90.3%	93.3%	90.3%	91.4%	89.7%	90.0%	91.9%	91.1%	86.3%	91.8%	90.7%	90.7%

【紹介検査数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016年度	47	38	44	43	47	39	32	31	34	29	40	32	456
2017年度	44	40	49	51	43	42	41	34	44	30	27	57	502

病　理　診　断　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

2017 年度は筑波記念病院・筑波総合クリニックを合わせて病理組織診 3,886 件、細胞診 11,242 件、術中迅速組織診 32 件、病理解剖 4 件があり、CPC では前年度までのものを含め、以下の 6 例について症例検討を行った。

①脳悪性リンパ腫に巨大子宮腫瘍を合併した症例（65 歳女性）
②急性骨髄性白血病（M6）に肺炎、心不全を合併した症例（72 歳男性）
③急性骨髄性白血病（M4）の治療中に脳出血を来たした症例（66 歳男性）
④ CABG 後の急性心筋梗塞が疑われた腰痛の症例（88 歳男性）
⑤左血胸を来した髄膜瘤合併神経線維腫症 1 型、右乳癌術後の症例（48 歳女性）
⑥生存中に組織型の推定が困難であった胆道悪性腫瘍の症例（69 歳女性）

いずれも診療および臨床研究の示唆に富む症例で、活発な意見交換がなされた。①では脳リンパ腫治療後再発と巨大子宮平滑筋肉腫に伴う穿孔性腹膜炎、②では白血病細胞の浸潤によるびまん性肺胞傷害が直接死因と考えられた。③では白血病に伴う大脳皮質下出血から広範なくも膜下腔穿破を来しており、④では 2 本の冠動脈バイパス術と graft 内を含め 3 本の金属ステントが留置されていたが、残存心筋に急性虚血を認めた。⑤は胸腔内髄膜瘤と頚椎側彎を合併した神経線維腫症 1 型で、右乳癌術後再発はなかったが、神経線維腫浸潤により腕頭静脈直前の左内胸静脈が破綻して左自然血胸となっていた。⑥では胆嚢癌原発巣では組織学的判定基準 Grade 2 の化学療法効果が認められたが、多発肝転移、右副腎転移と多臓器浸潤、およびそれに伴う全身感染症が認められた。

2．2018 年度の課題・目標

病理組織診、細胞診、術中迅速組織診、および病理解剖の各々について診断件数・精度の維持と効率化を検討すると共に、診療情報の厳重な管理の元、重要診断結果について別リストの作成・報告等を継続し、被験者に不利益が及ぶことのないよう最大限の対策を講じる。また今後さらなる項目増加が必至の分子生物学的検索に対応するため、組織固定や検体保存法に最深の注意を払い、将来的な需要に備える。

［文責：臺　勇一］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
臺　勇一	病理科診療部長	常（HP）

【筑波記念病院】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	259	267	307	312	331	278	277	301	278	282	283	278	3453	287.8
迅速病理	6	2	1	3	3	3	4	2	1	3	2	2	32	2.7
剖検	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	4	0.3
細胞診	341	424	578	620	583	686	703	663	530	568	555	542	6793	466.1

【筑波総合クリニック】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	30	25	25	41	39	33	51	34	46	35	34	40	433	36.1
細胞診	357	335	384	367	329	392	369	380	394	349	365	428	4449	370.8

【筑波記念病院・筑波総合クリニック】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	289	292	332	353	370	311	328	335	324	317	317	318	3886	323.8
迅速病理	6	2	1	3	3	3	4	2	1	3	2	2	32	2.7
剖検	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	4	0.3
細胞診	698	759	962	987	912	1078	1072	1043	924	917	920	970	11242	936.8

リハビリテーション科

【総括】

1．2017 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①人事において、安岡利一医師が地域リハビリテーション部長として常勤入職した。ベテランのリハ科専門医・指導医であり、地域包括ケア病棟、療養病棟、外来通院、介護保険領域など主として生活期リハを担当した。伊佐地と平島富美子リハ科診療部長を含め、常勤リハ科専門医3名体制で継続した。海老原一彰医長は他院へ転任したが、非常勤医師として週1日、常勤時代に築いた嚥下リハの診療（VE、VF検査と摂食嚥下チーム回診）を継続した。

つくばケアセンター担当の関 寛之医師、小児リハ担当の週1回非常勤大黒春夏医師と合わせて、常勤4名、非常勤2名の陣容になった。

②外来では、週2日の通常のリハ科診療のほか、専門外来として、それぞれ週1回の義肢装具・車いす外来とボツリヌス治療外来が定着し、件数は順調に入るようになった。

③教育面では、全16グループの帝京大学医学部の学生臨床実習（リハビリテーション医学）と2グループの筑波大学の学生臨床実習（社会医学）を継続して請け負った。

リハ部の新卒専門職44名の臨床指導も行った。

④講座・研修面では、病院主催の市民公開講座「人生が変わる！？良い姿勢、悪い姿勢」と地域連携公開講座「痙縮Ⅰ」「痙縮Ⅱ」、茨城県指定研修推進支援センター主催の研修会「ポジショニング」（全3回）、「シーティング」（全5回）を運営した。

⑤地域貢献として、障害児の作品展覧会「大城組の小さな巨匠たち展」を10月に病院の玄関フロアで開催し、作者と指導者の講演会も開催した。

⑥論文3編、学会発表7回、講演2回行った。

2．2018 年度の課題・目標

①回復期リハ病棟の稼働率が常時100％となるベッドコントロールをする。

②回復期リハ病棟での専門的リハを浸透させ、意識しなくとも成果指標がクリアできている診療をし、患者満足度を高める。

③地域包括ケア病棟の稼働率を70％以上に維持する。

④訪問リハ、通所リハのリハマネージメント加算２または３の算定数を増やし、質の高いリハを提供する。

⑤専門外来の件数を２割程度増加し充実を図る。

⑥全国レベル、県レベルの地域リハ支援体制の中核に参画し、情報の早期獲得等、当法人のリハ活性化の推進に役立てる。具体的には茨城県地域リハビリテーション普及促進協議会の委員、茨城県高次脳機能障害支援センター嘱託医、日本リハビリテーション病院・施設協会理事として活動する。

⑦主管の「第38回全国デイ･ケア研究大会2018inつくば」を成功させる。

［文責：伊佐地　隆］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
伊佐地　隆	リハビリテーション統括部長	常（HP）
平島富美子	リハビリテーション科診療部長	常（HP）
安岡　利一	地域リハビリテーション部長	常（HP）
関　　寛之		常（HP）
大黒　春夏		非（HP）
海老原一彰		非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
86	105	132	97	130	118	108	103	84	70	79	83	1,195

【専門外来患者数（筑波記念病院）】

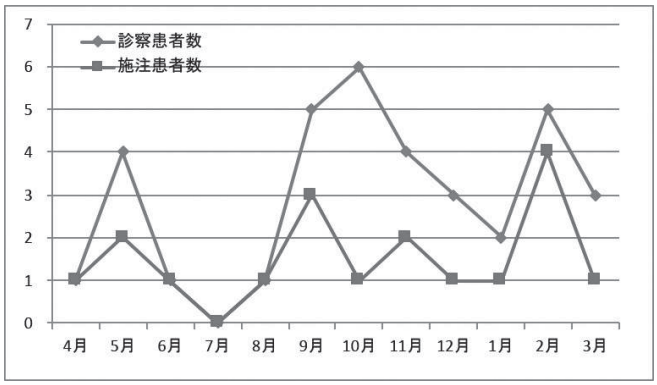
義肢装具・車いす外来

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
24	34	22	31	43	32	26	29	29	14	23	21	328

ボツリヌス治療外来（下グラフ）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1（1）	4（2）	1（1）	0（0）	1（1）	5（3）	6（1）	4（2）	3（1）	2（1）	5（4）	3（1）	35（18）

（　　）治療患者数



【入院件数（筑波記念病院）】

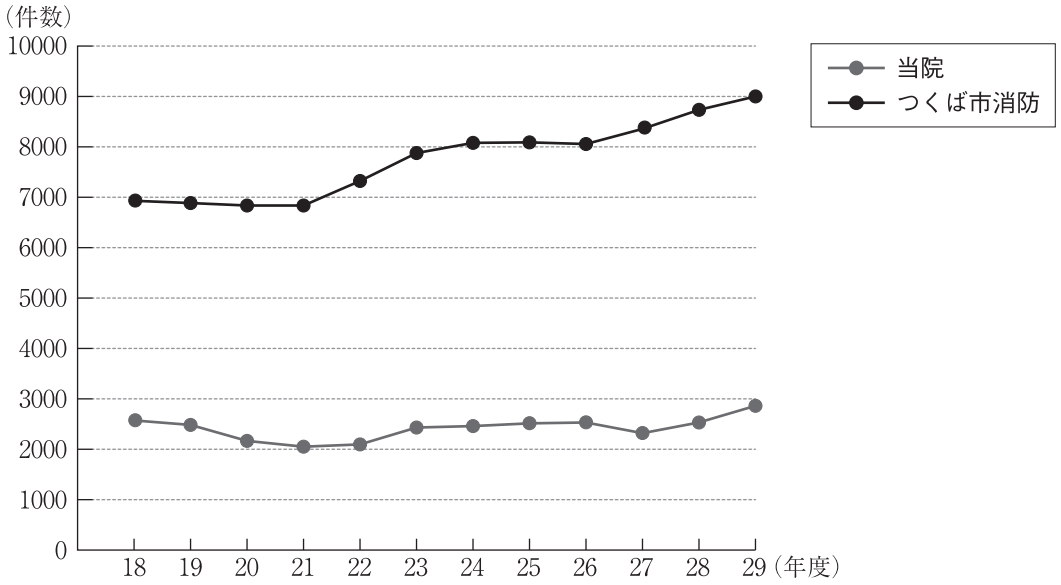
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新入院患者数	2016年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2017年度	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	5
入院延べ患者数	2016年度	0	0	49	199	356	599	548	647	747	696	619	724	5,184
	2017年度	648	645	485	510	552	648	779	679	625	495	411	457	6,934

救　急　科

【総括】

当院への救急搬送件数は過去 10 年間 2,000 ～ 2,500 件であったが、平成 29 年度は前年度に比べ 300 件以上増加し、2,903 件となった。

当院及びつくば市消防の救急搬送件数の推移（過去10年）



平成 30 年 2 月、茨城県で全日本病院協会主催大規模災害時医療活動訓練（AMAT 活動訓練）が開催された。大地震を想定した訓練で、当院が AMAT 活動拠点本部となり県内外から AMAT が参集して行われた。

昨年度に引き続き全日本病院協会主催の AMAT 隊員養成研修に、看護師 1 名、ロジスティクス 5 名が受講し、当院では医師 3 名、看護師 4 名、ロジスティクス 7 名（計 14 名）が AMAT 隊員資格を取得したことになった。

また、平成 29 年 6 月には茨城 DPAT 協力医療機関に指定されてる。

［文責：立川法正］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
立川　法正	救急科診療部長	常（HP）
稲葉　健介		非（HP）

【ドクターヘリ現場救急】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016年度	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	2	6
2017年度	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4

【ドクターヘリ転院搬送】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016年度	0	1	0	1	0	1	1	0	1	2	0	0	7
2017年度	1	1	0	1	1	1	0	0	1	2	3	1	12

【防災ヘリ現場救急】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016年度	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
2017年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【防災ヘリ転院搬送】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
2017年度	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2

【救急車搬送患者数】

	患者数（搬送台数）	症度別		診療科別			交通事故
		入院	外来	内科系	外科系	救急科	
28年合計	2596名	1218名	1378名	1470名	872名	254名	284名
	2573台	47%	53%	57%	34%	10%	11%
29年合計	2,944名	1,636名	1,308名	1,535名	858名	551名	261名
	2,903台	56%	44%	52%	29%	19%	9%

リウマチ・アレルギー科

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
山根　一秀	つくばトータルヘルスプラザ顧問	常（HP）
柏木平八郎	筑波記念会顧問	非（HP）
佐藤　泉		非（HP）
近藤　裕也		非（CL）
本田　文香		非（CL）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
309	328	320	303	358	333	322	323	307	299	367	365	3,934

形　成　外　科

【人事】

氏　名	役　職	勤　務	氏　名	役　職	勤　務
内田　彰子		常（HP）	松村　一		非（CL）
畑　寿太郎		非（HP）	関堂　充		非（CL）
佐々木正浩		非（HP）	佐々木　薫		非（CL）
遠藤　隆志		非（CL）	今井裕季子		非（CL）
藤田　悠気		非（CL）	大岩　宏維		非（CL）
草田理恵子		非（CL）			

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
98	145	133	193	163	200	195	172	175	135	204	244	2,057

血管専門外来

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
31	33	38	38	43	25	34	27	32	25	31	41	398

腎　臓　内　科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
戸村　成男		非（CL）
永井　　恵		非（CL）
角田　亮也		非（CL）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
97	97	115	133	139	64	130	97	115	110	122	109	1,328

乳 腺 甲 状 腺 外 科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
岩淵　　裕		非（HP）
市岡恵美香		非（HP）
原　　尚人		非（CL）
田地　佳那		非（CL）
相吉　悠治		非（CL）
橋本　幸枝		非（CL）
坂東　裕子		非（CL）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
478	433	565	533	505	459	502	466	454	424	433	571	5,823

泌　尿　器　科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
和久　夏衣		非（CL）
権藤　立男		非（CL）
滝澤　一晴		非（CL）
内田　将央		非（CL）
鏑木　直人		非（CL）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
337	340	386	360	345	395	404	354	426	332	345	354	4,378

もの忘れ診療科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
吉井與志彦	もの忘れ診療センター長	常（HP）

内　　科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
長岡　広香		非（HP）
金津　赫生		非（HP）
柳　　久子		非（HP）
島　さつき		非（HP）
廣瀬　千尋		非（HP）
江辺　厚子		非（HP）
齊田　英恵		非（HP）
東田　俊彦	顧問	非（CL）
斉藤　　剛		非（CL）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
333	412	430	397	504	388	471	455	477	560	555	482	5,464

筑波記念病院　研修医

初期臨床研修医

年次	氏　名	管理病院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2	粕谷　英暢	筑波記念病院	消内	産婦（JA）		地域（つくば）	放射線	放射線	代内	呼内	精神	救急	救急	精神（筑大）
2	黒江　崇史	筑波記念病院	小児（地域CL）	小児・新生児（筑大）		小児・循環器（筑大）		産婦（筑大）		放射線	放射線	循環	地域（つくば）	救急
2	横山　昌平	筑波記念病院	循内	循内	救急（日医）				産婦（筑大）		心外	心外	心外	地域（小豆畑）
2	石川　陽子	筑波記念病院	血内	小児・総合（筑大）		小児・新生児（筑大）		脳外	脳外	産婦（JA）		地域（小豆畑）	放射線	放射線
2	太　拓也	筑波大学附属病院										循内	循内	循内
2	山野　晃生	筑波大学附属病院	消内	消内	脳外	脳外								
2	伊藤　嘉美	筑波大学附属病院	呼内	消内										
2	飯島麻里絵	筑波大学附属病院											循内	呼内
2	田中　隆造	筑波大学附属病院	麻酔	麻酔										
2	植松　洋	筑波大学附属病院							麻酔	麻酔	麻酔			
2	橘　幸治	筑波大学附属病院											麻酔	麻酔
2	野田　恵佑	筑波大学附属病院	整形	整形										
2	堤　亮介	筑波大学附属病院				整形	整形	整形						
1	角田　健太	筑波記念病院	救急	救急	救急	循内	循内	麻酔	麻酔	心外	代内	血内	消内	消内
1	ヘアリチュケ・マティーナ綺香	筑波記念病院	循内	循内	血内	救急	救急	救急	脳外	消内	消内	代内	麻酔	麻酔
1	大西真悠子	筑波記念病院	消内	消内	代内	麻酔	麻酔	脳外	救急	救急	救急	循内	循内	血内
1	加藤　佑介	筑波記念病院	代内	血内	心外	救急	救急	救急	循内	循内	麻酔	麻酔	消内	消内
1	髙久瑠璃子	筑波記念病院	麻酔	麻酔	血内	代内	脳外	循内	循内	消内	消内	救急	救急	救急
1	張本　亮	東京大学医学部附属病院	外科	外科	整形	循内	循内	消内	消内	代内	血内	救急	救急	救急
1	九原　利京	東京大学医学部附属病院	血内	代内	循内	循内	消内	消内	救急	救急	救急	外科	整形	
1	前川　翔太	筑波大学附属病院	代内	血内	消内	消内	循内	循内						
1	埴原　弘直	筑波大学附属病院	循内	循内	消内	消内	代内	代内						
1	佐々木憲人	筑波大学附属病院							循内	循内	消内	消内	血内	代内

後期研修医

年次	氏　名	管理病院	所　属	期　間
5	蒲田　久典	筑波大学附属病院	整形外科	2017.4.1 ～ 2018.3.31
5	藤原　啓司	筑波メディカルセンター病院	呼吸器内科	2017.4.1 ～ 2018.3.31
5	清水　隆玄	東京大学医学部附属病院	心臓血管外科	2017.10.1 ～ 在籍中
4	沼田るり子	筑波記念病院	循環器内科	2017.1.1 ～ 在籍中
4	井関　陽平	日本医科大学附属病院	消化器外科	2016.10.1 ～ 2017.6.30
3	倉橋　果南	筑波記念病院	心臓血管外科	2017.4.1 ～ 2018.3.31
3	萩原　悠也	筑波大学附属病院	消化器内科	2017.4.1 ～ 2018.3.31
3	猪股　兼人	筑波大学附属病院	整形外科	2017.10.1 ～ 2018.3.31
3	赤星　南	筑波大学附属病院	脳神経外科	2017.10.1 ～ 2018.3.31
3	岩元　博史	筑波大学附属病院	脳神経外科	2017.4.1 ～ 2017.9.30
3	安永　将太	筑波大学附属病院	整形外科	2017.4.1 ～ 2017.9.30
3	藤原　彩織	筑波大学附属病院	心臓血管外科	2018.1.1 ～ 2018.3.31

業　績　集

【論　文】

消化器内科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
池澤和人、相川達也、岡本宏明	レジパスビル・ソホスブビルによる感染後に再燃し、S282T 耐性変異株が検出されたＣ型慢性肝炎の１例（パキスタン人）	肝臓	58	259-261	2017
Tatsunori Nakano, Kazuto Ikezawa, Hiroaki Okamoto	Hepatitis E Virus subtype 3f strains isolated from Japanese hepatitis patients with no history of travel to endemic areas -The origin analyzed by molecular evolution	Virology	513	146-152	2018

神経内科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Nobuko Shiraiwa, Mitsumasa Umesawa, Sachiko Hoshino	Miller Fisher syndrome with sinus arrest	Neurology International	Volumu9: 7312	36-37	2017.8

心臓血管外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
森住　誠、井上堯文、西 智史、他	胸部大動脈ステントグラフト内挿術後に逆行性 StanfordA 型解離をきたした１例	胸部外科	70 巻 5 号	369-372	2017
佐々木啓太、井上堯文、吉本明浩、他	Edge to edge plasty による僧帽弁形成術後に発症した thethering の１例	胸部外科	70 巻 6 号	461-463	2017
藤﨑正之、末松義弘、井上堯文、他	特発性大動脈破裂の胸部ステントグラフト内挿術の治療経験３例の検討	日心外会誌	46 巻 3 号	143-147	2017
藤﨑正之、末松義弘、井上堯文、他	急性期逆行性Ａ型大動脈解離に対するTEVAR 治療例－急性期 TEVAR のリモデリング効果－	心臓	49巻 11号		2017
Takafumi Inoue, Kanan Kurahashi, Satoshi Nishi, et al.	Thoracoscopic left atrial appendectomy and thoracic endovascular aortic repair(TEVAR) in a patient with cardiogenic stroke combined with acute aortic dissection	Gen Thorac Cardiovasc Surg		717-719	2017
Tomita E, Takase H, Tajima K, et al.	Change of coagulateon after NovoSeven use for bleeding during cardiac surgery	Asian Cardiovasc Thorac Ann		99-104	2017
宮本恵理子、桑原　瑞、木村拓郎、他	茨城県央・県南における心臓リハビリテーション地域連携システムの構築－心臓血管外科治療に対する当院の取り組み－	理学療法いばらき	21 巻	14-17	2017
Ruriko Numata, Takafumi Inoue, Akihiro Yoshimoto, et al.	A case of cardiogenic stroke after thoracoscopic left atrial appendectomy	International Heart Journal			2017

脳神経外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
渡部大輔	破裂部位の同定に難渋した多発脳動脈瘤の一例	Neurological Surgery 脳神経外科	45(4)	351-354	2017
Hirofumi Iwata	Nontraumatic Acetabular Francture Sustained during Convulsive Seizure Following Surgery for an Unruptured Intracranial Aneurysm:A Case Report	NMC case report journal	5(2)	57-60	2018

整形外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
坂下孝太郎、箱岩篤生、相野谷武士	抜釘に際して工夫を要した大腿骨近位部骨折髄内釘の２例	関東整形災害雑誌	48巻 2号	86-91	2017.4

麻酔科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Emi Tomita, Hajime Takase, Yoshihiro Sumematsu	Change of coagulation after NovoSeven use for bleeding during cardiac surgery	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals	23	99-104	2017

病理診断科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Tomoko Dai, Yuichi Dai, Masayuki Noguchi, et al.	The prognostic significance of N-myc downregulated gene 1 in lung adenocarcinoma	Pathology International	68(4)	224-231	2018.4

リハビリテーション科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
伊佐地隆、佐々木千穂、山見信夫	スキューバダイビング中の循環生理（心電図、血圧、酸素）の変化－血圧の変化を中心に－	日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会誌	17（1）	32-45	2017
澤　俊二、伊佐地隆、安岡利一	脳卒中後うつ状態（PSD）と QOL の関係に関する一考察－慢性脳卒中患者の総合的追跡調査研究　発病から５年－	金城大学紀要	17 号	193-202	2017
伊佐地隆	全身持久力の評価．実践講座「脳卒中患者の体力評価③」	総合リハビリテーション	46（３）	261-269	2018

【書　籍】

循環器内科

著　　者	書籍名	監修・編集	担当項目	出版社	ページ	発行年月
Kenji Wagatsuma	Transradial Approach for Percutaneous Interventions	Yujie Zhou, Ferdinand Kiemeneij, Shigeru Saito, Wei Liu	Transradial Approach for Calcified and Tortuous Lesions .	Springer Science	225-236	2017.5
我妻賢司	PCI 医必携（こうすれば必ず通過する！）ガイドワイヤー“秘伝”テクニック	村松俊哉	ガイドワイヤー操作法、完全閉塞病変: Antegrade（上級者編）CTO ガイドワイヤーの動かし方（回し方、進め方）	南江堂	147-153	2018.2

【学会・講演・セミナー等】

循環器内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
Yoko Ito, Miyako Igarashi, Masayuki Igawa, Akihiko Nogami, Kazutaka Aonuma	Atrial stunning was frequently observed just after electrical cardioversion in ths patients with Atrial Fibrillation : Who in More Susceptible?	EHRA EUROPACE-CARDIOSTIM Congress 2017	ウィーン、オーストリア	2017.6
Yoko Ito, Masayuki Igawa, Akihiko Nogami, Kazutaka Aonuma	The Prevalence and characteristics of Dabigatran-Induced Esophagitis	第39回欧州心臓病学会 ESC Congress 2017	バルセロナ、スペイン	2017.8
Yoko ito, Yoshihiro Suematsu, Akihiro Nogami, Masayuki Igawa, Kazutaka Aonuma	Hybrid Therapy Involving Thoracoscopic Left Atrial Appendectomy and Catheter Ablation for Atrial Fibrillation in Patients with Left Atrial Appendage Thrombus	第10回アジア太平洋不整脈学会学術集会（APHRS2017）・第64回日本不整脈心電学会学術大会（JHRS2017）	横浜	2017.9
井川昌幸、矢口拓実、井藤葉子、榎本強志、青沼和隆	副伝導路の寝室端が右側左側の両側に接続していると考えられたWPW症候群の一例	日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連大会2017	札幌	2017.7
沼田るり子、我妻賢司、新居秀郎	急変後の造影CTで心室穿孔が確認できたLCxを責任病変とする心筋梗塞の1例	第50回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会	東京	2017.5
沼田るり子、我妻賢司、内田靖人	健康診断での心電図異常を契機に発見された若年発症慢性完全閉塞に対しPCIを施行した一例	第120回シネアンジオ研究会	東京	2017.5
Kenji Wagatsuma	How to Treat Complex CTO Lesions by Radial Approach.	15th China International Therapeutics in Partnership with TCT(CIT2017)	Beijing,China	2017.4
Kenji Wagatsuma	Two Cases of Trifurcated LM Lesion Treated by Double Mini-Crush Technique	15th China International Therapeutics in Partnership with TCT(CIT2017)	Beijing,China	2017.4
Kenji Wagatsuma	Live Case Session Ⅲ	22.nd Cardiovascular Summit TCTAP 2017	Seoul,Korea	2017.4
Kenji Wagatsuma	Left Main & Bifurcation PCI	22.nd Cardiovascular Summit TCTAP 2017	Seoul,Korea	2017.4
Kenji Wagatsuma	How to Treat Complex LM lesions by radial Approach	15th Gwangju International Intervential Cardiology Symposium	Gwangju,Korea	2017.6
Kenji Wagatsuma	Techinical Forums Ⅱ	2nd Complex PCI	Seoul,Korea	2017.11
Kenji Wagatsuma	Techinical Forums Ⅱ :Keynote Lecture on Transradial PCI:Expert's Concept and Technique	2nd Complex PCI	Seoul,Korea	2017.11
Kenji Wagatsuma	Two Cases of Trifurcated LM Lesion Treated by Double Mini-Crusha Technique	2nd Complex PCI	Seoul,Korea	2017.11
Kenji Wagatsuma	Live Case Sessions　Live Case　Session 2	China Interventional Therapeutics in Partnership with TCT (CIT2018)	Suzhou, China	2018.3
Kenji Wagatsuma	Double Mini-Crush Technique: How to Treat True Trifurcation and Double Bifurcations by 6Fr TRI	China Interventional Therapeutics in Partnership with TCT (CIT2018)	Suzhou, China	2018.3
Hideo Nii, Kenji Wagatsuma, Yasuto Uchida	A Patient Saved by Bailout Using the Mini Crush Technique for Guiding Catheter-induced Spiral Dissection from the LMT to the LAD and LC x peripheral Segments	22nd Cardiovescular Summit TCTAP 2017	Seoul,Korea	2017.4

新居秀郎	来院時に多臓器不全を認め2枝完全閉塞及び1枝亜完全閉塞を有した心筋梗塞の1例	第31回茨城県PCI研究会	つくば	2017.7
内田靖人	当院におけるPCI後の抗血栓療法について	地域医療連携公開講座	つくば	2017.7
内田靖人、我妻賢司、新居秀郎	当院における左主幹部3分岐病変への治療戦略。Double mini crush technique と Cross over single stenting の使い分け	第5回つくばハートカンファレンス	つくば	2017.10

消化器内科

発表者	演題名	学会・会合名	開催地	開催年月
小林真理子、山浦正道、池澤和人、他	ダブガトラン起因性食道炎に心臓カテーテルアブレーション治療が及ぼす影響と背景因子の後方向視的検討	第93回日本消化器内視鏡学会	大阪	2017.5
岩井健太郎、池田貴文、池澤和人、他	保存的治療に抵抗した下腸間膜動静脈奇形に起因する虚血性大腸炎の一例」	第93回日本消化器内視鏡学会	大阪	2017.5
海老原幸恵、神馬美姫、池澤和人、他	胃ESDなどを含む治療内視鏡におけるタイムアウト導入の意義	第93回日本消化器内視鏡学会：附置研究会〈第2回内視鏡検査・周術期管理の標準化に向けた研究会〉	大阪	2017.5
山浦正道、小林真理子、池澤和人、他	ダサチニブの休薬による著明な改善を得た大腸ポリポーシスの一例	第104回日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2017.6
池澤和人、杉山弘明、他	H. pylori 除菌療法ではボノプラサンを使用しても高齢者での失敗リスクは上昇する	第23回日本ヘリコバクター学会	函館	2017.6
鈴木英雄、間部克裕、池澤和人、他	除菌時代における胃癌診療（診断・治療・予防）「ピ」プロジェクト with ホリエモン～除菌啓発活動報告～	第23回日本ヘリコバクター学会	函館	2017.6
大塚公一朗、添田敦子、池澤和人、他	経皮経肝的胆道ドレナージ（PTCD）後に生じた肝動脈門脈シャント（APシャント）による門脈圧亢進症に対しIVRが著効した一例	第345回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2017.7
粕谷英暢、添田敦子、池澤和人、他	結婚35年後に配偶者間性行為による感染が疑われたC型急性肝炎の一例	第345回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2017.7
越智大介、添田敦子、池澤和人、他	機能性胃腸障害へのアコチアミドの有効性は、H. pylori 感染の存在に影響されない	第59回日本消化器病学会大会	福岡	2017.10
九原利京、岩井健太郎、池澤和人、他	経肛門的バルーンアシスト内視鏡で診断し、緊急手術で救命したメッケル休憩室出血の一例	第347回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2017.12
ヘアリチュケ・マティーナ綺香、添田敦子、池澤和人、他	IgG4関連硬化性胆管炎の 経過中に非閉塞性腸間膜虚血を発症した一例	第348回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2018.2
座長：池澤和人 講演：越智大介	「消化器のがん」with ホリエモン	市民公開講座	つくば	2017.5
池澤和人	炎症性腸疾患の最新の治療・トピックス	IBD市民公開講座	茨城西南地区	2017.11

血液内科

発表者	演題名	学会・会合名	開催地	開催年月
ヘアリチュケ・マティーナ綺香	著明な好酸球増多を呈した肺小細胞癌の剖検例	第634回日本内科学会関東地方会	東京	2017.7

神経内科

発表者	演題名	学会・会合名	開催地	開催年月
Sachiko Hoshino	Comparison of Magnetic Resonance Parkinsonism Index between Parkinson disease, Progressive Supranuclear Palsy and Spinocerebellar degeneration	第58回日本神経学会学術大会 XXⅢWorld Congress of Neurology	京都	2017.9

Nobuko Shiraiwa,T.Yamaguchi,M.Fukushima	ACUPUNCTURE TREATMENT FOR PERIPHERAL FACIAL PALSY	第58回日本神経学会学術大会 XXⅢWorld Congress of Neurology	京都	2017.9

代謝内科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
藤原　淳	当院におけるSGLT-2阻害薬の使用経験	地域医療連携公開講座	つくば	2017.4
藤田利枝、藤原　淳、片山暁子	外科CGMを生かしたインスリン療法糖尿病患者への療養指導	第60回日本糖尿病学会年次学術集会	名古屋	2017.5
木内亮子、藤田利枝、藤原　淳	独居で暮らす2型糖尿病患者のインスリン導入を通して高齢糖尿病患者の支援を考える	第60回日本糖尿病学会年次学術集会	名古屋	2017.5
藤原　淳	SGLT-2阻害剤の使用経験	地域医療連携公開講座	つくば	2017.5
藤原　淳	糖尿病患者の血糖・血圧管理について	かかりつけ医が考える糖尿病治療	つくば	2017.11
藤原　淳	SGLT-2阻害剤の使用経験～糖尿病内科の立場から～	第13回地域医療連携公開講座	つくば	2017.11
片山暁子、藤原　淳、藤田利枝、他	急激な血糖値上昇により浸透圧性脱髄症候群を発症した1型糖尿病の一例	第638回日本内科学会関東地方会	東京	2017.12
藤原　淳	SGLT-2阻害剤の使用経験	糖尿病conference in つくば	つくば	2018.1
藤原　淳	SGLT-2阻害剤の使用経験～糖尿病内科の立場から～	生活習慣病と肝疾患フォーラム	つくば	2018.3

呼吸器内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
藤原啓司、栗島浩一、渡邉裕子	上皮成長因子受容体遺伝子変異陽性肺癌と合併疾患に関する検討	第57回日本呼吸器学会学術講演会	東京	2017.4
栗島浩一、蔵本健矢、藤原啓司	膠原病を合併した原発性肺癌の検討	第57回日本呼吸器学会学術講演会	東京	2017.4

呼吸器外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
木村正樹、神山幸一	骨髄異形成症候群に合併した原発性肺癌の1切除例	第34回日本呼吸器外科学会総会	福岡	2017.5
木村正樹、神山幸一、臺　勇一	脈絡膜・視神経転移による失明と斜台転移による対側外転神経麻痺を来した肺腺癌の1例	第58回日本肺癌学会学術集会	横浜	2017.10

心臓血管外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
Takafumi Inoue, Kanan Kurahashi, Satoshi Nishi, et al.	Thracoscopic left atrial appendectomy can be alternative for anticoagulation therapy as stroke prophylaxis in atrial fibrillation patients refractory to anticoagulants	International Society for Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery, Annual Scientific Meeting	Rome (Italy)	2017.6
横山昌平、井上堯文、倉橋果南、他	繰り返す多発性血栓塞栓症に対し胸腔鏡下左心耳切除術を施行し得た一例	第244回日本循環器学会関東甲信越地方会	東京（東京都	2017.6
井上堯文、倉橋果南、西　智史、他	胸腔鏡下左肺上葉切除・左心耳同時切除の経験	第4回東京心臓外科クリニカルカンファレンス	後楽園（東京都）	2017.6

Takafumi Inoue, Yoshihiro Suematsu	Thoracoscopic left atrial appendectomy and postoperative anticoagulation management as a new approach for stroke prophylaxis in atrial fibrillation patients	World Congress of Surgery 2017	Basel, Switzerland	2017.8
Takafumi Inoue, Yoshihiro Suematsu	Thoracoscopic left atrial appendectomy can prevent patients with atrial fibrillation from thromboembolism without anticoagulants	European Society of Cardiology	Barcelona, Spain	2017.8
井上堯文、倉橋果南、西　智史、他	左心耳切除による弊害はあるか？－左心耳単独切除から考える	第70回日本胸部外科学会定期学術集会	札幌	2017.9
Takafumi Inoue, Yoshihiro Suematsu	Left atrial appendage resection is not only effective, but safe and less-invasive	European Association of Cardio-Thoracic Surgery	Vienna, Austria	2017.10
Takafumi Inoue, Yoshihiro Suematsu	A new method using cardiac computed tomography to analyze left atrial appendage and thereby predict stroke risk in patients with atrial fibrillation	American Heart Association	Anaheim, US	2017.10
森住　誠、井上堯文、西　智史、他	急性大動脈解離治療中に発症した肺梗塞に対してDOACを使用した一例	第37回日本静脈学会総会	徳島	2017.6
森住　誠、倉橋果南、井上堯文、他	炎症を伴う腹部大動脈瘤にEVARを施行した2例	第58回日本脈管学会総会	名古屋	2017.10
森住　誠、倉橋果南、井上堯文、他	内臓逆位を伴う炎症性腹部大動脈瘤にEVARを施行した1例	第25回日本血管外科学会関東甲信越地方会	秋葉原	2017.10
西　智史、横山昌平、井上堯文、他	両下肢虚血を合併した急性大動脈解離Stanford B型に対しTEVARを施行し救肢しえた1例	第244回日本循環器学会関東甲信越地方会	東京	2017.6
吉本明浩、井上堯文、西　智史、他	心室中隔穿孔に対する治療戦略－手術の低侵襲化を目指して－	第70回日本胸部外科学会定期学術集会	札幌	2017.9
倉橋果南	Modified stent-graft implantation for aberrant rt. subclavius artery	5th IUA Course for Young Vascular Specialists	Prague、Czech Republic	2017.7
倉橋果南、井上堯文、吉本明浩、他	術前ショック状態に陥った心室中隔穿孔に対する一手術例	東京胸部外科懇話会	東京	2017.7
倉橋果南、井上堯文、西　智史、他	Stanford B型急性大動脈解離急性期に対するTEVARの有効性の検討	第70回日本胸部外科学会定期学術集会	札幌	2017.9
倉橋果南、末松義弘、清水隆玄、他	僧帽弁前尖領域に対する新しい形成術（スパイダーS法）の経験	第25回茨城循環器病研究会	水戸	2017.11
西　智史、倉橋果南、井上堯文、他	Aberrant right subclavian artery aneurysmの1手術例	第85回茨城心臓血管研究会	つくば	2017.9

脳神経外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
中村和弘	脳卒中の外科治療	大塚製薬社内講演会		2017.5
中村和弘	急性期再開通療法の適応判断に苦慮した脳主幹動脈慢性閉塞の2例	第14回NPO法人日本脳神経血管内治療学会関東地方会学術集会（JSNET関東）	東京	2017.6
岩元博史	頭蓋頚椎移行部硬膜動静脈脈瘻の1例	脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2017	神戸	2017.7
Minami Akahoshi	A case of in-stent acute occlusion follwing carotid artery stenting for restenosis after carotid endarterectomy.	第32回日本脳神経国際学会フォーラム（JNEF2017）	大宮	2017.7
Hirofumi Iwamoto	A case of perimedullary dural arteriovenous fistula at craniocervical Junction	第32回日本脳神経国際学会フォーラム（JNEF2017）	大宮	2017.7

小沼邦之	頭蓋頚椎移行部髄膜腫術後に小脳嚢胞を形成した1例	第133回日本脳神経外科学会関東支部学術集会	東京	2017.9
中村和弘	当院における頚動脈狭窄病変の治療戦略	第76回日本脳神経外科学会学術総会	名古屋	2017.10
小沼邦之	二次性水痘症を合併した頭蓋骨欠損例に対する手術成績の検討	第76回日本脳神経外科学会学術総会	名古屋	2017.10
赤星　南	院内発症の脳主幹動脈閉塞症に対する血管内治療	第76回日本脳神経外科学会学術総会	名古屋	2017.10
Manami Akahoshi	A case of in-stent acute occlusion follwing carotid artery stenting for restenosis after carotid endarterectomy.	14th congress of the world federation of interventional and therapeutic neuroradiology(WFITN2017)	Budapest	2017.10
Hirofumi Iwamoto	A case of perimedullary dural arteriovenous fistula at craniocervical Junction	14th congress of the world federation of interventional and therapeutic neuroradiology(WFITN2017)	Budapest	2017.10
小沼邦之	慢性硬膜下血腫に脊髄硬膜下血腫を伴った1例	第98回茨城脳神経外科集談会	水戸	2017.10
赤星　南	当院における頚動脈狭窄病変の治療戦略	第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会	東京	2017.11
岩元博史	頭蓋骨頚椎移行部硬膜動静脈脈瘻の1例	第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会	東京	2017.11
中村和弘	第4回脳神経外科血管吻合ハンズオンセミナー主催	第4回脳神経外科血管吻合ハンズオンセミナー主催	つくば	2017.11
Minami Akahoshi	Usefulness of transesophageal echocardiography immediately after thrombectomy in cardiogenic embolic stroke	第36回筑波脳神経外科研究会	つくば	2018.2
小沼邦之	脳血管内治療後に頭蓋内造影剤漏出を認めた2例	第47回日本神経放射線学会	つくば	2018.2
赤星　南	経食道エコーで塞栓前後に左房内血栓が確認できた急性期新原性脳梗塞の1例	第47回日本神経放射線学会	つくば	2018.2
赤星　南	Closed cell stent の短縮により open cell stent による再ステント術を要した内頚動脈狭窄症の1例	第43回日本脳卒中学会学術集会（STROKE2018）	福岡	2018.3
中村和弘	心原性脳梗塞予防に対する胸腔鏡下左心耳切除術の有効性	第43回日本脳卒中学会学術集会（STROKE2018）	福岡	2018.3
中村和弘	当院における高位頚動脈狭窄病変に対する頚動脈内膜剥離術の適応と工夫	第47回日本脳卒中の外科学会学術集会（STROKE2018）	福岡	2018.3

整形外科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
野田恵佑、相野谷武士、箱岩篤生	起床時の右片麻痺で発症した頚椎椎間板ヘルニアの1例	第123回茨城県整形外科集談会	つくば市	2017.6
蒲田久典、相野谷武士、箱岩篤生	胸椎椎体骨折後偽関節に対し片側後方進入椎体亜全摘にて脊柱再建を行った3症例	第6回筑波大学整形外科レジデントデイ	つくば市	2017.12
猪股兼人、箱岩篤生、相野谷武士	独歩で来院後，急激に両下肢麻痺を発症し緊急手術を行った特発性脊髄硬膜外血腫の1例	第6回筑波大学整形外科レジデントデイ	つくば市	2017.12

眼科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
森田由香、長谷部聡、矢ケ崎悌司、他	それでいいのか斜視手術 Vol.2 グローバル・スタンダードな術式を体験しよう	第71回日本臨床眼科学会	東京	2017.10
森田由香	斜視診療の基本	第3回視機能を考えるセミナー	茨城	2017.6
森田由香	斜視診療の基本	千寿製薬社内講習会	茨城	2017.10
森田由香	斜視の診療	興和社内講習会	茨城	2017.11
森田由香、板倉宏高、板倉麻理子	黄色ブドウ球菌と緑膿菌に対するオゾンナノバブルの殺菌効果	第 49 回筑波大学眼科集談会	茨城	2018.2
森田由香	小児眼科の診療　斜視を中心に	クラウンジュン社内講習会	茨城	2018.3

麻酔科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
高瀬　肇、箱岩沙織、田島啓一	麻酔導入後の経食道心エコー所見により胸腔鏡下左心耳切除術が中止になった 2 例	日本臨床麻酔学会第 37 回大会	東京	2017.11.1
村田雄哉、猪股伸一、田島啓一	腸骨窩ブロックは人工股関節全置換術の術後鎮痛に有用である	日本麻酔科学会第 64 回学術集会	神戸	2017.6.1

放射線科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
鯨岡結賀	マンモグラフィと超音波検査の総合判定	第16回関東甲信越地方会講習会	東京	2017.11
鯨岡結賀	パネルディスカッション　あなたは総合判定を知っていますか読影医の観点からみた総合判定の現状と課題	第27回日本乳癌画像研究会	沼津	2018.2
＜院内＞				
鯨岡結賀	レジデント薬剤レクチャー			2017.5
鯨岡結賀	栄養科勉強会（心不全と誤嚥性肺炎）			2017.6
鯨岡結賀	レジデントレクチャー（超音波）			2017.6

病理診断科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
臺　勇一、神山幸一	自然血胸を来した髄膜瘤合併 神経線維腫症 1 型、右乳癌術後の 1 例	第 76 回日本病理学会関東支部学術集会	つくば	2017.9
臺　勇一	上部消化管内視鏡 ESD 検体病理報告	第 6 回つくば ESD 病理カンファランス	つくば	2018.2
臺　勇一	症例 1, 2 病理診断	第 102 回茨城県早期胃・大腸癌研究会	つくば	2018.3

リハビリテーション科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
伊佐地隆、佐々木千穂、山見信夫	スキューバダイビング中の循環生理（心電図、血圧、酸素）の変化－血圧の変化を中心に－	第18回潜水医学講座小田原セミナー	小田原	2017.2
冷岡朋美、平島富美子、伊佐地隆	くも膜下出血後脳幹梗塞による四肢麻痺・気管切開症例に対する回復期でのコミュニケーションエイド導入の経験	回復期リハビリテーション病棟協会第 29 回研究大会 in 広島	広島	2017.2
伊佐地隆、佐々木千穂、平島富美子	スキューバダイビングにおける循環生理学的指標の変化　－障害者全体での検討－	第 54 回日本リハビリテーション医学会学術集会	岡山	2017.6

佐々木千穂、野尻明子、伊佐地隆	災害支援とリハビリテーション専門職養成過程からの働きかけ－減災リテラシー科目の効果－	JRAT　平成28年熊本地震JRAT活動検証・研修会	熊本	2017.8
山口可奈、秋山泰蔵、伊佐地隆	健康増進施設の通所リハにおける障害者スポーツの導入	第38回日本リハビリテーションスポーツ学会研究大会	所沢	2017.9
伊佐地隆、佐々木千穂、安岡利一	障害者とともにスキューバダイビングをするということ－なぜボランティアをするのか－	リハビリテーション・ケア合同研究大会久留米2017	久留米	2017.10
伊佐地隆	インクルーシブ社会の創造に向けて シンポジウム『東京2020レガシー“スポーツを通じた共生社会の創造”』	第1回障がい者スポーツ関係学会合同コングレス	東京　早稲田	2017.12
伊佐地隆	脳卒中のリハビリテーション 患者・障害者のためにしていること	第一三共株式会社研修会	東京　品川	2017.5
伊佐地隆	リハビリテーション医療の実際とリハビリテーションのめざすもの	筑波大学　福祉医療学 保健・医療・福祉に関する勉強会	筑波大学	2017.7

診療支援部門

看　護　部

【総括】

2017年度の看護部目標は、1．安全で安心・信頼される質の高い看護を提供する。2．社会情勢や医療制度改革を踏まえ、経営効率を考え行動する。3．筑波記念会の職員ならびに看護専門職としての誇りとやりがいをもち、職務を遂行する。としてきた。

2017年度最大の課題は、永続的な医療の提供と入退院支援体制の構築を目的に療養病棟49床を地域包括ケア病棟へ転換させたことによる病床管理であった。地域包括ケア病棟については、全職員がその機能を理解すること、該当する患者の選定、退院先の調整が課題であった。そこで、病棟看護師長･退院支援看護師を中心に主治医･医療ソーシャルワーカー・企画室と十分に連携したことで、多職種でチームとなって運用に取り組むことができた。

看護部管理業務担当を、総務（太田和子副看護部長）教育（小林純子副看護部長）業務（安達さゆり副看護部長）人事（星豪人副看護部長）の体制とした。また、各部署を、外来部門、超急性期、急性期病棟、慢性期病棟に分け、4人の副看護部長がそれぞれを担当するようにした。看護管理者が毎日部署ラウンドをすることで、看護の現場における問題が見えやすくなり、早めに部署責任者と一緒に改善策を検討する機会を増したことで、より患者さんに満足していただける質の高い看護の提供に努めることができたと考えている。

2017年度の看護部数は、新入職員44名を加え、総数406名でスタートをきった。これは、看護学生実習の受け入れ、病院見学（7回開催）やインターンシップ（22回実施）したことと、外部講師や各インストラクターなど、院内外での活動がリクルートとして身を結んだと考える。新入職員はもちろん、在籍している看護師すべてを人財として育成に尽力してきた。来年度は、さらなる職場定着を目指し、院内スタッフの育成はもちろん、院外での活動の場を増やし、当院看護部の魅力をアピールしていきたい。

【看護部委員会活動報告】

○業務担当者会　活動報告

担当師長・大内　昭子／別所　早美

2017年度は、看護記録の質向上、看護手順・基準の見直し、正確な重症度・医療看護必要度（以下、看護必要度）の評価を目指し、1）看護記録、2）看護基準・手順、3）看護必要度の3つのチームに分かれて活動した。

看護記録チームでは、「転倒転落時の記録」、「急変時の記録」、「記録における倫理的配慮」の3つのテーマで看護記録研修を企画・実施した。また、看護記録監査については、看護必要度に関する記録と転倒・転落時の記録を中心に計4回監査を実施した。監査結果については、個人へフィードバックし、改善方法について個人指導をした。

看護手順・基準チームでは、「救急カートの整備」「入院患者確認方法」「リストバンドの装着方法」「内服の与薬」「中心静脈カテーテルラインの交換」「胃チューブの管理」「シリンジポンプの管理」の看護手順を見直し、改定をした。また、病棟オリエンテーション冊子の内容を見直し、入院患者が常時閲覧できるよう病室毎の設置から各ベッドサイドに設置した。

看護必要度チームでは、看護師の看護必要度評価能力を維持する目的で院内研修を3回実施した。看護必要度の評価は、テストを受け、合格点に達した者が評価可能者としている。また、今年度は必要度評価漏れ対策として、各診療科に関わる特徴的な評価項目を抽出し、可視化した。

○安全対策検討会　活動報告

担当師長・鶴見　幸子

2017年度は、患者誤認・薬剤急速投与・３Ｂレベルの転倒転落「ゼロ」を目標に掲げ、１）患者誤認防止　２）薬剤関連　３）転倒転落防止の３チームに分かれて活動した。

患者誤認の防止に向けては、患者確認動作評価表を一部改定し、自己評価と他者評価を４回実施した。

薬剤関連については、点滴急速投与防止に向けて、iPod認証システムを用いた確認方法の徹底をした。これまで使いこなせていなかったiPod機能を充分に活用できるようにマニュアル化したことで、詳細な薬剤指示の確認がベッドサイトで可能となった。

転倒転落防止に向けては、転倒転落リスク評価として実施した「転ばぬ先の杖」の結果をナースステーション内のベッドボードに表記したことで、多職種での情報共有が可能となった。また、毎月車椅子点検を実施した結果、車椅子整備不良による転倒事故は発生しなかった。

安全対策検討会内では、発生したインシデント事例をもとに毎月カンファレンスを実施している。そこでは、看護業務の内容がマニュアル通りに実践されているかを確認しあい、マニュアルの徹底に努めた。マニュアルの改善が必要な事例については、看護部業務検討会と連携し、看護部業務手順の改定を行った。さらに、看護部教育担当者会が企画・運営している医療安全研修を担当し、医療安全に向けたスタッフ教育にも参加した。

○感染防止対策検討会　活動報告

担当師長・相馬　悟

2017年度は、感染予防に関する知識･技術の徹底を目指し、１）看護技術　２）勉強会　３）手指衛生の３つのチームに分かれて活動した。

看護技術チームでは、吸引技術の統一に向けて、看護部業務検討会、教育担当者会と協働し、吸引技術チェックリストの見直し・修正をした。さらに吸引技術チェックリストに沿った動画を作成し、看護職員の指導教材として院内研修で活用した。

勉強会チームでは、リンクナースを対象とした結核の勉強会を実施した。また、流行感染症の感染対策である吐物処理方法のマニュアルを見直し、看護職員へ院内研修を実施した。

手指衛生チームでは、手指衛生の５つのタイミングを理解してもらうことで、手指衛生に対する意識向上を目指し、手指衛生タイミングチェックリストを作成し、自己評価と他者評価を実施した。

○教育担当者会　活動報告

担当師長・宮澤　久美子／飯島　洋子／中根　登志子

【クリニカルラダー】　参加数：1848名

レベルⅠ：離職率　0

研修は同期にも会える良い機会でもあり、概ね研修評価は良かった。教育担当者側も一年を通して、新人の成長がみられ良かった。離職率は今のところゼロだが、後期になり、病棟への適応ができず、悩む新人がおり、配置換えなどあり、研修への欠席が数名でた。一番大変になる時期を研修でもフォロー出来るとよいか。看護技術研修については、技術、皮膚排泄、摂食嚥下ともに再度の研修を促すことで、さらにレベルアップが期待できるか。ただ、他の技術については各病棟に一任、その成果は次年度の

技術研修にて評価したい。

レベルⅡ：技術チェックについては、全員が復習をした上で臨んでいたが、吸引を除く、他の技術は再テスト者がいた。企画した研修内容は、実際の現場で活かすことに重点を置き、実際の現場で活用できるよう考えた。まだ、研修への動機づけが不足なのか、自分自身で考えていてもわかっていても、それぞれに良い意見を持っているのに自ら発信しない者が多かった。受講する者を引き込めるよう、伝えかたにも工夫をしたい。

レベルⅢ：３年目は事例研究を、ラダー研修は４年目とした。研究については数名発表ができておらず、今後は所属長とも相談し、次年度とする。４年目については、毎回グループワークを取り入れ、講義を受けるだけでなく、自らも参加出来るようにした。ただ、講義中の反応が薄い者や、後期になるにしたがって欠席が目立った。この研修までは必修としている。今後は必ず参加出来るよう、教育担当者からも促したり、企画をねりたい。

レベルⅣ・Ⅴ：参加人数が少ない。少ない研修だからこそ参加を促したいが、教育担当者も自ら参加したいと思うような研修としていきたい。また、一部の研修を看護連盟の研修としたが、こちらも参加が少なかった。

【全体研修】 参加数 960 名

摂食嚥下、皮膚排泄、看護記録については、新人だけが学ぶのではなく、スタッフ全体のレベルアップを図る目的で、今年度より全体研修とした。

研修は摂食嚥下・看護記録が３回のシリーズで、皮膚排泄は２回のシリーズで行い、同内容を２回ないし３回実施した。

研修の中の新人の参加率をみると、皮膚排泄ケア、口腔ケアともに多くて 65％かそれ以下の出席率であり、後半の研修ほど参加率が下がっている傾向にあった。本人の意識もそうであるが各病棟の教育担当者も意識を持って参加させてほしい。

伝達講習会の参加では、２月２日（47 名）、２月９日（32 名）全体的に内容はよかったが、参加者が少なく、発表者のいる病棟は参加があるが、いない病棟の参加がない。参加の呼びかけと教育担当者については必ず参加していく。

看護記録研修については、看護必要度も含め、業務担当者に一任したが、各教育担当者も関心を持つことが必要である。

【看護研究】

発表数：レベルⅢ 43 事例、レベルⅣ８事例、レベルⅤ６事例、院外発表 16 件

クリニカルラダー研修の評価として、また、自身の学習を深められるとして、看護研究を進めてきた。研究に対しては、「出来ればやりたくない」といった声も聞かれ、当初の人数より脱落者が多かったが、それでも例年よりは多くの事例発表ができた。

脱落者が多かった理由としては、動機づけの問題がある。何故研究をやらなければならないのか？病棟単位でみても、１事例も発表の無かった部署もあり、教育担当者だけでなく、各所属長の協力は必要である。また、脱落した者は次年度もチャレンジしてほしいが、どうフォローしていくかが課題である。病棟全体で担当を決めたりと、全員でフォローができれば良い。外部講師の講義にも、はじめから研究のフォローのできる者の参加を促していく。

今後、研究に対しての苦手意識をなくし、研究への動機づけができるような研修にしていきたい。

【まとめ】

入職時のオリエンテーションの技術研修でその内容を変えた。以前は、口腔内・気管内吸引、導尿、採血、点滴、心電図であった。新人がすぐに経験するものではなく、病棟間でも経験に差があった。今年度は、新人が病棟に出て、まず経験することを考慮し、各病棟共通している、ユマニチュードの技術、フィジカルアセスメント、生活支援技術（オムツ交換、点滴をしている人の寝衣交換、車椅子移乗）を取り入れた。

病棟からは良かったという声も聞かれたが、今後はしっかり評価をしていきたい。

また、上記（アンダーライン）の技術については、各病棟での学びになるが、吸引モデル等の貸出を見ていても訓練がどの程度できているのか疑問である。教育担当者、プリセプターの負担が大きかったか？ラダーⅡで技術試験の予定である。

また、クリニカルラダーを取り入れてから４年になり、研修の導入から講義･研修のまとめまで一連の流れができた。受講者、教育担当者、病棟ともに研修への動機づけや、参加意識が向上したと思われる。自ら考えられるようグループワークを多くしたり、事後課題を研修直後ではなく、数ヶ月先に提出させるなど工夫も見られた。さらに今後の教育計画について創意工夫をしていきたい。

教育担当者については、負担が大きいことであると思うが、かなり積極的に計画に取り組めていた。同じラダーの担当者との意見交換もでき、有意義であった。事前課題や、事後課題（研修の評価にもなるので重要）には、しっかり目を通し、受講者の評価とともに、研修者側の評価もしっかりしていきたい。

担当者自身も未経験者は経験者からの学びがあったり、受講者が興味を持ってくれるような研修を計画したり、経験年数は高くても学習する意欲やモチベーションの低い看護師へどうしたら良いか悩んだり、参加者と一緒に学ぶこともでき、と自分達自身の成長にもつながっている。

プロである看護師には、継続教育は必須である。教育担当者会としては、誰かに言われて参加するのではなく、自ら参加し学んで行けるよう、また、学ぶことの大切さが感じられるような働きかけを今後もしていく。また、担当者自身も目標を持って臨んでいく。

［文責：飯村もと子］

【業務実績】

資格取得状況

認定資格等	人　数	前年度増減	認定資格等	人　数	前年度増減
看護教員養成講習会	6		回復期リハビリテーション看護認定者	1	1
認定看護管理者：セカンドレベル	3		介護支援専門員		
認定看護管理者：ファースト	33	4	消化器内視鏡技師	8	2
認定看護師（摂食・嚥下障害看護）	1		呼吸療法指導師	2	
認定看護師（糖尿病）	1		医療安全管理者等研修終了者	2	
認定看護師（救急看護）	1		臨床指導者講習会終了者	45	4
認定看護師（感染管理）	1		人工心臓管理技師認定士	1	
認定看護師（緩和ケア）		1	介護教員講習会	1	
認定看護師（集中ケア）		1	糖尿病療養指導師	3	
特定行為にかかる看護師		1			

2018年3月31日現在

実習受け入れ実績表（病棟別）

病　棟	学　校　名	実　習　科　目　名	時　期	受入人数	延べ人数
2号棟3階	県立岩瀬高校専攻科	看護の統合と実践	5月～7月	8	20
	つくば国際大学	総合実習	9月	4	
	アール医療福祉専門学校	基礎看護学実習	11月	4	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	4	
1号棟2階	アール医療福祉専門学校	基礎看護学実習	11月	4	4
2号棟4階	つくば国際大学	総合実習	9月	3	33
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ　Ⅱ	10月･11月	16	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	2	
	東京衛生学園専門学校	統合実習	10月	3	
	東京衛生学園専門学校	老年看護学実習	9月	3	
	東京衛生学園専門学校	基礎看護学実習	12月	3	
	国際メディカルテクノロジー専門学校	基礎看護学実習	9月	3	
2号棟5階	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ　Ⅱ	10月･11月	12	32
	筑波大学	総合実習	7月	2	
	東京衛生学園専門学校	統合実習	10月	3	
	東京衛生学園専門学校	老年看護学実習	9月	3	
	東京衛生学園専門学校	基礎看護学実習	12月	3	
	つくば国際大学	総合実習	9月	3	
	国際メディカルテクノロジー専門学校	基礎実習	9月	3	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	3	
S棟3階西	アール医療福祉専門学校	成人看護学実習Ⅱ（急性期）	6月･7月	6	25
	東京衛生学園専門学校	成人看護学実習	7月	3	
	つくば国際大学	総合実習	9月	4	
	つくば国際大学	成人看護学実習Ⅰ（急性期）	10月･11月	8	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	4	
S棟3階東	アール医療福祉専門学校	成人看護学実習Ⅱ（急性期）	6月	3	19
	つくば国際大学	総合実習	9月	4	
	つくば国際大学	成人看護学実習Ⅰ（急性期）	10月･11月	8	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	4	

S棟4階西	アール医療福祉専門学校	成人看護学実習Ⅱ（急性期）	6月･7月	6	32
	つくば国際大学	総合実習	9月	4	
	東京衛生学園専門学校	成人看護学実習	6月	3	
	アール医療福祉専門学校	基礎看護学実習	11月	4	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	4	
	国際メディカルテクノロジー専門学校	成人看護学実習	12月	3	
	県立岩瀬高校専攻科	成人看護学実習	1月･2月	4	
	県立岩瀬高校専攻科	老年看護学実習	2月	4	
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ	9月		
S棟4階東	つくば国際大学	看護の統合と実践	8月	4	28
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ　Ⅱ	10月･11月	16	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	4	
	県立岩瀬高校専攻科	看護の統合と実践	5月～7月	4	
S棟5階西	つくば国際大学	総合実習	9月	4	36
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ　Ⅱ	10月･11月	16	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	4	
	県立岩瀬高校専攻科	成人看護学実習	1月･2月	4	
	〃	老年看護学実習	2月	4	
	〃	統合看護学実習	2月	4	
S棟5階東	つくば国際大学	総合実習	9月	4	36
	筑波大学	高齢者看護学実習Ⅰ　Ⅱ	10月･11月	16	
	茨城県きぬ看護専門学校	基礎看護学実習Ⅰ－3	12月	4	
	県立岩瀬高校専攻科	成人看護学実習	1月･2月	4	
	〃	老年看護学実習	2月	4	
	〃	統合看護学実習	2月	4	
訪問看護	茨城県きぬ看護専門学校	在宅看護論実習	4月～10月	16	34
	つくば国際大学	在宅看護論実習	5月～7月	4	
	東京衛生学園専門学校	在宅看護論実習	8月･9月	6	
	筑波大学	在宅看護論実習	12月～2月	8	
ケアセンター	つくば国際大学	在宅看護論実習	5月～7月	36	40
	アール医療福祉専門学校	老年看護学実習Ⅰ	11月	4	
				合計人数	339

非常勤講師派遣

講　師	内　　容	依　頼　元	開催年月
星　典子	看護の基本となる技術Ⅱ（感染予防技術）	茨城県結城看護専門学校	2017.4.17～6.12
〃	平成29年度看護職カムバック支援セミナー講師	茨城県看護協会	2019.9.29
〃	介護付き有料老人ホーム感染対策研修講師	サンテーヌ土浦	2019.11.1
宮澤久美子	成人看護学援助論Ⅴ（血液造血器）	茨城県結城看護専門学校	2017.9.15～10.13
菊池　由香	看護専任教員	茨城県結城看護専門学校	2017.4～2018.3
飯島　洋子	人体と看護・疾病と看護（消化器）	茨城県立岩瀬高等学校衛生看護科	2017.9.7～11.2
小林　朋子	看護の統合と実践（医療安全）	茨城県立岩瀬高等学校衛生看護科	2018.1.12～2.9
小林　純子	看護の統合と実践（看護管理）	茨城県立岩瀬高等学校衛生看護科	2018.1.12～2.9
〃	看護管理	土浦看護専門学校（3年課程）	2017.8.10～11.27
日向　澄実	在宅看護方法論Ⅱ	茨城県立岩瀬高等学校衛生看護科	2017.11.1～2018.1.31
別所　早美	人体と看護・疾病と看護（乳房）	茨城県立岩瀬高等学校衛生看護科	2018.1.22～1.29
星　豪人	看護の統合と実践（国際看護）	茨城県立岩瀬高等学校衛生看護科	2017.4.18～4.26
〃	災害看護初期セミナー　インストラクター	日本救急看護学会（福島県立医科大学）	2017.9.2～9.3
〃	その他PUSHインストラクター１）消防関係3回、2）		

山下　　彩	看護の統合と実践（災害看護）	茨城県立岩瀬高等学校衛生看護科	2017.10.12～11.30
〃	第7回看護研究発表会講評	茨城県立岩瀬高等学校衛生看護科	2017.9.29
安達さゆり	看護管理	土浦看護専門学校（2年課程）	2017.8.18～11.17
木内　亮子	内分泌・代謝疾患看護第2章	土浦医師会附属准看護学院	2017.8.23～10.2
〃	県看護実践研修　糖尿病　ファシリテーター	茨城県看護協会	2017.10.31
〃	第5回つくば3C研究会講師	第5回つくば3C（土浦協同病院）	2018.2.24
鶴見　幸子	循環器疾患看護第2章	土浦医師会附属准看護学院	2017.12.12～2018.1.16
猪瀬　里美	脳神経疾患看護第2章	土浦医師会附属准看護学院	2018.1.5～1.26
大和田道代	耳鼻咽喉疾患看護第2章	土浦医師会附属准看護学院	2018.1.9～1.23
野口　里美	血液・造血器疾患看護第2章	土浦医師会附属准看護学院	2018.1.30～2.13
櫻井江利子	第8回筑波大学附属病院ICLSコース指導者	筑波大学総合臨床教育センター	2017.6.17
〃	第16回きぬ外傷セミナー講師	つくば常総地区MC協議会	2017.7.22
〃	第18回霞ヶ浦外傷セミナー講師	稲敷地区MC協議会教育研修部	2017.8.27
〃	筑波大学病院ICLS指導者	筑波大学病院ICLS	2017.10.28
〃	第44回稲敷MC　ICLSコース指導者	稲敷地区MC協議会教育研修部	2017.10.1
〃	第44回稲敷MC　ICLSコース指導者	稲敷地区MC協議会教育研修部	2017.10.1
〃	第3回JMECC講習会講師	茨城県地域医療支援センター	2018.3.3
〃	第6・7回つくば・常総地区ISLS指導者	つくば常総地区MC協議会（筑波大学病院）	2018.3.4
〃	土浦ICLSワークショップ指導者	土浦地区MC協議会（土浦協同病院）	2018.3.24
〃	土浦MC　ICLS指導者養成コース指導者		2018.3.25
岡野　麻由	第24回つくば常総地区ICLSコース指導者	つくば常総地区MC協議会	2017.11.3
〃	第25回つくば常総地区ICLSコース指導者	つくば常総地区MC協議会（きぬ看専）	2018.2.18
〃	第3回JMECC講習会講師	茨城県地域医療支援センター	2018.3.3
阿部真由美	平成29年度看護職カムバック支援セミナー講師	茨城県看護協会（白十字看護専門学校）	2017.8.8
大和田道代	実習終了後の学内報告会講評	アール医療福祉専門学校	2017.11.20
塚原　みき	実習終了後の学内報告会講評	アール医療福祉専門学校	2017.11.20

【筑波大学臨床看護教授】 2017.4.1 ～ 2018.3.31
小林朋子・宮澤久美子・宮本香里・森　純子・吉田奈美・高橋久美子・田中里枝・山下　彩・斉藤あゆみ・櫻井裕美

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
太田　和子	地域包括ケア病棟開床の現状と課題	第48回日本看護学会−在宅看護学術集会	つくば国際会議場	2017.9.14
海老原幸恵	胃 ESD などを含む治療内視鏡におけるタイムアウト導入の意義	第93回日本消化器内視鏡学会	大阪国際会議場	2017.5.13
木内　亮子	独居で暮らす 2 型糖尿病患者のインスリン導入を通して高齢糖尿病患者の支援を考える	第60回日本糖尿病学会年次学術集会	名古屋国際会議場	2017.5.18
星　　豪人	小学生への心肺蘇生教育実施報告 ～ PUSH コース教材を使用して～	第20回日本臨床救急医学会	東京ビッグサイト	2017.5.27
〃	AMAT 災害訓練を経験して	第59回全日本病院学会	石川	2017.9.10
星　　典子	感染性廃棄物のコスト削減への取り組みとその効果	第19回日本医療マネジメント学会学術総会	仙台国際センター	2017.7.7
小林　朋子	他職種による転倒転落対策チームの発足とその活動報告	第19回日本医療マネジメント学会学術総会	仙台国際センター	2017.7.7
古澤　則子	MSW 早期介入を目指した救急外来でのスクリーニングシート作成	第19回日本救急学会学術集会	金沢市本多の森ホール	2017.10.6
鈴木　美帆	当院における健康教育の効果と現状	第46回日本総合健診医学会	愛知県産業労働センター	2018.1.26
佐々木美保子	地域包括ケア病棟開床の現状と課題～療養病棟から地域包括ケア病棟への転換～	第18回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会	筑波大学大学会館	2017.9.16

佐藤　陽子	療養病棟にて病棟看護師が行う退院支援の現状と課題	第18回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会	筑波大学大学会館	2017.9.16
藤森　早苗	急性期病棟における退院支援の現状と課題	第18回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会	筑波大学大学会館	2017.9.16
田口　京子	当院看護師ラダーⅤの心肺蘇生教育に対する現状と課題	第18回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会	筑波大学大学会館	2017.9.16
神馬　美姫	消化器内視鏡治療におけるタイムアウト導入の意義	第18回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会	筑波大学大学会館	2017.9.16
皆川　隆志	他職種連携による転倒転落防止対策の効果	リハビリテーション・ケア合同研究大会　久留米2017	久留米シティプラザ	2017.10.19
大西沙弥香	死戦期呼吸を含めた心肺蘇生教育の導入～ PUSH 教材の活用～	第41回茨城県救急学会	水戸医師会会館	2017.9.9
月島　沙織	嚥下障害に対するバルーン拡張療法実施における看護師介入の検討	第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会		

薬　剤　部

【総括】

1．2017 年度の実績報告

1）病棟薬剤業務の充実と、薬剤部の保険収入の維持

薬剤管理指導件数は 854 件／月と目標の 850 件／月を達成し、はじめて 1 万件／年の大台に到達した。退院時指導件数も 2016 年度の 2152 件から 2315 件と約 8 %増加した。抗癌剤の無菌調製件数は 2016 年度の入院 1885 件、外来 857 件から入院 2056 件、外来 1059 件と約 14%増加した。これら薬剤管理指導料等の保険収入の合計は 2016 年度が約 4880 万円であったのに対し、2017 年度は約 4830 万円となり前年並みを維持できた。

2）目標達成のための人員確保（薬剤師 27 名体制）と残業時間の短縮

年度内に合計 7 名の薬剤師が退職し、目標達成のための人員確保とは程遠い 19 人となった。残業時間も短縮できず、月平均で 437 時間であった。

3）業務効率化のための機器（自動アンプル払出し装置、散薬調剤ロボット等）の導入

自動アンプル払出し装置の導入が決まり、2018 年度前半にはフル稼働する予定である。

病棟薬剤業務実施加算が引き下げられて約 150 万円／年の減収となったにもかかわらず、総収入を維持できたのは、薬剤管理指導件数、退院時指導件数等で算定件数を過去最大まで伸ばしたことによるものであり、薬剤部員の努力は大いに評価できる。

2．2018 年度の課題・目標

1）薬剤部 27 名体制をとるための人材確保

リクルートセンターと協力して優秀な新卒薬剤師を早期に確保し、2019 年度は最低でも薬剤師 27 名として体制を整える。

2）病棟薬剤業務実施加算の維持

極端なマンパワー不足に陥っているため、薬剤管理指導件数の減少は避けられないが、自動アンプル払出し装置を活用して病棟薬剤業務に係る時間を捻出し、病棟薬剤業務実施加算は取り下げることなく、その維持を図る。

3）早期に実戦配備可能な人材を育成するための新人薬剤師教育プログラムの実践

新人薬剤師教育プログラムに従って計画的な教育を行い、漏れなく業務全般の基本的事項を習得させる。本教育は新人薬剤師 1 名に経験 3 年以上のチューターが 1 名ついてマンツーマンで実施する。

4 月中に病院内各部署の見学・体験を行い、「チーム医療を担う薬剤師」として成長させる。

［文責：垣内祥宏］

【業務実績】

	入院処方箋枚数	抗癌剤無菌調製件数（入院）	抗癌剤無菌調製件数（外来）	薬剤管理指導(Ⅰ) 件数（380 点）	薬剤管理指導(Ⅱ) 件数（325 点）	退院時薬剤管理指導件数（90 点）	無菌製剤処理料算定件数（無菌1イ+無菌1ロ+無菌2）	薬剤病棟業務実施加算（100 点）
2016年度	65788	1885	857	1619	8584	2152	3013	11125
2017年度	71209	2056	1059	1674	8573	2315	4912	9659

	薬剤管理指導料Ⅱ（380 点）	薬剤管理指導料Ⅰ（325 点）	退院時薬剤管理指導料（90 点）	無菌製剤処理料（無菌1イ+無菌1ロ+無菌2）	薬剤病棟業務実施加算（100 点）	合計
2016年度	¥6,152,200	¥27,898,000	¥1,936,800	¥1,736,200	¥11,125,000	¥48,848,200
2017年度	¥6,361,200	¥27,862,250	¥2,083,500	¥2,300,000	¥9,659,000	¥48,265,950

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
垣内祥宏、本郷尚子、渥美弘美	当院における DPP4 阻害薬の処方状況と併用薬に関する調査	第 18 回日本医療マネージメント学会　茨城県支部学術集会	つくば	2017.9

放　射　線　部

【総括】

1．2017 年度の実績報告

4 月に診療放射線技師 3 名の入職で診療放射線技師 26 名、臨床検査技師 2 名で CT、MRI、超音波、消化管造影、血管造影、心臓カテーテル、単純 X 線、核医学、出張検診（胸部、胃部）の画像診断検査を行った。技師の増員による検査効率がアップした為 2016 年度と比べ、病院で CT が 9%増加し、クリニックで CT が 7%増加した。また女性技師の増員（3 名）により、乳がん検診枠を増やし予約待ち日数の減少および検査数が増加した。

職員の教育として各モダリティのマニュアルを作成し新人教育に応用した。ヒヤリハット事例は週 1 回の連絡会で職員間の情報共有に努めた。また造影剤使用時における急変時の対応として、副作用に対するシュミレーショントレーニングを定期的に行った。（5 月、11 月）

心カテ、血管造影装置を更新し、被ばく線量と造影剤の低減と高画質の検査および血管内治療が可能となった。

学会発表は日本超音波医学会第 90 回学術集会に 1 演題を発表した。

2．2018 年度の課題・目標

4 月にハイブリッドオペ室の増設にあたり特に心臓血管外科の人工血管置換術の定時及び緊急手術に対応していきたい。

検診部門ではプレミアムドック、大腸がんドックを新設し特色のある検診に取り組んでいきたい。

［文責：星野建仁］

【業務実績】

筑波記念病院（2017.4 ～ 2018.3）

	CT	MRI	超音波	血管造影	心臓カテーテル／アブレーション	単純 X 線撮影	マンモグラフィー	核医学
2016 年度	11,748	4,586	4,191	108	555/75	42,918	5,068	277
2017 年度	12,790	4,562	3,967	96	486/85	43,058	5,105	303

筑波総合クリニック（2017.4 ～ 2018.3）

	CT	MRI	単純 X 線撮影	骨密度
2016 年度	6,114	4,094	19,295	910
2017 年度	6,526	3,842	19,689	964

つくばトータルヘルスプラザ（2017.4 ～ 2018.3）

	施設内での健診		出張検診	
	胸部	胃部	胸部	胃部
2016 年度	22,601	13,323	12,551	2,436
2017 年度	23,288	13,863	12,787	2,498

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
角田好江	出血壊死にて増大を示した乳管内乳頭腫の 1 例	日本超音波医学会第 90 回学術集会	栃木県総合文化センター	2017.5.26～28

リハビリテーション部

【総括】

リハビリテーション（以下、リハ）部では新卒職員43名（理学療法士26名、作業療法士14名、言語聴覚士3名）、中途採用の理学療法士1名を迎え、常勤リハ専門職231名（理学療法士148名、作業療法士56名、言語聴覚士27名）、非常勤リハ専門職3名（理学療法士1名、作業療法士2名）の計234名で、役職者として部長1名、科長4名、係長6名、主任12名、副主任11名の体制でスタートした。常勤リハ専門職160.5名（理学療法士122名、作業療法46名、言語聴覚士22名）を病院の入院部門および外来部門に配置した。2017年10月に理学療法士1名を中途採用し、副主任1名が主任に昇進した。2017年度の退職者は常勤24名（理学療法士14名、作業療法士4名、言語聴覚士6名）であった。2018年度は4月から常勤33名（理学療法士20名（内、中途1名）、作業療法士11名、言語聴覚士2名（内、中途1名））に加えて新卒の義肢装具士1名が入職見込みである。

リハ実施患者の延べ件数は前年度より入院は2.2％増、外来は5.4％増であった。リハ新規指示患者件数は前年度より入院は10.1％増、外来は2.1％増であった。リハ実施単位数は入院、外来及び訪問の合計において前年度より18.3％増であった。診療点数に換算すると17.4％増であった。勤務する常勤のリハ専門職の職員数は前年度より23名増加し、業務に従事したリハ専門職の延べ出勤日数は前年度より15.8％増であった。今年度も昨年度に引き続き医療の質を維持しつつ診療実績の向上に努め、セラピスト1人あたりの1日あたりの診療実施単位数を前年度より2.1％増となった。

その他に2015年度に再構築し、2016年度から導入した臨床研修体制は2年が経過し、当初の目標どおりに部内で定めた臨床領域の経験を完了した職員を多く養成することができた。今後、教育効果や教育目標の達成状況、業務効率などの観点から評価し、改善を重ねていく。また、リハ科専門医と共同して、主に新人職員の育成に取り組んだ。

2018年度の課題は前年度に引き続き医療サービスの質の向上及び業務効率の向上である。医療サービスの質の向上のために人材育成のための各種研修（課題別研修、職種別研修、部門研修）を企画・実践し、その効果を検証することに取り組んでいく。また臨床の質の向上のためにデータベースの構築に取り組むとともに、臨床研究を推進していく。業務効率の向上については、医療サービスの質を担保しつつ、業務改善を図り、専ら診療に従事するセラピストについては1人あたり1日あたりの診療実施単位数の目標を17単位以上として取り組んでいく。また患者の病態に応じてリハサービスを提供する体制を一層強化し、患者1人あたり1日あたりの診療実施単位数の向上を図っていく。

より質の高い十分なリハ医療サービスを多くの患者へ提供するために、職員にとって魅力ある職場となることを念頭におきつつ、業務のシステムの見直し及び人材育成のための教育・研修体制の充実を図っていく。

［文責：金森毅繁］

【業務実績】　※（　）内の数値は2016年度の実績

リハビリテーション実施患者延べ件数（件）

入院	123,856（121,202）
外来	15,400（14,616）
訪問	237（254）

リハビリテーション新規指示患者件数（件）

入院	リハビリテーション	4,012（3,644）
	内、理学療法	3,715（3,366）
	内、作業療法	2,215（1,967）
	内、言語聴覚療法	1,187（1,031）
外来	リハビリテーション	393（385）
	内、理学療法	238（199）
	内、作業療法	139（180）
	内、言語聴覚療法	123（109）

リハビリテーション実施単位数（単位）

入院	一般病棟	300,426（237,386）
	回復期リハ病棟	139,243（128,081）
	医療療養・地域包括ケア病棟	71,481（61,931）
外来		47,315（44,746）
訪問		488（540）
計		558,953（472,684）

スタッフ年間延べ出勤日数（人）

入院	一般病棟	21,026（17,019）
	回復期リハ病棟	9,374（8,566）
	医療療養・地域包括ケア病棟	5,048（4,195）
外来		3,204（3,585）
計		38,652（33,365）

患者１人あたりのリハビリテーション実施単位数（単位 / 人）

入院	一般病棟	4.5（3.7）
	回復期リハ病棟	7.9（7.3）
	医療療養・地域包括ケア病棟	2.9（2.6）
外来		3.1（3.0）
訪問		2.1（2.1）
計		4.5（3.9）

その他の業務実績（件）

嚥下造影検査	47（63）
嚥下内視鏡検査	47（17）
リハビリテーション総合実施計画書 入院 外来	 5,132（5,077） 1,888（2,100）
退院前訪問指導	358（266）
退院時リハ指導	1,953（1,800）

支援

内　　容	支　援　先	場　所	実　績
セラピスト学校訪問事業	伊奈特別支援学校	伊奈	年 3 回
	つくば特別支援学校	つくば	年 24 回
	土浦特別支援学校	土浦	年 3 回
心身障害児を対象とした機能訓練事業	常総市児童デイサービスセンター	常総市	年 23 回

【支援・出向】

支援者名	目的	支援先	場所	期間
藤原祐介	OSCE の外部評価者	茨城県立医療大学	阿見町	2017 年 9 月 28 日
渕田隆洋	OSCE の外部評価者	茨城県立医療大学	阿見町	2018 年 2 月 20 日
渡辺恵美子	小児リハビリ	常総市児童デイ	常総市	2017 年 4 月から月 1 回
江尻聡美	自立支援活動	伊奈特別支援学校	つくばみらい市	2017 年 11 月、2018 年 1 月
江尻聡美	自立支援活動	つくば特別支援学校	つくば市	2017 年 11 月、12 月、2018 年 1 月、2 月
大原裕子	個別相談、職員研修	つくば特別支援学校	つくば市	2017 年 5 月～ 2018 年 2 月
大原裕子	個別相談、職員研修	土浦特別支援学校	土浦市	2017 年 5 月～ 2018 年 2 月
大原裕子	個別相談、職員研修	伊奈特別支援学校	つくばみらい市	2017 年 5 月～ 2018 年 2 月
西川浩子	個別リハ、地域支援	常総市児童デイ	常総市	2017 年 4 月から月 1 回
西川浩子	自立活動、外部専門家の活動	つくば特別支援学校	つくば市	2017 年 4 月から年 8 回

【論文】

著　者	論文タイトル	誌　名	巻（号）	ページ	発行年月
山口普己	連載 回復期病院紹介 NO.50「筑波記念病院」	回復期リハビリテーション	1	37-43	2017
Naoki Tanaka	Efficacy of the Gait Training Using Footpad-Type Locomotion Interface in Chronic Post-Stroke Patients: A Pilot Study	J Nov Physiother	4	－	2017

【書籍】

著　者	書　籍　名	監修・編集	担当項目	出　版　社	ページ	発行年月
大原裕子	障害者心理学：シリーズ心理学と仕事 15	柿澤敏文	現場の声５言語聴覚士	北大路書房	55-56	2017.7

学会発表

発表者	演　題　名	学　会　名	開　催　地	開催年月
渡邉　崇	転移性脊椎腫瘍に罹患した訪問リハビリテーション利用者の情報収集の重要性に関する一考察	日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 北海道	札幌市	2017.6
田中直樹	歩行感覚提示装置を用いた歩行トレーニングが健康関連 QOL に与える影響	第 54 回日本リハビリテーション医学会学術集会	岡山市	2017.6
松井智世	仙骨部の褥瘡のため経口摂取に難渋した症例	第 18 回日本言語聴覚学会	松江市	2017.6
宮﨑　仁	理学療法士の臨床技能評価のために作成した評価表の使用経験	第 19 回日本医療マネジメント学会	仙台市	2017.7
菅生真行	術前身体機能は術後リハビリテーションに影響を及ぼすか？	第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	岐阜市	2017.7
廣田新平	高齢開心術患者における移動動作能力低下に及ぼす術前・術後因子の検討	第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	岐阜市	2017.7
鈴木　賢	開心術における換気障害患者の術後呼吸機能の経時的回復について	第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	岐阜市	2017.7
直井里冴	関節リウマチによる伸筋腱突発性断裂術後の症例を経験して	第 14 回茨城リウマチケア研究会	つくば市	2017.7
山口可奈	健康増進施設に併設して運営する通所リハの現状と課題	第 36 回全国デイ・ケア研究大会 in 熊本	熊本市	2017.8
廣田新平	当院での 80 歳以上の超高齢開心術患者における術後の歩行獲得時期の検討	日本心臓リハビリテーション学会第 2 回関東甲信越支部地方会	松本市	2017.9
相原祐樹	緊急術後患者に対する排泄動作獲得に向けての作業療法の関わりについて	日本心臓リハビリテーション学会第 2 回関東甲信越支部地方会	松本市	2017.9
金森毅繁	当院における理学療法実施中の転倒・転落事例について	第 18 回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会	つくば市	2017.9

宮﨑　仁	当院リハビリテーション部新入職員の感染症予防に関する意識の調査	第18回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会	つくば市	2017.9
江尻聡美	場面緘黙における自己効力感の向上を目的とした作業療法が効果を示した一事例	第51回日本作業療法学会	千代田区	2017.9
高橋広樹	回復期脳出血患者に対し歩行神経筋電気刺激装置(ウォークエイド®)を用いた一症例	第35回関東甲信越ブロック理学療法士学会	長野市	2017.9
加藤隆三	胸腰椎椎体骨折患者の在院日数長期化の要因について	リハビリテーション・ケア合同研究大会久留米2017	久留米市	2017.10
阿部祐太	大腿骨頚部骨折患者の在院日数長期化の要因について	リハビリテーション・ケア合同研究大会久留米2017	久留米市	2017.10
宮本明輝美	自ら成長するセラピストを育成するための試み	リハビリテーション・ケア合同研究大会久留米2018	久留米市	2017.10
豊田祐子	髄膜腫摘出後、小脳梗塞を発症し歩行障害を呈した患者に行った理学療法	第6回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.10
橋本直樹	視覚フィードバックを用いたアプローチを実施し歩行能力が向上した症例	第6回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.10
永木雄也	急性硬膜下血腫により意識障害を呈した患者に対するBWSTT介入の経験	第6回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.10
安相宏美	脊髄梗塞患者の歩行自立のための理学療法を経験して	第6回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.10
野口　舞	足底装具の導入と家屋改修により屋外歩行が自立した症例	第6回つくばブロック症例検討会	つくば市	2017.10
稲葉達也	人工股関節全置換術施行前に転倒し、大腿骨頚部骨折を呈した症例を経験して	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
白井　将	骨接合術後に右変形性股関節症を発症し、人工股関節置換術を施行し術前歩行能力が獲得できた症例を経験して	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
取次　歩	左TKA術後に膝伸展制限が認められ縫工筋・大腿筋膜アプローチし、改善した症例	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
内藤由梨奈	TKA施行後、腰椎椎体骨折により早期離床が困難となった症例を経験して	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
栗﨑裕一	壮年期女性に対する人工股関節全置換術後の歩容改善を目指した症例	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
西巻智貴	両変形性膝関節症を合併する脳梗塞片麻痺患者の急性期理学療法を経験して	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
關　泰徳	低栄養により長期臥床された症例の経験、離床を目指して	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
平塚隼太	多発性骨髄腫を発症し転倒を契機に軸椎に骨折を呈した症例の病棟での排泄動作獲得に向けた取り組み	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
斎賀智子	有酸素運動が困難な急性骨髄性白血病患者への理学療法を経験して	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
出口志穂	簡易陽圧装置による活動制限にて廃用症候群が進行した重症再生不良性貧血患者の理学療法を経験して	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
山本真愛	悪性リンパ腫発症後、転倒による大腿骨外側顆骨折をきっかけにADL全介助レベルとなった化学療法中の一症例	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
佐藤　恵	化学療法施行後に敗血症や白室脳症を発症した急性骨髄性白血病患者の理学療法を経験して	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
佐藤　翼	四肢完全免荷で活動制限がありながら二次的合併症発症予防とADL拡大を図れた症例	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
東山知未	終末期がん患者に対する計画的な関わりの一考察～孫の結婚式に出たいという症例を経験して～	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10

谷貝侑美	失語症により意思表示が困難となった症例を経験して	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
綿引智生	開胸術後の独居生活に向けて～認知機能を考慮した作業療法士としての関わり～	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
柴田若菜	脊髄梗塞患者に対すて免荷トレッドミルでの歩行練習を行った経験をして	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
松本静流	摂食嚥下の先行期着目し、誤嚥のリスクを軽減させた症例を経験して	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
杉田　昂	腸閉塞を基礎疾患とし、夜間せん妄を呈した症例を経験して	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
大野裕司	肺癌術後に突発性肺線維症の急性増悪を呈した患者を経験して	つくば地域リハ・セミナー第25回症例検討会	つくば市	2017.10
矢田部隼	消化器癌患者の術後身体機能に影響する因子の検討	第27回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	仙台市	2017.11
岩船　傑	注意・記録・計算機能の改善へのこだわりが強く生活に近い訓練に同意が得られなかった高次脳機能障害患者を経験して	茨城県言語聴覚士会つくば土浦地域症例検討会	つくば市	2017.11
西山佳吾	クモ膜下出血、脳梗塞発症後、誤嚥性肺炎により廃用症候群を呈した症例に対し、経口接種獲得に向けたアプローチを経験して	茨城県言語聴覚士会つくば土浦地域症例検討会	つくば市	2017.11
山之内秀治	完全側臥位法を用いて十分な摂取量が向上した一例	茨城県言語聴覚士会つくば土浦地域症例検討会	つくば市	2017.11
古川奈々美	高次脳機能障害を呈した症例と家族に対する生活移行支援	第10回茨城県作業療法学会	阿見町	2018.2
薄井絵里奈	開胸術後の症例に対する調理復帰への支援	第10回茨城県作業療法学会	阿見町	2018.2
篠﨑圭祐	スプリントの導入により患手管理の獲得を行えた症例	第10回茨城県作業療法学会	阿見町	2018.2
秋元安澄	更衣動作練習において難渋した症例を経験して	第10回茨城県作業療法学会	阿見町	2018.2
文字山あゆみ	意志に基づいた作業活動の導入における評価法併用の経験について	第10回茨城県作業療法学会	阿見町	2018.2
村山　潤	趣味活動である釣りの支援により活動への意欲が向上した症例	第10回茨城県作業療法学会	阿見町	2018.2
鈴木史織	上着を自分着れるようになりたい～着衣工程に着目し、着衣動作獲得に向けた介入～	第10回茨城県作業療法学会	阿見町	2018.2
石井美彩貴	軽度の片麻痺患者に対して自信の再獲得に向けた関わりの一例	第10回茨城県作業療法学会	阿見町	2018.2
中澤美咲	孫におじいちゃんの料理が一番と言ってほしい！～意図的な介入による自己効力感の向上を目指して～	第10回茨城県作業療法学会	阿見町	2018.2
足立健太	回復期脳卒中患者に対してADL練習とModifiedCI療法を併用した一例	回復期リハビリテーション病棟協会第31回研究大会in岩手	盛岡市	2018.2
藤原祐介	前立腺摘出後の尿失禁に対しレッドコードを行い、症状が改善した一例	第20回日本レッドコード研究会学術大会	足立区	2018.2
薬師地俊光	当事業所における訪問リハビリテーション終了後の社会参加の状況について	茨城県介護保健施設協会研究発表会	つくば市	2018.2
杉田昂翼	慢性閉塞性肺疾患を呈した症例の理学療法を経験して	第6回つくばブロック症例検討会	つくば市	2018.3
松本静流	肺癌末期患者の運動負荷量に対してBorg Sclaeを使用しADL拡大を図れた症例を経験して	第7回つくばブロック症例検討会	つくば市	2018.3
出口志穂	ADLが向上して余暇活動への参加が可能になった多発病的骨折を呈した多発性骨髄腫患者の理学療法を経験して	第8回つくばブロック症例検討会	つくば市	2018.3
取次　歩	右THAを施行し、術前からの指導により脱臼肢位の理解・動作の定着を図れた症例	第7回つくばブロック症例検討会	つくば市	2018.3
今井　伸	安静度制限下における超高齢心不全患者の理学療法を経験して	第7回つくばブロック症例検討会	つくば市	2018.3

内藤由梨奈	THA 後、自覚的・他覚的脚長差により歩行獲得に難渋した症例～視覚的フィードバックを利用して～	第 7 回つくばブロック症例検討会	つくば市	2018.3
森田愛理	くも膜下出血により注意障害を呈する症例の歩行能力向上を目指した理学療法を経験して	第 7 回つくばブロック症例検討会	つくば市	2018.3
土田祥史	重度右片麻痺患者に歩行感覚提示装置を用い歩行能力向上を認めた症例を経験して	第 7 回つくばブロック症例検討会	つくば市	2018.3
伊澤　希	術前からせん妄を呈していた冠動脈バイパス術を施行した患者を経験して	第 7 回つくばブロック症例検討会	つくば市	2018.3
田村友基	心不全患者の理学療法を経験して～呼吸困難感に着目して～	つくば地域リハ・セミナー第 26 回症例検討会	つくば市	2018.3
千葉明香里	僧房弁輪形成術後に生じた酸素化不良に対して早期離床を目的に非侵襲的陽圧換気療法を使用した症例	つくば地域リハ・セミナー第 26 回症例検討会	つくば市	2018.3
佐藤　翼	化学療法実施中の倦怠感により活動制限を呈した悪性リンパ腫の一症例	つくば地域リハ・セミナー第 26 回症例検討会	つくば市	2018.3
野口　舞	長期間化学療法を実施している高齢急性骨髄性白血病患者の身体機能維持が可能となった一症例	つくば地域リハ・セミナー第 26 回症例検討会	つくば市	2018.3
木村直子	右方麻痺患者の排泄動作能力獲得を目指した介入	つくば地域リハ・セミナー第 26 回症例検討会	つくば市	2018.3
鈴木龍也	意志の変化により活動選択が行えた症例	つくば地域リハ・セミナー第 26 回症例検討会	つくば市	2018.3
田中沙季	既往に知的障害を呈した胸椎損傷患者に対し、「達成感」によってリハビリへの意欲を引き出せた症例	つくば地域リハ・セミナー第 26 回症例検討会	つくば市	2018.3
東山知未	人工呼吸器装着中のギラン・バレー症候群患者に対するコミュニケーション手段の検討	つくば地域リハ・セミナー第 26 回症例検討会	つくば市	2018.3
小石川由梨	高次脳機能障害に対するアプローチと外泊練習により在宅生活が可能となった症例	つくば地域リハ・セミナー第 26 回症例検討会	つくば市	2018.3
関口恵理	箸操作獲得のため、肩甲帯の可動性と安定性向上に着目して介入を行った症例	つくば地域リハ・セミナー第 26 回症例検討会	つくば市	2018.3
高荷直弥	脳梗塞患者に対する箸操作獲得に向けてのアプローチを経験して	つくば地域リハ・セミナー第 26 回症例検討会	つくば市	2018.3
綿引智生	重度片麻痺のある開胸術後の症例に対し、排泄動作の再獲得に向けた作業療法の経験	つくば地域リハ・セミナー第 26 回症例検討会	つくば市	2018.3
飯田沙矢香	できる ADL をしている ADL に汎化できた症例～精神面、他職種協働に着目して～	つくば地域リハ・セミナー第 26 回症例検討会	つくば市	2018.3

講師

講師名	テーマ	講演会名	開　催　地	開催年月
秋山泰蔵	救護施設におけるリハビリテーション・ケアの考え方	平成 29 年度茨城県救護施設協議会職員研修会	水戸市	2017.12
山倉敏之	認知症	第 1 回認知症作業療法アップデート研修	つくば市	2017.10
古澤　弦	運動を継続させるためのコツ	茨城県南運動療法セミナー	つくば市	2018.1
田中直樹	生活関連－免荷型歩行練習	平成 28 年度茨城県社会リハビリテーション専門職人材育成研修会	水戸市	2017.8
田中直樹	骨関節系疾患に対する治療	筋力増強運動	阿見町	2017.9
田中直樹	運動器系疾患に対する関節可動域治療手技	関節可動域治療の基本	土浦	2017.8
藤原祐介	姿勢について	人生が変わる！？良い姿勢、悪い姿勢	つくば市	2017.8
古澤　弦	姿勢について	人生が変わる！？良い姿勢、悪い姿勢	つくば市	2017.8
飯塚　陽	痙縮のリハビリテーション	地域医療連携公開講座	つくば市	2017.9

臨 床 検 査 科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

当院の臨床検査科は、生理検査部門、健診部門、輸血検査部門、病理・細胞診検査部門、検体検査部門の 5 部門に分かれている。臨床検査技師の人員構成は、各々、19 名（非常勤 1 名を含む）、8 名（非常勤 4 名を含む）、2 名、3 名、 11 名である。但し、検体検査部門は委託しているため、当院の人員には含まれない。

2．業務実績

生理検査部門は、心電図や UCG、24 時間心電図、などの循環器系の検査項目が前年度よりも増加した。整形外科や脳外科の術中 MEP・ABR も順調に増加している。6 月から、呼気 NO 検査を開始した。また、健診施設での乳腺超音波検査の需要が高く、放射線部と協力して取り組むこととなった。

病理・細胞診部門では、細胞診検査を全て院内実施（健診分も含む）し、増加傾向が継続している。骨髄穿刺時の標本作成、染色、結果の管理などにも関与しており、件数も増加した。

7 月には、輸血室を立ち上げて薬剤部が行っていた輸血管理業務を移行した。生理検査業務を行っていた検査技師を 2 名専任とした。

検体検査部門では、検査委託先を変更して 6 年が経過した。人員数に変化はないが、メンバーの交代が 1 名あった。

12 月から、院内で血液培養装置が稼働し検査の精度向上に寄与している。

3．教育実績

月 1 回の科内ミーティングで勉強会を実施し、年度末の科内発表会は 3 回目を迎え、7 グループの発表があった。また、認定資格の新規取得実績は、細胞検査士 1 名であった。

4．2018 年度の目標

＊一人最低でも一認定を目標に、血管診療技師、超音波検査士、細胞検査士など
　各種認定資格の更なる取得を目指す。
＊輸血室の業務を再構築し機能向上に務め、加算等や認定技師の取得を目指す。
＊検体検査委託業者と伴に、新規検査項目の検討、実施を行う。
＊細胞診検査では、液状化細胞診の導入を図る。
＊病理部門システムの構築を行いＣＩＳと連携する。

［文責：大森美恵子］

【業務実績】

生理検査件数（筑波記念病院、筑波総合クリニック）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計	月平均
外来 ECG	889	916	1,011	655	924	883	1,000	907	638	880	840	1,008	10,551	879
入院 ECG	257	281	279	222	246	265	252	229	245	263	242	237	3,018	252
24ECG	107	106	110	79	91	131	132	141	114	103	114	127	1,355	113
TET	4	2	7	2	3	4	4	4	3	3	4	4	44	4
UCG	438	469	494	475	453	483	475	456	486	446	435	493	5,603	470
下肢エコー	51	64	68	60	56	62	49	49	43	48	45	53	648	54
ABI	96	127	127	103	110	132	97	85	107	95	102	98	1,279	107
肺活量	182	203	232	197	201	187	192	168	160	202	170	218	2,312	193
脳波※	25	19	21	26	46	35	37	22	19	36	16	28	330	28
伝速	6	11	10	5	7	6	9	11	7	6	7	6	91	8
術中ＭＥＰ･ABR	6	4	5	2	5	5	4	6	6	4	3	7	57	5
SAS	13	16	22	17	18	7	14	14	10	10	12	18	171	14
UBT	53	81	91	71	73	86	78	85	82	74	69	80	923	77
CGM	0	1	5	4	2	2	5	22	10	9	11	10	81	7
呼気 NO	−	−	39	47	56	59	40	46	28	18	17	37	387	39
純音聴力	236	230	282	239	269	302	285	286	268	244	263	332	3,236	270
ティンパノ	15	10	17	13	13	10	10	12	13	6	7	11	137	11

※つくばトータルヘルスプラザのドック件数を含む

病理・細胞診検査件数（筑波記念病院、筑波総合クリニック）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計	月平均
病理	289	292	332	353	370	311	328	335	324	317	317	318	3,886	323.8
細胞診※	698	759	962	987	912	1,078	1,072	1,043	924	917	920	970	11,242	936.8
骨髄穿刺	28	34	31	35	39	33	29	30	24	30	29	23	365	30.4

※つくばトータルヘルスプラザのドック・健診件数を含む

■は 2016 年度より増加した検査項目

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
和田英明	RFA 翌日検査中に EHIT が遊離・飛散した瞬間を捉えた症例	第37回 日本静脈学会総会	徳島	2017.6
和田英明	心臓超音波検査を契機に DVT と PE の診断に至った 2 例	第58回 日本脈管学会総会	愛知	2017.10
大森美恵子、星 典子、右田琢生	インフルエンザ迅速検査の職員早期診断の有用性	第33回 日本環境感染学会総会	東京	2018.2

臨 床 工 学 科

【総括】

1．実績報告

技術提供でここに挙げてあるものは手術室・心カテ室における手術・検査である。開心術と人工心肺、大動脈ステントの件数は増加しているが、心臓カテーテル治療の件数は昨年と比して変わりはない。

生命維持管理装置で人工呼吸器の管理日数が増加しているが、昨年同様に非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）の使用が増えたことによる。

血液浄化業務は、血液透析（HD）が昨年と比して減少しているが、持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）が増加しているため全体としては増加傾向にある。

医療機器点検では除細動装置及び患者監視装置が増えている。除細動装置に関しては新たに設置機器が増えたことによるものである。一部の患者監視装置については、昨年から実施している表示時間調整を他の患者監視装置にも取り入れた結果、件数が増加した。

2．課題・目標

Ｓ棟病棟が開設して２年が経過し、各病棟の運用が安定してきたことに伴い、患者監視装置やその他の医療機器の使用頻度が増加傾向にあるため、病棟への医療機器貸出しを効率よく運用して管理していく。また各病棟で使用される医療機器を中心とした勉強会を開催し、使用する医療機器の安全管理に努めることを目標にしていく。

各々が全ての業務を遂行できることを目標とし、また、各種資格取得に取り組んでいく。

［文責：助川　節］

【業務実績】

技術提供

	2016 年	2017 年
開心術	84 件	88 件
人工心肺	71 件	85 件
大動脈ステント	50 件	99 件
自己血回収	288 件	295 件
心臓カテーテル検査	618 件	611 件
緊急心カテ※	76 件	82 件
ＰＣＩ※	217 件	194 件
緊急ＰＣＩ※	41 件	41 件
アブレーション	80 件	83 件
ペースメーカ植込み	43 件	26 件
ICD 植込み	5 件	5 件
CRT 植込み	1 件	0 件

※ PCI は心臓カテーテル検査に含む
※（緊急）は上位項目に含む

血液浄化施行実績

	2016 年	2017 年
血液透析	95 件	81 件
持続緩徐式血液濾過透析	51 件	90 件
血液浄化	47 件	36 件
合計	193 件	207 件

生命維持管理装置管理実績

	2016 年	2017 年
IABP	10 件 /35 日	15 件 /55 日
PCPS	2 件 /3 日	4 件 /4 日
人工呼吸器	2237 日	2773 日
ペースメーカ	512 件	468 件
ICD	101 件	98 件
CRT	40 件	38 件

医療機器点検

	2016 年	2017 年
シリンジポンプ	189 台	211 台
輸液ポンプ	276 台	324 台
除細動装置	4305 台	4560 台
人工透析装置	570 台	581 台
患者監視装置	6822 台	8903 台

勉強会

開　催　日	項　　目	対　象	講　　師	内　　容
３月	人工心肺装置	ME	泉工医科	HAS2 講習会
３月	心筋保護装置	ME	泉工医科	TRASIS 講習会
６月　計３回	人工呼吸器	全病棟	臨床工学科	SERVO-i、V60 勉強会
７月	NO 吸入装置	ME	マリンクロット	アイノフロー講習会
７月	ペースメーカー	ME	長野エムイー	植込みペースメーカー勉強会
７月	クライオアブレーション	カテ室	メドトロニック	クライオアブレーション講習会
９月	PCPS 装置	ICU	臨床工学科	EMERSAVE 勉強会
１０月　計６回	心電図モニター	ICU リハビリ	臨床工学科	ベッドサイドモニター勉強会
１０月　計３回	人工呼吸器	Ｓ５東	臨床工学科	SERVO-i 勉強会
１０月	心電図モニター	放射線	臨床工学科	ベッドサイドモニター勉強会
１１月	心電図モニター	Ｓ５西	臨床工学科	ベッドサイドモニター勉強会
１２月	人工呼吸器	研修医	フィリップス・レスピロニクス	Ｖ 60 講習会
１２月	人工呼吸器	研修医	フクダ電子	SERVO-i 講習会

資格取得

体外循環技術認定士	２名
補助人工心臓管理認定士	１名
呼吸療法認定士	２名
臨床ＭＥ専門認定士	１名

栄　養　科

【総括】

1．2017 年度の実績報告

（ア）体制

6月に育児休暇の管理栄養士1名が復帰し、3月から中途管理栄養士1名を増員したが、2月に1名が産休で休職、3月で THP の非常勤管理栄養士が退職となった。また今年度をもって栄養科顧問が退任した。栄養科は常勤管理栄養士計9名、うち1名が時短、2名が産･育児休暇となり、役職者として主任1名、主任代理1名の体制となった。

3月より、外来栄養指導件数の安定供給化を目的に、管理栄養士1名をクリニックに配置した。更に来年度、育児休暇から復帰予定の管理栄養士1名を追加で配置する予定である。

また、平成 30 年度の診療報酬改定で、回復期リハビリテーション病棟への専任管理栄養士の配置が努力義務化されるため、1名を専任として配属する予定である。栄養科として、これを今後の管理栄養士病棟常駐体制の足がかりにしたいと考えている。

（イ）業務

栄養食事指導や栄養サポートチームの介入件数増加の取り組みとして、管理栄養士が患者の栄養状態を把握する上での基礎データとなる、入院時の栄養管理計画書の件数を増やすことにより介入の間口を広げることが重要であると考え、CIS 上の入院診療計画書の記載方法を一部変更した。この結果、栄養管理計画書作成率は全入院患者の 30%から 70%弱と 2 倍以上になった。

それに伴う影響と、具体的数値目標の設定を図った影響で、今年度の栄養指導件数は 1833 件となり、例年に比べて 600 件程度の増加となった。

2．2018 年度の目標

管理栄養士増員と、それに伴う管理栄養士病棟常駐などの体制作りを推進する。

［文責：松浦史生］

【業務実績】

栄養指導件数推移

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
病　　院	個人栄養指導	415	629	1079
	集団栄養指導	9	26	39
クリニック	個人栄養指導	790	590	643
	集団栄養指導	58	48	75
栄養指導実施件数合計		1272	1293	1833

資格取得状況

認定資格等	人数	前年度増減
栄養サポートチーム担当者研修会	2	
静脈経腸栄養（TNT-D）管理栄養士	1	
糖尿病療養指導士	2	＋ 1
栄養経営士	2	

2018 年 3 月 31 日現在

実習受け入れ実績

月	学校名	人数	実習領域
8 ～ 10	常磐大学	4	臨床栄養臨地実習

講師派遣

講師	内容	依頼元	開催年月
矢部義人	病院栄養士について	東京医療保健大学	2017.8

【学会・講演・セミナー等】

発表者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
松川祥子	低栄養の栄養食事指導導入に向けての取り組み	日本医療マネジメント学会－第 18 回茨城県支部学術集会－	茨城	2017.9
矢部義人	内視鏡的粘膜下層剥離術における管理栄養士の取り組み	第 59 回全日本病院学会	石川	2017.9

医療相談室

【総括】

各病棟に退院支援職員として、専任の看護師と社会福祉士を配置している。入院中の患者の相談業務に対し、医療相談室内で情報共有や問題解決に向けたケース検討ができていなかったため、行うようにした。

在宅部門連携カンファレンスの方法を検討し、各部門ごとの情報共有と早期からの介入を行うことができる体制作りを再構築した。

地域包括ケア病棟への取り組みとして、地域からの入院相談のためのマニュアル作成と地域向けのパンフレットを作成した。つくば市地域包括支援課への案内や在宅介護支援センター・居宅介護支援事業所の各連絡会にて紹介を行った。

【2018 年度方針】

診療報酬と介護報酬の同時改定があり、改定に伴う学習を行う。特に退院支援に関する項目や地域包括ケア病棟に関する項目はしっかり学び正しく運用する。

医療相談室内で事例検討会を行い、対人援助のスキルアップを図る。成功例・失敗例を共有しながら学び経験を積む。引き続き、近隣の事業所との連携と恵仁会との連携を更に深める。

研修自己管理表を活用し、積極的に院内外の研修に参加する。

［文責：犬塚則子］

【業務実績】

MSW･退院支援看護師介入による退院者数

総　数		1322
内　訳	自　宅	895
	施　設	236
	転　院	86
	死　亡	175

退院支援加算

総　数		1218
内　訳	急性期	729
	回復期	190
	地域包括	267
	療　養	32

相談件数

総　数		7256
内　訳	退院調整	5972
	社会資源	45
	医療費相談	36
	苦　情	3
	転院相談	840
	外来・院外	360

入院依頼数

		総　数	受　入	断　り	キャンセル
総　数		404	102	125	177
内　訳	急性期	27	16	9	2
	回復期	242	51	70	121
	地域包括	74	26	15	33
	療　養	61	9	31	21

【学会・講演・セミナー等】

発表者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
佐藤直子	療養病棟から地域包括ケア病棟への転換における MSW の取り組み	第 59 回全日本病院協会	石川	2017.9

臨　床　心　理

【総括】

1．2017 年度の実績報告

2017 年度は常勤臨床心理士 1 名が交代して 3 名体制でスタートし、10 月より 1 名が出産・育児休暇に入ったため、以降 2 名での運営となった。業務内容は昨年同様、心理検査業務・カウンセリング業務・メンタルヘルス業務が中心だった。

心理検査は全実施件数が 11％増となった。減少傾向にあった精神科依頼による人格検査は、前年度比 4.5 倍の実施数だった。もの忘れ外来依頼による認知症検査の ADAS は 17% 増、小児科依頼による小児の発達及び知能検査も 15% 増加した。小児科依頼のうち、他機関からの紹介によるものが前年度は約 40% を占めていたが、2017 年度は 24％で、院内の依頼が増加した。必要に応じて小児リハビリテーション担当のセラピストと結果を踏まえた情報共有･検討の機会を設け、協力関係が強まってきている。また、改正道路交通法施行など社会的ニーズの高まりもあってか、認知症評価の改訂版長谷川式簡易知能評価スケールや MMSE、かなひろいテストの外来依頼による実施が 76％増加した。これまで基本診療に含まれていたこれらの検査は、2018 年度から診療報酬が加算される。病棟での認知症評価の依頼も前年度の 2 倍と増加した。

カウンセリング業務は 2017 年度の課題としていた当会内外に対する PR に取り組み、東京カウンセリングセンターからの業務委託も 2 月から再開した。9 月から徐々に来談者が増え、結果トータルヘルスプラザでの新規来談者数は前年度とほぼ同数となったが、開始月が遅いことも影響して、継続件数は 69% 減となった。病棟でのカウンセリング依頼もあり、幅広い事例に対する実践の機会が得られた。

メンタルヘルス業務では「こころの相談室だより」を隔月で発行した。相談者数は本人による相談と、本人以外からの相談によるコンサルテーションを併せると、前年度比 2.4 倍となっている。研修依頼は前年度と同数あった。

2．2018 年度の課題・目標

2017 年度はすべての業務領域について拡充を目指していたが、心理検査業務、メンタルヘルス業務については目標を達成できたと思われる。2018 年度は 1 名が引き続き育児休暇取得予定のため、当分の間は 2 名体制となる。業務の維持に努めつつ、各科の依頼に幅広く的確に応えられるよう、また、各業務の質的向上を目指して、各自のスキルアップを図っていきたい。新規来談者数が前年度実績に追いついたカウンセリング業務については、引き続き当会内外への PR に努めていきたいと考える。

［ 文責：石澤美幸 ］

【業務実績】

心理検査

病院・クリニック	発達及び知能検査	WAIS-Ⅲ成人知能検査	6
		WISC-Ⅳ知能検査	26
		全訂版田中ビネー知能検査	1
		新版K式発達検査	49
		JART	3
	人格検査	ロールシャッハテスト	9
		バウムテスト	9
		SCT	9
	認知機能検査 その他の心理検査	ADAS	346
		改訂版長谷川式簡易知能評価スケール	24
		MMSE	24
		かなひろいテスト	23
	小計		529
病棟	JART		1
	ADAS		1
	改訂版長谷川式簡易知能評価スケール		9
	MMSE		9
	かなひろいテスト		8
	小計		28
THP	神経心理検査		533
	小計		533
合計			1090

カウンセリング

THP	初回	8
	継続	23
	小計	31
病棟	初回	4
	継続	6
	小計	10
合計		41

メンタルヘルス

相談対応	初回	10
	継続	8
	コンサルテーション	18
	小計	36
その他	研修会打ち合わせなど	4
	こころの相談室だより発行	6
	小計	10
合計		46

院内研修

講　　師	研修名（依頼元）	開催年月
高橋晶子	「ストレスマネジメント研修ラダーⅡ」（看護部）	2017.8
高橋晶子	「ストレスマネジメント研修ラダーⅠ」（看護部）	2017.9
石澤美幸	「ストレスマネジメント研修ラダーⅢ」（看護部）	2018.1

地域医療連携部

【総括】

2017年度は、地域医療機関より紹介依頼があった時点で診療科・状態・緊急性などを確認して、筑波総合クリニックの通常外来ではなく病院での専門外来や各診療科で対応したことで紹介件数が増加した。また検査紹介もMRI・CT・内視鏡検査の依頼が前年度より大幅に増加した。紹介件数が増加したことで、2017年度は目標だった月平均200件を達成することが出来た。

公開講座は開催時来院された方へ毎回アンケートをとり、どの診療科でどの様な内容の公開講座を希望されているかを集計・協議して、多数の方が参加したくなるような内容の公開講座を行ったことで、外部からの参加者も増加した。

2017年度は登録医を25名増員。

来年度も引き続き紹介件数増加の取り組みや、外部医療機関から多数参加したくなるような公開講座の開催、登録医の増員に取り組んで行きたい。

［文責：生井共和］

【業務実績】

地域医療支援病院 紹介率（%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
85.7	82.5	82.7	84.9	81.4	79.5	80.6	86.3	84.2	78.0	77.7	88.2	82.6

地域医療支援病院 逆紹介率（%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
30.6	60.5	49.6	50.8	53.8	47.7	51.6	56.5	68.4	74.0	66.1	62.5	56.0

紹介患者数（筑波記念病院）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
初診紹介数	158	133	147	141	155	141	129	154	160	149	131	158	1,756	146
（外　来）	92	74	83	85	89	70	75	83	84	69	70	97	971	81
（入　院）	66	59	64	56	66	71	54	71	76	80	61	61	785	65
再診紹介数	48	54	54	61	60	69	66	48	55	41	49	53	658	55
（外　来）	24	20	27	27	28	31	30	23	25	19	21	31	306	26
（入　院）	24	34	27	34	32	38	36	25	30	22	28	22	352	29
紹介状総数	206	187	201	202	215	210	195	202	215	190	180	211	2,414	201

逆紹介算定数（筑波記念病院）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
439	426	365	247	278	233	214	230	259	223	222	268	3404	283.7

【当院登録医医療機関一覧】

つくば市医師会（順不同）

あおやぎ医院	柴原医院	広瀬クリニック
あつしクリニック	耳鼻咽喉科　学園の森クリニック	北條医院
天貝整形外科クリニック	渋谷クリニック	ホームオン・クリニックつくば
ありま皮膚科クリニック	清水こどもクリニック	ほりかわクリニック
飯岡医院	仁愛内科医院	緑クリニック医院
飯田医院	杉谷メディカルクリニック	みなのクリニック内科呼吸器科
飯村医院	すぎやま内科皮フ科クリニック	南大通りクリニック
池野医院	鈴木医院	宮川内科・胃腸科医院
いしかわ耳鼻咽喉科クリニック	高田眼科	宮本内科クリニック
うえの整形外科	高田整形外科	みらい平クリニック
江原こどもクリニック	竹園ファミリークリニック	山中医院
太田医院	つくば在宅クリニック	渡辺内科クリニック
大野医院	つくばシティアすえひろ眼科	ちかつクリニック
大穂皮膚科クリニック	つくばシティア内科クリニック	青空ホームクリニック
大見クリニック	つくばシティアビル皮フ科	せせらぎ在宅クリニック
岡野産婦人科	つくばセンタークリニック	さくら内科・呼吸器内科クリニック
岡野整形外科・内科クリニック	つくばねむりとこころのクリニック	清宮眼科皮膚科
小倉医院	寺崎クリニック	サンシャイン・クリニック
小田内科クリニック	東郷医院	おいかわ腎泌尿器クリニック
樫村内科消化器科クリニック	東光台内科胃腸科クリニック	小池医院
かつらぎクリニック	中川医院	こまつ内科クリニック
加納医院	長沢眼科	紫峰の森クリニック
川井クリニック	なかざわクリニック	つくばシティアビル整形外科
菊池内科クリニック	成島クリニック	つくばすずらん皮膚科クリニック
木村クリニック	二の宮越智クリニック	つくば辻クリニック
倉田内科クリニック	根本クリニック	つくば白亜クリニック
研究学園いいむら耳鼻咽喉科	のぐち内科クリニック	並木内科クリニック
研究学園クリニック	のむら耳鼻咽喉科クリニック	沼尻整形外科・胃腸科
こだま在宅クリニック	花クリニック　南大通り	谷田部診療所
コミュニティクリニック・つくば	林医院	ユーカリ医院
坂根Ｍクリニック	ひがし外科内科医院	ユークリニック
酒寄医院	ヒルトップクリニック	渡辺医院
さとうクリニック	広瀬医院	

真壁医師会（順不同）

明野中央医院	長倉内科・外科クリニック	あけの元気館前クリニック
阿部田医院	なかはら整形外科医院	ひろせ内科クリニック
飯田医院	中山医院	下館胃腸科医院
大塚医院	仁保内科医院	直江医院
落合医院	根本医院	しもだて中央クリニック
介護老人保健施設マカベシルバートピア	野中医院	さいとう整形外科
かくらいクリニック	秀村医院	おおもりクリニック
菊山医院	古橋医院	のかおい整形外科
菊山胃腸科外科医院	古橋耳鼻咽喉科医院	加納内科胃腸科
ごとうクリニック	松岡整形外科	すわクリニック
坂入医院	三津山クリニック	池田整形外科
砂沼湖畔クリニック	宮本医院	新井内科医院
下條整形外科	山口医院	玉野医院
田崎内科医院	横瀬医院	とみざわハートクリニック
つくし野クリニック	渡辺クリニック	佐々木整形外科
とやまクリニック	浅田医院	

きぬ医師会（順不同）

荒川医院	鈴木内科整形外科医院	岩本医院
いとう内科胃腸科医院	中島医科歯科クリニック	植竹医院
大塚クリニック	ふなやま内科クリニック	海老原医院
岡本医院	みぞぐちクリニック	河村胃腸科外科医院
桜橋クリニック	横瀬医院	存身堂医院
しば医院	高橋医院	天王前クリニック
耳鼻咽喉科染野クリニック	寺田医院	松﨑医院
常総メディカル	安達医院	横田医院
須澤醫院	石塚医院	

（2018 年 3 月 31 日現在）

委　　員　　会

病院運営管理会議

Ⅰ．目的及び機能

病院事業の施策、計画及び運営に関することについて協議、検討を行う。また、医療安全・感染対策・医師研修等の確保と推進を図ることを目的とし、それらに係る委員会を統括する。

Ⅱ．構成員

◎議長：長澤 俊郎 院長（管理者）

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	10	臨床工学科	1
看護部	1	医療安全管理室	1
薬剤部	1	感染管理室	1
リハビリテーション部	1	本部・事務部	7
臨床検査科	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．他 活動内容

・医療安全管理委員会、医療安全対策チーム部会の報告
・感染対策管理委員会、感染症対策チーム部会の報告
・臨床研修管理委員会の報告
・病院機能改善管理委員会の報告
・診療情報等の検討

［文責：長澤 俊郎］

医療安全管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院管理者の諮問に基づき設置され、医療安全管理に係わる問題点、緊急的検討事項など、医療安全に係わる政策を管理者に答申し、意思決定を行い、医療安全体制の確保、及び推進を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：池澤 和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	臨床工学科	1
看護部	1	医療安全管理室	1
薬剤部	1	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

13 回（臨時開催 1 回）

Ⅳ．協議事項　＊医療安全対策チームの報告、および審議である

2017.4.25 （臨時開催）	手術における腹腔内ガーゼ遺残事例について協議
2017.4.26	「筑波記念病院における医療に係る安全管理指針」一部改定承認 「リスクマネージャー部会」から「医療安全対策チーム」に名称を変更承認 「医療安全管理委員会」「医療安全対策チーム」「転倒転落対策 WG」の規約について承認 チーム長の交代紹介 患者離院対応手順改定について承認
2017.5.31	アレルギー薬処方時の登録方法について承認
2017.6.28	「胃管挿入時の基準」について一部改定承認 「リストバンドの運用基準」について承認
2017.7.26	2 号棟エレベーターの使用の表示について承認
2017.8.30	「身体抑制の説明書」の一部改定について承認
2017.9.27	「死亡時チェックシート」について承認 「医療事故防止マニュアル（第８版）」について協議
2017.10.25	緊急輸血時の血型確認について協議 「医療事故防止マニュアル（第８版）」について承認
2017.11.29	カリウム製剤の採用薬について協議
2017.12.27	MRI 室におけるアクシデント事例に関する協議 保健所立ち入り調査結果報告
2018.1.31	「重大事故発生時の報告体制」一部改定について承認 「医療安全ポケットマニュアル」一部改定協議
2018.2.28	「医療安全ポケットマニュアル」一部改定承認
2018.3.28	「筑波記念病院における医療に係る安全管理指針」協議

［文責：池澤 和人］

医療安全対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

医療安全管理委員会規約に基づき、医療安全対策チームを設置し、医療安全管理委員会の総括の基、各部署で発生した問題事象の報告、および現場に即したより実効性のある医療安全対策が実施できる体制の整備に努め、情報共有することで再発防止を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：池澤 和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床工学科	1
看護部	19	栄養科	1
薬剤部	1	医療安全管理室	1
放射線部	1	医療相談室	1
リハビリテーション部	4	本部・事務部	1
臨床検査科	2		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2017. 4 .25	3 月のインシデント・アクシデント報告 「リスクマネージャー部会」から「医療安全対策チーム」に名称を変更 「医療安全対策チーム」「転倒転落対策 WG」の規約について協議、承認 チーム長の交代紹介 患者離院対応手順改定について協議・承認 医療安全対策ニュースの発行（担当：手術室） 院内安全ラウンド（場所：救急センター・放射線科・Ｓ３東）
2017.5.23	4 月のインシデント・アクシデント報告 患者離院対応手順改定について運用開始 アレルギー薬処方時の登録方法について協議 医療安全業務改善計画立案 医療安全対策ニュースの発行（担当：筑波総合クリニック） 院内安全ラウンド（場所：検査科・Ｓ５西・Ｓ４西）
2017.6.27	５月のインシデント・アクシデント協議 アレルギー薬処方時の登録方法について運用開始 「胃管挿入時の基準」について一部改定を協議、承認。運用周知 「リストバンドの運用基準」について協議 医療安全対策ニュース発行（担当：栄養科） 院内安全ラウンド（場所：リハビリ・総合外来・１－２）
2017.7.25	６月のインシデント・アクシデント協議 「リストバンドの運用基準」について運用開始 「医療事故防止マニュアル」の見直し 医療安全対策ニュース発行（担当：リハビリテーション部） 院内安全ラウンド（場所：薬剤部・ICU・S４東）
2017.8.22	７月のインシデント・アクシデント協議 医療安全対策ニュース発行（担当：S 棟４階東病棟） 院内安全ラウンド（場所：２－３・Ｓ５東・Ｓ３西）
2017.9.26	８月のインシデント・アクシデント協議 「身体抑制の説明書」一部改定承認を得て運用開始 「死亡時チェックシート」について協議 「医療事故防止マニュアル（第８版）」について協議 医療安全対策ニュース発行（担当：薬剤部） 院内安全ラウンド（場所：CL・２－４・２－５）
2017.10.24	９月のインシデント・アクシデント協議 緊急輸血時の血型確認について協議 「医療事故防止マニュアル（第８版）」について承認 「死亡時チェックシート」の１０月１２日から運用開始 平成２９年度上半期インシデント・アクシデント報告集計報告 医療安全対策ニュース発行（担当：S 棟３階西病棟） 院内安全ラウンド（場所：OR・検査科・救急センター）

2017.11.28	１０月のインシデント・アクシデント協議 カリウム製剤の採用薬について協議 転倒転落対策 WG で作成した「転倒予防 DVD」の内容について協議 医療安全対策ニュース発行（担当：Ｓ棟５階東病棟） 院内安全ラウンド（場所：放射線科・Ｓ５西・１－２）
2017.12.26	１１月のインシデント・アクシデント協議 カリウム製剤の採用を KCL のみとした 保健所立ち入り調査結果報告 医療安全対策ニュース発行（担当：臨床工学科） 院内安全ラウンド（場所：Ｓ３東・総合外来・Ｓ４西）
2018.1.23	１２月のインシデント・アクシデント協議 医療安全対策ニュース発行（担当：総合外来） 院内安全ラウンド（場所：リハビリ・Ｓ３西・Ｓ４東）
2018.2.27	１月のインシデント・アクシデント協議 「アクシデント報告手順」改定 「医療安全ポケットマニュアル」一部改定協議 各部署から医療安全業務改善の結果報告 医療安全対策ニュース発行（担当：医療相談室） 院内安全ラウンド（場所：Ｓ５東・UCU・２－３）
2018.3.27	２月のインシデント・アクシデント協議 各部署から医療安全業務改善の結果報告 医療安全対策ニュース発行（担当：１号棟２階） 院内安全ラウンド（場所：OR・CL・２－４）

Ⅴ．他 活動内容

１．職員に対する研修

実　施　日	対　象	内　容	参加人数
4 月 4 日	多職種　新入職者	医療安全講話	80 人
4 月 11 日	看護部　新入職者	看護部医療安全研修	44 人
5 月 18 日	多職種　新入職者	インシデント報告システムについて	74 人
6 月 5 日、8 日、12 日、15 日 （DVD） 6 月 19 日～ 23 日	全職員	前期医療安全管理研修 「ゴリラとバスケット」 「平成 28 年度の医療安全への取り組み」	1142 人 受講率 97%
8 月 1 日	多職種　新入職者	モニターを安全に使用するために	57 人
9 月 14 日	多職種　新入職者	正しい検体採取と取り扱い	32 人
10 月 26 日、27 日	リハビリ　新入職者	医療安全研修	43 人
10月30日	多職種　新入職者	放射線の基礎知識	29 人
12 月 11 日、18 日、21 日 （DVD） 12 月 18 日～ 22 日 12 月 25 日、26 日	全職員	後期医療安全管理研修 「同期したがる心理」 「転倒転落対策 WG の活動報告 －転倒対策 DVD を作成して－」 「陽圧人工呼吸の仕組み」	1132 人 受講率 98%
12 月 19 日	研修医	インシデント報告の振り返り	10 人

２．広報活動

◯公益財団法人　日本医療機能評価機構　医療安全情報の配布　12 回

◯厚生労働省　医療事故再発に向けた提言の配布

９月　「急性肺塞栓症に係る死亡事例分析」

２月　「注射によるアナフィラキシーに係る死亡事例の分析」

◯緊急医療安全対策ニュース発行　８回

６月　「危険物の取扱いについて」

７月　「身体拘束ニュース報道」

８月　「口頭伝達のルールについて」
９月　「内服薬の誤嚥防止について」
10月　「モルヒネ１０倍投与のニュース報道」
11月　「カリウム製剤の誤投与撲滅・６Ｒの徹底」
12月　「呼吸管理について」
１月　「個人情報の管理について」
◯医療安全推進習慣　ポスター掲示による啓蒙活動
期間：11月19日～11月26日　テーマ「ヒヤリ・ハット事例報告を増やそう」

３．学会発表

第19回日本医療マネジメント学会学術総会　　2017年７月７日
会場：仙台国際センター
タイトル「多職種による転倒転落対策チームの発足とその活動報告」
小林朋子　池澤和人　太田和子　吉田恵美子　長澤俊郎　小關　剛　小關　迪

［文責：池澤 和人］

転倒転落対策ＷＧ

Ⅰ．目的及び機能

医療安全管理委員会の総括のもと、各部署で発生した転倒転落に関する報告から、現場に即したより実効性のある安全対策が実施できる体制の整備に努め、医療安全対策チームにおいて報告し情報共有することで、再発防止を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：太田 和子

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	栄養科	1
看護部	7	医療安全管理室	1
薬剤部	2	本部・事務部	1
リハビリテーション部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

12回

Ⅳ．協議事項

2017.4.12	３月の転倒転落報告 2016年度の年間評価協議 今年度の目標設定協議 『転倒予防DVD』の内容について協議、決定

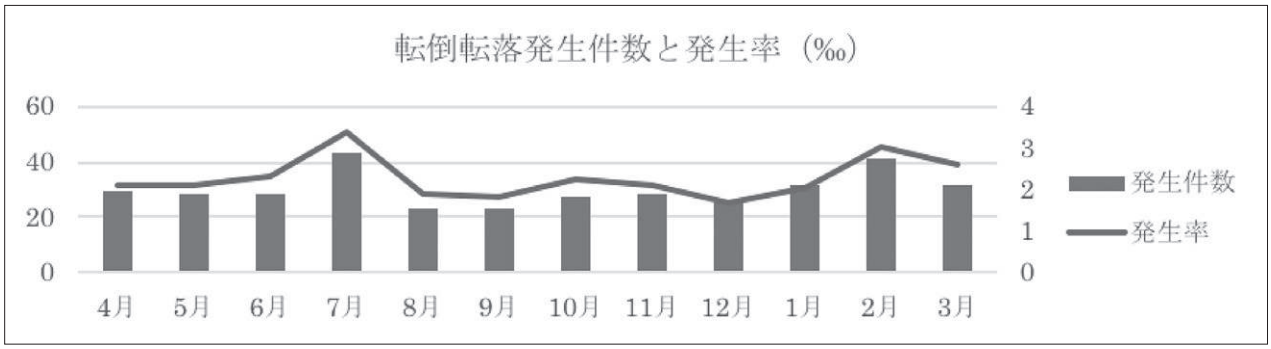
2017.5.10	4 月の転倒転落報告 『転倒予防 DVD』作成のタイムスケジュール、配役協議
2017.6.14	5 月の転倒転落報告 10 月 10 日「転倒予防の日」の活動内容について協議
2017.7.12	6 月の転倒転落報告 『転倒予防 DVD』の撮影開始
2017.8.9	7 月の転倒転落報告 転倒予防に関するスタッフの意識調査　アンケート内容協議
2017.9.13	８月の転倒転落報告 折りたたみポータブルトイレ使用による転倒事例からポータブルトイレの使用について検証 転倒予防に関するスタッフの意識調査実施 「転倒予防の日」ポスター作成
2017.10.11	9 月の転倒転落報告 「転倒予防の日」ポスター掲示報告
2017.11.8	10 月の転倒転落報告 『転倒予防 DVD』試聴実施、内容修正
2017.12.6	11 月の転倒転落報告 『転倒予防 DVD』試聴に関するアンケート調査実施
2018.1.10	12 月の転倒転落報告
2018.2.14	１月の転倒転落報告 『転倒予防 DVD』試聴に関するアンケート調査結果について協議、DVD 再編集 転倒転落パターンをカテゴリー化した報告書作成、協議
2018.3.14	２月の転倒転落報告 転倒転落パターンをカテゴリー化した報告書の運用開始 病棟ラウンド 次年度年間計画、目標設定

委員会

Ⅴ．他 活動内容

１．2017 年度の転倒転落件数

報告総数　359 件　転倒転落発生率平均　2.3‰であった。



２．広報活動

◯実際の転倒事例を基に患者･家族に向けて「転倒予防 DVD」を WG メンバーで作成。来年度運用予定である。

◯ 10 月 10 日 「転倒予防の日」 ポスター掲示による啓蒙活動

期間：10 月２日～ 10 月 10 日

［文責：太田 和子］

感染対策管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

院内における病原性微生物の感染を防止するための活動の大網を定め、院内感染管理の万全を記することを目的とする。

管理者の諮問機関として、管理者からの諮問事項、感染対策上の問題点、緊急的検討事項、疫学的集計結果などを検討する委員会で、病院として行うべき感染対策上の政策を管理者に答申する、感染対策に関する意思決定機関である。

Ⅱ．構成員

◎委員長：佐藤 祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	医療安全管理室	1
看護部	1	感染管理室	1
薬剤部	1	本部・事務部	1
臨床検査科	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

＊感染対策チーム会議の報告、および審議である

2017.4.26	インフルエンザの警報が解除となったため、３月３１日面会制限を解除した 昨年度の手指衛生サーベイランス（アルコール払出量）報告 職員のワクチン接種対象人数の報告と年間計画
2017.5.31	抗菌薬使用申請書の改訂承認（抗 MRSA 薬、カルバペネム系） 感染防止対策加算に係るカンファレンス報告（5 月 30 日） 感染性廃棄物：３L の鋭利物廃棄容器を全部署に導入 感染症法届出：A 型肝炎、CRE（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症）
2017.6.28	MRSA、ESBL 産生菌の検出の増加に伴い、感染対策の強化を依頼 全職員対象研修の実施（内容：ICT ラウンドの現状報告） 感染防止対策に係る相互チェック（筑波メディカルセンター病院）報告
2017.7.26	ESBL 対策としてコホート隔離も視野に入れる 感染防止対策に係る相互チェック（当院ラウンド）報告 針刺しサーベイランス報告 アデノウイルス、マイコプラズマの迅速キットの導入
2017.8.30	MRSA、CD は減少したが、ESBL 多く、接触予防策とする（療養病棟で増加傾向） 医局会、部署責任者会（師長会）、療養棟の病棟会で ESBL のレクチャー、感染症表示を改訂 感染防止対策加算に係るカンファレンス報告：当院のラウンド（8 月 29 日） 翼状針による針刺しの増加に伴い、商品変更を承認 感染対策管理委員会、感染対策チームの規約と指針の改訂承認 HB ワクチン接種開始（８月、９月、２月で１クールの予定）
2017.9.27	抗菌薬使用量は抑えられ、ESBL 増加によるカルバペネム系への使用は影響なし 研修案内：吐物処理デモンストレーション（９月～ 11 月）、N95 フィットテスト（10 月） 新型インフルエンザに対する事業継続計画：マニュアル改訂していく
2017.10.25	携帯用手指消毒剤（250ml）試供アンケート結果報告：導入に至らず 針刺しサーベイランス報告：11 件（4 月～ 10 月）、10 月より翼状針の変更あり 感染対策マニュアルの改訂（報告体制、感染経路予防策の表示、消毒薬使用基準、新規導入された製品の管理方法）

2017.11.29	MRSA、CD 検出の増加と注意喚起 職員へのインフルエンザワクチン接種（11 月 27 日、30 日、12 月 1 日） MR ワクチン接種（12 月 8 日、13 日） 感染防止対策加算に係るカンファレンス：大圃病院のラウンド（10 月 31 日） 感染症法届出：レジオネラ肺炎
2017.12.27	療養病棟からの新規 ESBL 検出は 2 ヶ月間なし 保健所立ち入りの報告 水痘ワクチン接種（1 月 10 日、12 日） 全職員対象研修の実施（内容：インフルエンザ迅速検査調査報告） インフルエンザ流行期に入り、注意喚起する 12 月 25 日より面会制限開始
2018.1.31	全体的に感染症検出の減少 インフルエンザアウトブレイク報告（S 棟 4 階西）、2 号棟入口の閉鎖、アウトブレイク病棟の面会禁止、リハビリテーションの制限 感染対策マニュアルの改訂（感染症法、CV ライン交換時の消毒薬の変更など）
2018.2.28	CD 検出増加、ESBL の減少 インフルエンザアウトブレイク報告（S 棟 5 階東）と対策 今シーズンのインフルエンザは B 型を占める 手指衛生サーベイランス：アルコール使用量に変化なし 感染防止対策加算に係るカンファレンス報告（1 月 30 日） 保健所からの麻しん情報の提供（常総市） ムンプスワクチン接種（3 月 12 日、15 日） 血液培養保管庫の導入のお知らせ
2018.3.28	感染症検出の減少 インフルエンザ警報解除に伴い 3 月 19 日より面会制限と 2 号棟入口閉鎖を解除 手指衛生サーベイランス：前月と比較して 15.3％増加あり 針刺しサーベイランス報告：19 件（発生率 3.9％） 感染防止対策加算に係る診療報酬改定：抗菌薬適正使用支援加算 100 点

［文責：佐藤 祐二］

感染対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

病院運営上日常的な感染症に関わる業務を協議、担当する。感染対策チーム（以下 ICT）の活動内容は感染対策委員会（以下 ICC）に定期的に報告されるとともに、ICC は ICT の活動内容を担保する。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：佐藤 祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	5	栄養科	1
看護部	15	医療安全管理室	1
薬剤部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
放射線部	1	筑波総合クリニック	1
リハビリテーション部	2	つくばケアセンター	1
臨床検査科	2	本部・事務部	3
臨床工学科	1	委託業者	2

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2017.4.11	今年度より感染対策チーム長が右田医師より佐藤医師に変更された 3 月 31 日面会制限を解除した（流行指数 10.40 → 4.70） ワクチン接種年間計画（HB、麻しん風疹混合、水痘、ムンプス、インフルエンザ）
2017.5.9	手指衛生サーベイランス：2016 年度アルコール払出量は前年比 21％増 ３L の感染性廃棄物容器を全部署に導入 4 類感染症（A 型肝炎）届出
2017.6.13	MRSA と ESBL が 20 例と増加に伴い、ESBL の情報提供と物品管理の見直しを依頼 前期医療安全管理研修：感染部門「ICT ラウンド報告」 ５類感染症（CRE：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症）届出
2017.7.11	ESBL 産生菌を接触予防策として対応依頼 感染防止対策地域連携加算に係る相互チェックの報告（筑波メディカルセンター病院を評価） 針刺しサーベイランス報告 アデノウイルス、マイコプラズマの迅速キットの導入
2017.8.8	ESBL 産生菌の検出が２号棟４階で増加、コホート隔離・器具の管理を指示 感染症色別表示（ベッドボードへの表示）の変更 感染防止対策地域連携加算に係る相互チェックの報告（当院を評価） 針刺しサーベイランス報告：翼状針による針刺しの増加
2017.9.12	ESBL 産生菌についてのレクチャー 感染防止対策加算に係る合同カンファレンス報告（当院のラウンド） 手指衛生サーベイランス、250ml アルコール携帯を試供 研修案内（N95 マスクのフィットテスト、吐物処理方法デモンストレーション）
2017.10.10	カルバペネム系抗菌薬の使用量は直近数ヶ月抑えられている 新型インフルエンザ等対策実施訓練 針刺しサーベイランス半年間の報告：発生率 2.26％、鋭利なもので「使用後廃棄までに受傷」が 4 件と多い 針刺し事故対策として翼状針の器材の変更
2017.11.14	MRSA、MDRP、CD が増加、ESBL は 15 件前後で変化なし 4 類感染症（レジオネラ症）届出 感染防止対策加算に係る合同カンファレンス報告（大圃病院のラウンド報告） 11 月 27 日、30 日、12 月 1 日インフルエンザワクチン接種 感染症マニュアルの差し替え（報告体制、消毒薬使用基準、感染経路別予防策）
2017.12.12	2 号棟 4 階からの ESBL 新規検出は 2 ヶ月間なし 2 類感染症（結核）届出 MRSA や腸球菌検出によりバンコマイシン使用量の増加 感染防止対策加算に係る合同カンファレンス報告 保健所よりインフルエンザ流行のお知らせ（流行指数：3.00） 手指衛生サーベイランス、設置型の消毒薬の変更 後期医療安全管理研修：感染部門「職員へのインフルエンザ迅速検査調査報告」
2018.1.9	感染症の検出と抗菌薬使用量の減少 保健所立入り報告 感染症マニュアルの差し替え（感染症法改訂、CV ライン交換時の消毒薬変更等）
2018.2.13	MRSA13 件、CD10 件と増加した　接触予防策の徹底を依頼 インフルエンザのアウトブレイク（S 棟 4 階西、S 棟 5 階東）届出 12 月 25 日面会制限、1 月 16 日 2 号棟入口の閉鎖、入院・転棟制限などの対応 保健所からの麻疹情報の提供
2018.3.13	MRSA9 件、CD3 件と減少 インフルエンザ情報 針刺しサーベイランス年間報告：発生率 3.9％、翼状針原因の受傷なし

Ⅴ．他 活動内容

１．感染防止対策加算に係る年４回の合同カンファレンスへオブザーバーとして参加

開 催 日：6月1日（木）、9月7日（木）、12月7日（木）、3月1日（木）

参加施設：筑波大学附属病院、取手北相馬保険医療センター医師会病院、
守谷慶友病院、筑波学園病院

参 加 者：佐藤医師、右田医師、長山医師、渥美薬剤師、大森検査技師、星感染管理担当者

２．感染防止対策加算１に係る感染防止対策加算２の施設との合同カンファレンス

開 催 日：5月30日（火）、8月29日（火）、10月31日（火）、1月30日（火）

参加施設：大圃病院

参 加 者：佐藤医師、右田医師、長山医師、渥美薬剤師、大森検査技師
星感染管理担当者、相馬看護師

３．感染防止対策加算地域連携加算に係る相互チェック

連携施設：筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター病院、国立霞ヶ浦医療センターの三施設
今年度は筑波メディカルセンター病院との相互チェック（ラウンド）の実施

開 催 日：6月20日（火）、7月25日（火）

４．院内ラウンド

１）ラウンド回数45回、ラウンド人数197名
今年度よりつくばトータルヘルスプラザ（THP）のラウンドを実施した。

２）毎週火曜日　ICTミーティングにて感染症サーベイランス、抗菌薬適正使用について検討した

５．従業員に対する研修

実　施　日	対　象	内　容	参加人数
2017.4.4	新入職員	感染症対策	106名
2017.4.5	新入職（研修医）	病院における感染対策の基本	9名
2017.4.11	新入職員（看護師）	感染予防　現場ですぐに実践するために	41名
2017.5.11	新・中途入職者	血液・体液曝露対策、インフルエンザ対策	95名
2017.6.5、6.8、6.12、6.15 DVD：5日間	全職員	前期医療安全管理研修：感染部門 ICTラウンド報告	1,142名 受講率97%
2017.8.25	看護師ラダーⅢ	患者を守る感染対策（医療器具関連）	26名
2017.9.6、9.27	看護補助者	手指衛生について	20名
2017.10.2、10.19	全職員	N95マスクフィットテスト体験	65名
2017.9.15、10.20、11.17	全職員	吐物処理方法デモンストレーション	76名
2017.11.15、11.16	リハビリテーション部	インフルエンザにおける対応	91名
2017.12.21	看護師ラダーⅤ	リーダーシップにおける感染管理	13名
2016.12.11、12.18、12.21 DVD：7日間	全職員	後期医療安全管理研修：感染部門 インフルエンザの院内感染対策における職員早期診断の有用性について	**1,132名 受講率98%**

６．サーベイランスの実施

厚生労働省院内感染対策サーベイランス（JANIS）の全入院患者部門、検査部門、手術部位感染（SSI）部門、集中治療室（ICU）部門に参加している。

7．感染率　（JANIS の定義に基づく）

感染率＝感染症患者数／総入院患者数× 1000

※感染症患者数＝（新規感染症患者数）＋（継続感染症患者数）

※総入院患者数＝（新規入院患者数）＋（前月からの継続入院患者数）

	MRSA	MDRP
感染症患者数	15 件	1 件
感染率	1.24‰	0.08‰

検出率＝感染症検出患者数／総入院患者数× 1000

※感染症検出患者数＝新規感染症患者数で重複を除く

クロストリジウム・ディフィシルは JANIS 対象病原体でないため保菌を含む検出率とする

	クロストリジウム・ディフィシル
検出患者数	50 件
検出率	4.13‰

8．学会発表

1）第 19 回日本医療マネジメント学会　2017 年 7 月 7 日　仙台国際センター

「当院における感染性医療廃棄物のコスト削減への取り組みと効果」

口演発表：星　典子　共同演者：池澤和人、小關　迪、長澤俊郎、小關　剛、吉田恵美子

2）第 18 回日本医療マネジメント学会　茨城県支部　筑波大学大学会館

「ディスポーザブル吸引器導入への取り組みと効果」

ポスター発表：星　典子　共同演者：池澤和人、長澤俊郎

3）第 33 回日本環境感染学会　2018 年 2 月 23 日　東京

「インフルエンザの院内感染対策における職員早期診断の有用性について」

ポスター発表：大森美恵子　共同演者：右田琢生、星　典子

［文責：佐藤 祐二］

労働安全衛生管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

病院職員の危険または健康障害を防止するための措置の実現に携わり、労働安全衛生のための教育検討をする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤 俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	臨床心理士	1
看護部	1	つくばトータルヘルスプラザ	2
薬剤部	1	筑波総合クリニック	1

放射線部	1	つくばケアセンター	1
リハビリテーション部	2	在宅介護支援センター	1
臨床検査科	1	本部・事務部	5
臨床工学科	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2017.4.14	定例報告、規約の見直し
2017.5.12	定例報告、時間外勤務について協議
2017.6.9	定例報告、職員定期健康診断について、今年度の予定について、 良い行動を行った職員への表彰について協議
2017.7.14	定例報告、職員定期健康診断について、刺股訓練について、 職員の名札について、ＱＣ活動テーマ募集について協議
2017.8.18	定例報告、交通安全運転講習会の実施について、 不審者対応訓練について、救急車の運転について、 名札のリール交換について協議
2017.9.8	定例報告、ストレスチェックついて、時間外勤務について協議
2017.10.13	定例報告、不審者対応訓練について、 第1回筑波記念病院安全運転講習会について、 良い行動を行った職員への表彰制度について協議
2017.11.10	定例報告、不審者対応訓練について、ストレスチェックについて、 良い行動を行った職員への表彰制度について、 健康講座について、QC活動中間報告について協議
2017.12.8	定例報告、良い行動を行った職員への表彰制度について協議
2018.1.12	定例報告、職員健康診断について、BMI25以上の職員への講習会について協議
2018.2.9	定例報告、BMI25以上の職員への教育講演について、 各部署時間外労働時間について協議
2018.3.9	定例報告、新入職員へのメンタルヘルス講習について、 4月職員ドックについて協議

［文責：長澤 俊郎］

防火防災管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

人為的原因を含む災害が発生した際に筑波記念会の有する機能を出来る限り発揮し、被災対応、救護対応、後方対応を的確に行う。そのためにマニュアルを作成し訓練の実施などを通して強化していく。

Ⅱ．構成員

◎委員長：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	つくばトータルヘルスプラザ	1
看護部	1	筑波総合クリニック	1

薬剤部	1	つくばケアセンター	1
リハビリテーション部	1	本部・事務部	4
栄養科	1		

Ⅲ．会議　開催回数

５回

Ⅳ．協議事項

2017.10.3	消防訓練実施内容について
2017.11.16	消防訓練後の振り返り
2017.11.22	AMAT災害訓練概について
2018.1.18	AMAT災害訓練概要説明
2018.2.27	AMAT災害訓練の振り返り

Ⅴ．他 活動内容

院内消防訓練

茨城県・大規模地震時医療活動訓練（AMAT 参加訓練）

［文責：小關　剛］

臨床研修管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

研修医の管理及び採用、中断、修了の際の評価等、臨床研修の実施の統括を行う。研修修了に際しては、研修医の評価を行い管理者に対し、当該研修医の評価を報告する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：小關　剛

部　門	人　数	部　門	人　数
筑波記念病院	9	日本医科大学付属病院	1
筑波総合クリニック	1	東京医科大学茨城医療センター	1
つくばケアセンター	1	つくば在宅クリニック	1
筑波大学附属病院	1	小豆畑病院	1
JA とりで総合医療センター	1	茨城県つくば保健所	1
福島県立医科大学附属病院	1	たいようクリニック（外部委員）	1

Ⅲ．会議　開催回数

１回

Ⅳ．協議事項

2018.3	協力型病院と協力施設、当院における研修領域について 1 年次臨床研修医研修状況 2 年次臨床研修医修了判定 2018 年度臨床研修医採用状況 2018 年度臨床研修医採用者一覧（1 年次） 2018 年度臨床研修医一覧（2 年次） 2018 年度研修プログラムの変更点について 各協力型病院・各協力施設からのご意見

［文責：小關　剛］

臨床研修運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

初期研修のプログラム、研修医の採用計画、研修課程の評価、研修医の服務など研修医の臨床研修に関する業務全般をつかさどる。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	18	リハビリテーション部	1
看護部	1	本部・事務部	1
薬剤部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

11 回

Ⅳ．協議事項

2017.4	オリエンテーションについて 各診療科研修後のアンケートについて 研修医の到達目標について 一般外科研修プログラムについて H30 ～のプログラム変更について 委員の増員について インシデントレポートについて 1 年目研修医の日当直について 処方勉強会について
2017.5	採血練習について 募集人数について シミュレーション機器（腹部エコー） エコーハンズオン・検査部 採用試験について 処方資格試験について ハンガリー学生実習について 研修医手帳について

2017.6	ハンガリー学生実習について 病院説明会について 処方権について 研修医勉強会について 学生見学について 研修医手帳について
2017.7	病院説明会について 国家試験対策について メディカルラリー参加について 処方権について 募集人数について 採用試験について
2017.8	採用試験現状報告 マッチングについて 筑大学生実習について メディカルラリー参加報告 内科必修について 研修医からの要望
2017.9	採用試験結果報告 マッチング登録について 採用について今後の方針 初期→後期に繋げるために EPOC について たすきがけ研修医修了報告
2017.10	マッチング結果報告 県内のマッチング状況について 研修医集団指導について 2020 年改定について 360 度評価について
2017.11	EPOC について 年末年始の勤務体制について 地域医療について 病院説明会について 研修医学術集会について
2017.12	研修管理委員会について 年末年始の勤務体制について 2 年次ローテーション希望調査 研修医学術集会について 休暇規定について 来年度の研修医受入人数について
2018.2	AMAT 研修参加 メディカルラリー参加報告 病院説明会報告 EPOC 入力・レポート提出状況報告 年間活動報告 研修管理について 到達目標について 指導医評価について

V．他 活動内容

2017.4.22	マイナビレジデントフェスティバル宮城（アエルにて）
2017.6.11	レジキャリフェア東京（秋葉原 UDX にて）
2017.7.15	東京大学病院まるごと探訪フェス 2017（東大病院にて）
2017.7.16	レジナビ 2017 東京（東京ビッグサイトにて）
2018.2.25	レジナビ 2018 金沢（石川県産業展示館にて）
2018.3.11	茨城県臨床研修病院合同説明会（イーアスつくばにて）
2018.3.18	レジナビ 2018 東京（東京ビッグサイトにて）

［文責：小關　剛］

医療従事者研修管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

院内外の医療従事者研修事業の推進を図ることを目的とし、それらに係るチームを統括する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤 俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	6	地域医療連携室	1
看護部	1	本部・事務部	2

Ⅲ．会議　開催回数

3 回

Ⅳ．協議事項

2017.7.11	市民公開講座の日程、全体研修の日程について報告。
2017.9.12	全体講習の実施報告。
2017.11.14	土浦第一高等学校企業訪問の日程について報告。

［文責：長澤 俊郎］

職員研修運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

院内全職員を対象とした教育研修活動を検討し実施する。また、院内各部門における研修計画の把握と評価を行うことを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：長澤 俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床検査科	1
看護部	1	栄養科	1
薬剤部	1	地域医療連携室	1
放射線部	1	本部・事務部	2
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

10 回

Ⅳ．協議事項

2017.6.13	職員研修運営チーム、全体講習について協議。

2017.7.11	全体講習について協議。
2017.8.8	全体講習、 QC活動テーマについて協議。
2017.9.12	全体講習について協議。
2017.10.10	高校生の企業訪問、QC活動報告について協議。
2017.11.14	QC活動報告について協議。
2017.12.12	全体講習について協議。
2018.1.9	全体講習について協議。
2018.2.13	全体講習について協議。
2018.3.13	平成30年度新入職員オリエンテーションについて協議。

［文責：長澤 俊郎］

地域医療研修運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

地域医療の中核として地域医療従事者の研修事業を積極的に行い、地域医療従事者の研鑽の場の提供と地域医療の質の向上を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：長澤 俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床検査科	1
看護部	1	栄養科	1
薬剤部	1	地域医療連携室	1
放射線部	1	本部・事務部	2
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2017.4.7	2017 年度　委員会設置規約・構成委員名簿変更の報告 前年度に行われた公開講座についての反省と今後の課題の協議
2017.5.12	インターネット講演会の報告及び公開講座の報告協議 次回予定の公開講座について詳細説明
2017.6.13	委員会名称変更と開催日時変更について報告 市民公開講座についての報告及び公開講座の報告協議
2017.7.11	QC 活動参加についての検討 次回予定の公開講座について詳細説明
2017.8.8	公開講座にて参加者向けアンケート実施について検討 公開講座についての報告協議
2017.9.12	先月に行われた市民公開講座についての報告 参加者向けアンケートについての報告及び項目検討

2017.10.10	公開講座についての報告協議、参加者向けアンケートについての報告 次回予定の公開講座について詳細説明
2017.11.14	公開講座についての報告協議、参加者向けアンケートについての報告 次回予定の公開講座、地域連携 PEG の会について詳細説明
2017.12.12	来年度公開講座についての担当部署決め 地域連携 PEG の会について報告及び公開講座について報告協議
2018.1.9	来年度公開講座についての検討 公開講座についての報告協議、参加者向けアンケートについての報告
2018.2.13	公開講座についての報告協議、参加者向けアンケートについての報告 次回予定の公開講座について詳細説明
2018.3.13	来年度公開講座（一般市民向け・医師会向け）について協議 公開講座についての報告協議、参加者向けアンケートについての報告

Ⅴ．他 活動内容

公開講座にて希望演題アンケートの実施

［文責：長澤 俊郎］

診療管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

医事・地域医療連携に係る情報の共有、評価、分析を行うとともに、各運営チームでの決定事項の報告、情報周知を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤 俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	24	栄養科	1
看護部	3	地域医療連携室	1
薬剤部	1	医療相談室	2
放射線部	1	筑波総合クリニック	1
リハビリテーション部	1	つくばケアセンター	1
臨床検査科	1	本部・事務部	8
臨床工学科	1		

Ⅲ．会議　開催回数

年 12 回

Ⅳ．会議内容

・医事報告
・地域医療連携報告
・地域連携患者サポートセンター報告
・施設基準充足状況報告
・各委員会からの報告

［文責：長澤 俊郎］

救急診療運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

地域住民が生命の危機に瀕したときや、不慮の怪我や病状悪化により、緊急の対応を要したときに、生命を安心して預けられる病院であるよう、救急患者受け入れと治療に病院全体で総力を挙げる。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：榎本 強志

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	11	地域医療連携室	1
看護部	3	本部・事務部	5
放射線部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

年 11 回

Ⅳ．協議事項

2017.04.10	ドクターヘリの受け入れについて
2017.05.17	施設等入所中の患者の受け入れについて
2017.06.14	かかりつけ患者の受け入れについて
2017.07.10	高エネルギー外傷について
2017.08.21	手指切断患者の受け入れについて
2017.09.11	救急搬送の受け入れルールについて
2017.10.16	各診療科の連携、協力体制について
2017.11.13	めまい患者の対応について
2017.12.11	精神疾患患者の対応について
2018.02.19	心肺停止患者の受け入れについて
2018.03.12	ICU 満床時の受け入れについて

Ⅴ．他 活動内容

・つくば・常総地区メディカルコントロール協議会への参加

［文責：榎本 強志］

外来診療運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

質の高い医療を提供するために、筑波記念病院と診療上関係することが多い各施設との連携をスムーズに行うことを目的としている。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	13	筑波総合クリニック	4
看護部	3	つくばケアセンター	2
地域医療連携室	1	本部・事務部	5

Ⅲ．会議　開催回数

年７回

Ⅳ．協議事項

2017.05.31	筑波記念病院での診療場所について
2017.06.21	筑波総合クリニックで入院適応となった患者の流れについて
2017.07.19	紹介患者の流れについて
2017.08.23	各科、各施設での診療の連携体制について
2017.09.20	筑波総合クリニックかかりつけ患者の救急搬送について
2017.11.22	ケアセンターからの受診について
2018.02.21	診療の引き継ぎについて

［文責：小關　剛］

手術部運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

手術室の円滑な運営ができるよう、関連する事項について議論、検討することを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：田島 啓一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	11	臨床工学科	1
看護部	1	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

年４回

Ⅳ．協議事項

2017.09.06	手術部運営チーム立ち上げの経緯について
2017.11.01	手術部運営チーム規約について
2018.01.10	手術室の改修について
2018.03.07	手術室の改修の進捗状況について

［文責：田島 啓一］

ＩＣＵ運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

ICU では内科系外科系を問わず、生命の危機的状況にある様々な患者を収容し、24 時間体制で高度集中治療及び看護を提供している。その業務が適切に運営できているか検討することを目的としている。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：末松 義弘

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	8	臨床工学科	1
看護部	3	本部・事務部	3

Ⅲ．会議　開催回数

年６回

Ⅳ．協議事項

2017.05.08	ICU 運営での問題点について
2017.07.10	ICU 以外での重症患者の対応について
2017.09.11	ICU の稼働状況について
2017.11.13	ICU の運営規定について
2018.01.15	ICU の運営規定の見直しについて
2017.03.12	ICU 内の教育について

［文責：末松 義弘］

リハビリテーション運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

患者さんに質の高い医療を提供するために、リハビリテーションに関する事項に対して議論を行うことを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：伊佐地 隆

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	6	医療相談室	1
看護部	4	本部・事務部	2
リハビリテーション部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

年３回

Ⅳ．協議事項

2017.09.26	リハビリ運営チーム立ち上げの経緯について
2017.11.28	リハビリテーション実施計画書、総合実施計画書の運用方法について
2018.02.27	2018.4 月以降のリハビリ処方のオーダー変更について

［文責：伊佐地 隆］

病院機能改善管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

医療の質の要素である、診療の質（技術・能力）、設備・機器の質、不帯サービスの質（接遇・その他）、提供体制の質（制度・組織・運営）に関し、各担当から指標となる項目の報告をもらい、さらにこれらの改善に向けての院内での体制を整える。

Ⅱ．構成員

◎委員長：鯨岡 結賀

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	5	医療相談室	1
看護部	4	つくばトータルヘルスプラザ	1
薬剤部	1	筑波総合クリニック	1
リハビリテーション部	1	つくばケアセンター	1
地域医療連携室	1	本部・事務部	5

Ⅲ．会議　開催回数

10 回

Ⅳ．協議事項

2017.4.4	院内委員会組織の見直し（整理）、年報作成までのタイムスケジュール、その後の QI の更新について協議。
2017.5.9	院内委員会組織の見直し（委員長の変更等）、年報作成までのタイムスケジュール、その後の QI の更新について協議。
2017.6.13	院内委員会組織の見直し（委員長の変更等）、院内での QC の管理、新たなチームの申請について協議。
2017.7.11	新たなチームの申請、年報の作成、院内での QC 活動について協議。
2017.9.12	年報および QI のホームページへの掲載更新、院内での QC 活動、各チームの活動の議事録（4 － 8 月分）について協議。
2017.10.10	院内での QC 活動、各チームの活動の議事録（8 － 9 月分）について協議。
2017.11.14	各チームの活動の議事録（8 － 10 月分）、機能評価項目の変更箇所について協議。
2017.12.12	各チームの活動の議事録（10 － 11 月分）、QC 活動の中間報告、各部署（看護部、薬剤部、リハビリ、臨床検査、ME、放射線部）初期研修プログラムについて協議。
2018.2.13	各チームの活動の議事録（11 － 1 月分）、QC 活動の最終報告、各部署（看護部、薬剤部、リハビリ、臨床検査、ME、放射線部）初期研修プログラム、個人票の作成について協議。
2018.3.13	各チームの活動の議事録（1 － 3 月分）、QC 活動の最終報告、各部署（看護部、薬剤部、リハビリ、臨床検査、ME、放射線部）初期研修プログラム、個人票の作成について協議。

［文責：鯨岡 結賀］

医療ガスチーム

Ⅰ．目的及び機能

医療法人筑波記念会の運営する各事業所における医療ガス設備の管理を行い、患者の安全と災害の未然防止を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：神山 幸一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	筑波総合クリニック	1
看護部	2	本部・事務部	5
薬剤部	1	委託業者	1
臨床工学科	1		

Ⅲ．会議　開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2017.9	・医療ガス配管設備保守点検結果報告 ・人工空気製造装置定期保守点検結果報告 ・2017.3 月～ 9 月にかけての修理等報告
2018.3	・医療ガス配管設備保守点検結果報告 ・人工空気製造装置定期保守点検結果報告 ・2017.10 月～ 2018.3 月にかけての修理等報告

Ⅴ．他 活動内容

2017.4.4	・筑波記念病院、つくばトータルヘルスプラザ、筑波総合クリニック各々の 9 ヵ月定期点検実施 ・筑波記念病院における 3 ヵ月人工空気製造装置定期保守点検実施
2017.7.19～7.22	・筑波記念病院、つくばトータルヘルスプラザ、筑波総合クリニック各々の 12 ヵ月定期点検実施 ・筑波記念病院における 6 ヵ月人工空気製造装置保守点検実施
2017.10.31	・筑波記念病院、つくばトータルヘルスプラザ、筑波総合クリニック各々の 3 ヵ月定期点検実施 ・筑波記念病院における 9 ヵ月人工空気製造装置保守点検実施
2018.1.26.～1.30	・筑波記念病院、つくばトータルヘルスプラザ、筑波総合クリニック各々の 6 ヵ月定期点検実施 ・筑波記念病院における 12 ヵ月人工空気製造装置保守点検実施

［文責：神山 幸一］

がん化学療法運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院における、がん化学療法剤のレジメンの管理（登録、削除、保留）、施用等の適正化を図る。

検討事項：がん化学療法を行うためのレジメン・手技・医薬品の管理、外来化学療法室の運用、その他

Ⅱ．構成員

◎リーダー：添田 敦子

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	薬剤部	3
看護部	5	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2017.6.18	新規化学療法レジメン登録の確認、イメンド 125mg 内服処方の仕方について。
2018.3.15	平成 30 年度診療報酬改定について。ベルケイドの調製について。化学療法登録レジメンの見直しについて。

［文責：中原　朗］

輸血運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

院内における輸血が安全かつ円滑に行われるための活動の大網を定める事を目的とする。管理者の諮問機関として、管理者からの諮問事項、輸血療法上の問題点、緊急的検討事項、疫学的集計結果などを検討するチームで、病院として行うべき輸血療法上の方策を管理者に答申する輸血療法に関する意思決定機関である。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：佐藤 祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	臨床検査科	2
看護部	3	本部・事務部	1
薬剤部	2	委託業者	1

Ⅲ．会議　開催回数

６回

Ⅳ．協議事項

2017.6.14	輸血同意書の見直しについて・輸血部立ち上げについて
2017.8.9	輸血部稼働後の問題、自己血管理資格の認定について
2017.10.11	輸血廃棄率について、輸血の副作用報告書について
2017.12.7	輸血廃棄率について、緊急時の輸血のやり方について
2018.2.7	輸血同意書の CIS 上の取り込み、輸血管理料 2 について

［文責：佐藤 祐二］

診療録チーム

Ⅰ．目的及び機能

診療情報ならびに診療録の管理について、総括的に規定し適切な管理を行い、医療の質を確保する。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	8	栄養科	1
看護部	3	医療安全管理室	1
薬剤部	1	地域医療連携室	1
放射線部	1	医療相談室	1
リハビリテーション部	1	筑波総合クリニック	1
臨床検査科	2	本部・事務部	6

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

退院要約完成状況の報告、オーダリングシステム更新内容の確認、各部署からの連絡

2017.4	診療録チーム規約の確認
2017.5	短期入院時サマリーについて協議
2017.6	ＣＩＳでの手術記録作成について協議
2017.7	ＱＣ活動のチームテーマ報告
2017.8	ＣＩＳ患者画面ロックについて協議
2017.9	栄養治療実施計画兼治療実施報告書の運用開始について協議
2017.10	診療録の監査方法について協議
2017.11	入退院支援クリティカルパス運用について協議
2017.12	特定生物由来製品（血液製剤など）の使用に関する説明書について協議
2018.1	診療録入力内容に関する修正申請書について協議
2018.2	救急外来問診票について協議
2018.3	退院要約完成状況の報告

［文責：小關　剛］

臨床検査運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

臨床検査科の効率的かつ円滑な運営、管理を図り、あわせて診療の向上に寄与することを目的とする。また当院では、検体検査を外部委託しており、委託業務の実態を評価し、改善を促進する。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：井川 昌幸

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	本部・事務部	3
看護部	3	委託業者	1
臨床検査科	3		

Ⅲ．会議　開催回数

４回

Ⅳ．協議事項

2017.05.22	①病棟心電図の結果取り込み方法の検討 ②呼気 NO 濃度測定の開始 ③検査機器管理の判断基準について
2017.08.28	①検体検査のオーダー画面の見直し ② CIS に取り込みのない検査結果の対処方法
2017.11.27	①自費項目の料金設定について ②血液培養装置の稼働開始
2018.02.26	①来年度の看護部メンバー交代について ②精度管理報告

［文責：井川 昌幸］

補助人工心臓チーム

Ⅰ．目的及び機能

補助人工心臓装着の適応の検討及び、補助人工心臓管理に関わる治療・看護及び情報を共有して統合的な管理を行うことで、補助人工心臓装着患者の安全かつ適切に管理することにより QOL の向上に努めることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：末松 義弘

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床工学科	1
看護部	6	本部・事務部	2
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2017.8	チームメンバーの確認。IMPELLA 実施施設認定の登録完了報告と管理マニュアルの作成開始。
2018.3	IMPELLA 駆動装置購入後の勉強会開催の確認。勉強会開催後に管理マニュアルを整備予定。

［文責：末松 義弘］

栄　養　チ　ー　ム

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院栄養チームは、当院における栄養管理業務の適正化をはかるために行う。
栄養管理業務を遂行すると同時に、改善が必要な事項については検討し、さらに検討事項の改善、報告を行う。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：坂本 俊樹

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	栄養科	2
看護部	2	本部・事務部	3
薬剤部	1	委託業者	3

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2017.4	インシデントの報告 アレルギーの対応について
2017.5	インシデントの報告 メフォス全職員へのアンケート調査のフィードバック報告 アレルギー対応について 栄養管理計画書の運営について
2017.6	インシデントの報告 アレルギー対応について 栄養管理計画書の管理システム導入について
2017.7	インシデントの報告 アレルギー対応について 栄養管理計画書の管理システム導入について 夕食の下膳カートの運用 摂食嚥下チームからの報告
2017.8	インシデントの報告 栄養管理計画書の管理システム導入について 嗜好調査アンケートの実施について チームメンバー追加
2017.9	インシデントの報告 栄養管理計画書の管理システム導入にていて 嗜好調査アンケート実施について 栄養科の体制変更
2017.10	インシデントの報告 栄養管理計画書の管理システム導入について 嗜好調査アンケートの実施について 栄養指導件数増加に向けての取り組み
2017.11	インシデントの報告 栄養管理計画書の管理システム導入について 栄養指導件数の報告 注腸食変更のおしらせ
2017.12	栄養指導件数の報告 嗜好調査実施の報告
2018.1	インシデントの報告 栄養指導件数の報告 嗜好調査アンケートの報告

2018.2	インシデントの報告 栄養管理計画書の実施件数の報告 栄養指導件数と今後の栄養科について 時間外の食事提供について 下膳時間について
2018.3	平成 30 年度の栄養チームのメンバー変更について インシデントの報告 栄養指導件数の報告 時間外の食事提供について 今年度の振り返りと来年度の抱負

［文責：坂本 俊樹］

ＮＳＴ（栄養サポートチーム）

Ⅰ．目的及び機能

栄養状態を判定し、その患者に最もふさわしい栄養管理を指導・提言することで、患者の治療・回復・退院及び社会復帰を図ることを目的とする。さらに、各委員会との連携に努め相互協力する。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：藤原　淳

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	リハビリテーション部	1
看護部	13	栄養科	2
薬剤部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2017.4	NST 加算　算定方法確認　事例検討　MNA 実施方法
2017.5	NST 加算書類報告　栄養評価表説明　勉強会案内（院外）
2017.6	NST 加算報告　マニュアル見直し　事例検討
2017.7	NST 加算報告　NST 介入家族説明について
2017.8	NST 加算報告　NST 対象者スクリーニングについて
2017.9	NST 加算報告　メンバー変更あり　再度算定方法確認
2017.10	NST 加算報告
2017.11	NST 加算報告　回診方法見直し変更
2017.12	NST 加算報告　対象者見直し
2018.1	NST 加算報告　回診日増加による　回診方法説明
2018.2	開催なし
2018.3	NST 加算報告　本年度振り返り　次年度課題

Ⅴ．他 活動内容

院内の NST 対象者をスクリーニングし、栄養計画を立案・実施・評価を行う

院内の NST に対する知識の向上のため研修会や事例検討を実施

［文責：藤原　淳］

摂食嚥下ケアチーム

Ⅰ．目的及び機能

1．院内における摂食嚥下に関するリハビリテーションや看護ケアの構築・整備、実施・評価を行う

2．誤嚥性肺炎のリスク管理を行い、発症数の減少を図る

3．摂食機能療法の加算算定を行う（2017 年 6 月よりプレ　8 月より開始）

4．嚥下食の検討と改善を図る

Ⅱ．構成員

◎リーダー：海老原 一彰

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	リハビリテーション部	2
看護部	12	栄養科	1

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2017.4	スクリーニング方法の検討　VF 食の検討　嚥下食試食検討
2017.5	口腔ケア研修調整　摂食機能療法算定方法検討　嚥下食検討
2017.6	摂食機能療法算定実施開始　行事食（嚥下用）検討　ゼリー食検討
2017.7	摂食機能療法算定報告
2017.8	行事食検討　給食ばななの提供方法検討　食事形態表の検討
2017.9	摂食機能療法算定報告　行事食について
2017.10	摂食機能療法算定報告　行事食について　回診方法検討
2017.11	摂食機能療法算定報告　行事食について
2017.12	摂食機能療法算定報告　行事食について
2018.1	摂食機能療法算定報告　摂食機能療法時の記録　行事食について
2018.2	摂食機能療法算定報告　行事食について
2018.3	摂食機能療法算定報告　行事食について　本年度　まとめ　課題

Ⅴ．他 活動内容

院内研修　口腔ケア　3 回シリーズ

1 シリーズ：同内容 3 回実施（計 8 回）

［文責：海老原 一彰］

褥瘡対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

褥瘡対策委員会は、院内における褥瘡予防を周知させることで、褥瘡発生を減少させ、かつ、発生した褥瘡に対しては､的確な対応が出来ることを目標とする。医療スタッフが連携し､協力して行う。チーム医療を基本とし、褥瘡予防対策の強化と早期治療の促進を図るため病院全体で取り組む。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：照沼　篤

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	リハビリテーション部	1
看護部	12	栄養科	2

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2017.4.12	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ＜マニュアルの追加＞ ・回診リストの使用基準　・褥瘡診療計画書転帰報告の確認 ・低栄養評価表　　・エアマット使用状況確認、使用入力方法
2017.5.10	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・昨年度の振り返り　今年度の活動確認
2017.6.7	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・各病棟ブレーデンスケールの勉強会を行った結果報告
2017.7.5	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・全体研修（褥瘡予防）の内容確認と実施
20.17.8.2	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・全体研修（褥瘡予防）の実施
2017.9.6	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・コンパテック（メビレックス）製品説明と DESIGN-R の勉強会 ・全体研修（褥瘡予防）の実施　・評価チームの活動内容報告
2017.10.4	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・全体研修（褥瘡治療）の内容確認と実施・褥瘡評価の記録確認１件
2017.11.1	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・全体研修（褥瘡治療）の実施　　・CIS の寝具入力変更
2017.12.6	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・全体研修（褥瘡治療）の実施 ・有病率と発生率の一覧表とグラフを作成 ・褥瘡評価の記録確認１件、記録についての自己評価表作成
2018.1.10	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・全体研修（褥瘡予防・褥瘡治療）の振り返り
2018.2.8	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・マニュアルを作成し統一したケアを行うための役割分担（４項目） 1. 褥瘡に関する記録　　2. 陰部洗浄の手順 3. エアマットの使用方法　　4. テープの貼り方剥がし方
2018.3.8	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・マニュアルを作成し統一したケアを行うための４項目を発表し修正

Ⅴ．他 活動内容

褥瘡リスク状態の患者に対して予防管理していくこと、リスクのある患者にチームで関わり、予防策を検討、実施、NST と連携し、早期から褥瘡リスク予防を行う。

褥瘡対策委員会メンバーのスキルアップに努める。

［文責：照沼 篤］

クリティカルパスチーム

Ⅰ．目的及び機能

クリティカルパスの作成・運用、バリアンス評価の方法に関する啓蒙活動及び指導を行い効率的な「標準的治療」を目指し、質の高い診療の普及に努めることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	6	リハビリテーション部	1
看護部	3	本部・事務部	2
薬剤部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

年４回

Ⅳ．協議事項

2017.08.16	クリティカルパスの使用状況について 内視鏡的治療後パスについて
2017.10.17	日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会について
2017.12.19	退院支援パスについて
2018.02.20	前立腺生検パスについて

Ⅴ．他 活動内容

日本医療マネジメント学会（全国総会・支部会）への参加

［文責：小關　剛］

ＤＰＣ チ ー ム

Ⅰ．目的及び機能

以下のことを検討し答申することを目的とする。

（１）適切な DPC コーディングに関すること。

（2）診断及び治療方法の適正化、標準化に関すること。
（3）DPC の運用方法に関すること。
（4）その他 DPC 業務に係る課題に関すること。
（5）DPC 参加の要件である提出データの作成に関すること。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	6	リハビリテーション部	1
看護部	3	本部・事務部	2
薬剤部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

年２回

Ⅳ．協議事項

2017.12.19	DPC の経営分析
2018.02.20	診療報酬改定に伴う変更点について

Ⅴ．他 活動内容

新人、研修医オリエンテーションでの DPC 指導

［文責：小關　剛］

地域医療サービスチーム

Ⅰ．目的及び機能

地域医療展開に関する環境整備、医療サービスの充実、状況把握の調査･改善などを目的に、患者満足度調査、待ち時間調査、院内環境巡視などを行う。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：谷中 清之

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	栄養科	1
看護部	1	地域医療連携室	1
薬剤部	1	筑波総合クリニック	2
放射線部	1	本部・事務部	3
リハビリテーション部	2	委託業者	1
臨床工学科	1		

Ⅲ．会議　開催回数

10 回

Ⅳ．協議事項

2017.4	2017 年度の活動予定および構成員の確認。 院内巡視報告。ご意見箱への投書対応（7 件）
2017.5	院内巡視報告。投書対応（4 件）
2017.6	院内巡視報告。投書対応（4 件）
2017.7	院内巡視報告。投書対応（8 件）
2017.8	院内巡視報告。投書対応（6 件）
2017.9	院内巡視報告。投書対応（2 件）
2017.11	院内巡視報告。投書対応（7 件）
2017.12	院内巡視報告。投書対応（8 件）
2018.1	院内巡視報告。投書対応（3 件）
2018.3	院内巡視報告。投書対応（10 件）

Ⅴ．他 活動内容

・患者さんからのご意見（「ご意見箱」投函内容）に対する事実確認と対策協議。（毎月）

・院内巡視報告（毎月）

7 月　病室の照度調査の実施。

11月　駐車場内の転倒防止対策の実施。

12月　職員駐輪場　放置自転車撤去作業の実施。内視鏡室内トイレットペーパーの品質の見直し。

［文責：谷中 清之］

企画広報運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

本チームは、病院長の諮問に基づき、以下のことを検討し答申することを目的とする。

（1）院外広報誌の制作と配布に関すること。

（2）病院パンフレット、入院案内の制作に関すること。

（3）WEB サイトに関すること。

（4）その他、広報活動全般に関すること。

Ⅱ．構成員

◎リーダー：池澤 和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	つくばトータルヘルスプラザ	1
看護部	2	つくばケアセンター	1
放射線部	1	本部・事務部	2
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2017.4.10	記念樹つくば Vol.50 について、記念樹つくば Vol.51 について アンケートについて、昨年度実績及びメンバー確認 記念樹の配布場所について、規約の見直し、 委員会組織図について IT セキュリティー委員会からの委譲について
2017.5.8	規約について、記念樹つくば Vol.51 について アンケートについて、Facebook の運用について、 チーム員の交代
2017.6.12	規約について、記念樹つくば Vol.51 について WEB サイトについて
2017.7.10	記念樹つくば Vol.52 について、受診動機アンケートについて WEB サイトについて QC 活動について
2017.8.14	記念樹つくば Vol.52 について、受診動機アンケートについて WEB サイトについて
2017.9.11	記念樹つくば Vol.52 について、記念樹つくば Vol.53 について 受診動機アンケートについて、WEB サイトについて
2017.10.16	記念樹つくば Vol.53 について、受診動機アンケートについて WEB サイトについて
2017.11.13	記念樹つくば Vol.53 について、受診動機アンケートについて WEB サイトについて
2017.12.11	記念樹つくば Vol.54 について、受診動機アンケートについて
2018.1.15	記念樹つくば Vol.54 について、受診動機アンケートについて WEB サイトについて
2018.2.16	記念樹つくば Vol.54 について、受診動機アンケートについて 記念樹つくば Vol.55 について
2018.3.12	記念樹つくば Vol.54 について、受診動機アンケートについて 記念樹つくば Vol.55 について

Ⅴ．他 活動内容

2017.4　記念樹 Vol.50 発行

2017.7　記念樹 Vol.51 発行

2017.10　記念樹 Vol.52 発行

2018.1　記念樹 Vol.53 発行

［文責：池澤 和人］

倫　理　委　員　会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院及びその職員が行う臨床研究及び職域内の規制等について、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿って審議し、倫理的配慮を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：柏木 平八郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	9※	本部・事務部	1
看護部	1	外部委員	1
薬剤部	1		

※医局からの委員に病院長が含まれるが、病院長は採決評議には参加できない。

Ⅲ．会議　開催回数（2017 年 4 月～ 2018 年 3 月）

通常開催　10 件　　簡易倫理審査（書類審査）　3 件

Ⅳ．協議事項

通常審査

2017.6.20	造血器腫瘍及び固形腫瘍におけるゲノムおよびエピゲノム異常の網羅的解析
2017.6.20	雑誌投稿 「認知機能低下を主訴とした症例の海馬領域における左右の平均血流低下と簡易認知機能評価との比較検討」
2017.6.20	雑誌投稿「認知機能低下者に対する早期治療介入効果の検討」
2017.9.5	1）臨床研究等 ICT 基盤構築研究事業　A：人工知能（AI）等利活用基盤構築関連 3：ICT 技術や人工知能（AI）等による利活用を見据えた、診療画像等データベース基盤構築に関する研究（日本医療研究開発機構（AMED）公募研究）
2017.9.5	大腸癌以外の消化器・腹部悪性腫瘍における関連遺伝子異常のプロファイリングの多施設共同研究　SCRUM-Japan GI-screen 2015-01-Non CRC
2017.10.5	進行再発大腸癌におけるがん関連遺伝子異常のプロファイリングの多施設共同研究 SCRUM-Japan GI-screen 2013-01-CRC
2017.11.14	急性大動脈解離超重症例に対する革新的外科手術（Suematsu 法）
2017.12.5	薬剤耐性 Helicobacter pylori の全国サーベイランス
2018.2.6	破裂性腹部大動脈瘤に対する開腹手術とステントグラフト内挿術の治療選択に関する全国多施設観察研究
2018.2.6	2 型糖尿病を伴う心不全患者の微量アルブミン尿に対するダパグリフロジンの予防・抑制効果に関する臨床検査（DAPPER Study）

簡易審査

2017.5.30	茨城県における DAA 治療後短時間での肝細胞癌発生に関する多施設調査
2017.5.30	日本ヘリコバクター学会　学会報告 「H.pylori 除菌療法ではボノプラサンを使用しても高齢者での失敗リスクは上昇する」
2017.7.4	学会報告：第 48 回日本看護学会 在宅看護 学術集会 「地域包括ケア病棟開床の現状と課題－療養病棟から地域包括ケア病棟への転換ー」

Ⅴ．他 活動内容

2017.4.3	新入職員対象講義（委員長）　講義『医の倫理』

［文責：柏木 平八郎］

薬　事　委　員　会

Ⅰ．目的及び機能

医薬品の選定、購入、配布及び施用等の適正化を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：飯田　要

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	6	薬剤部	3
看護部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

９回

Ⅳ．協議事項

2017.4.4	新規採用医薬品採用審議３件 研修医の処方の仕方について　その他
2017.6.6	新規採用医薬品採用審議　２件　その他
2017.7.4	新規採用医薬品採用審議　３件　その他
2017.9.5	新規採用医薬品採用審議 10 件　その他
2017.10.3	新規採用医薬品採用審議　３件　その他
2017.11.7	新規採用医薬品採用審議　６件 後発医薬品採用について
2017.12.5	新規採用医薬品採用審議　５件 未承認医薬品の使用について
2018.1.9	新規採用医薬品採用審議　４件　その他
2018.3.6	新規採用医薬品採用審議　５件　その他

Ⅴ．他 活動内容

以下の事項を審議する

①医薬品採用の可否に関すること。

②医薬品の適正な使用及び管理に関すること。

③陳旧した医薬品の取り扱いに関すること。

④医薬品副作用等の情報に関すること。

⑤薬局業務に関すること。

⑥その他薬事に関すること。

［文責：飯田　要］

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

筑波総合クリニック

【総括】

外来患者数は昨年度と比較すると、形成外科と総合内科に関しては医師および外来枠を増加させたため、患者数も大幅に増加に転じた。一方で医師の減少による患者数が減少した診療科もあったため、全科合計としては若干増加した程度になった。

来年度は病院・トータルヘルスプラザ・ケアセンター等の関連施設、および他職種との連携を図り、責任感と緊張感をもって患者さんの対応をすると同時に、接遇の向上にも力を入れていきたい。

［文責：大坂恒司］

【業務実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	2,482	2,350	2,413	2,392	2,524	2,294	2,451	2,318	2,376	2,356	2,344	2,412	28,712
消化器内科	1,138	1,236	1,378	1,363	1,285	1,376	1,304	1,287	1,406	1,235	1,256	1,389	15,653
血液内科	237	296	280	310	303	264	298	247	246	287	245	282	3,295
神経内科	307	279	334	302	295	293	288	247	314	260	260	298	3,477
代謝内科	1,080	1,001	1,116	959	1,062	1,030	959	935	1,106	992	997	1,076	12,313
呼吸器内科	396	398	466	426	428	409	414	405	383	438	407	437	5,007
消化器外科	633	679	778	675	731	698	688	619	701	589	583	606	7,980
呼吸器外科	314	309	362	336	339	345	297	324	321	270	292	334	3,843
心臓血管外科	264	284	330	352	301	339	339	351	332	286	275	307	3,760
脳神経外科	1,524	1,389	1,505	1,426	1,502	1,308	1,510	1,396	1,473	1,352	1,282	1,516	17,183
整形外科	1,902	1,800	2,210	1,956	2,063	1,977	1,832	1,890	2,091	1,741	1,693	2,069	23,224
婦人科	745	751	857	798	778	811	804	764	838	691	770	893	9,500
眼科	1,187	1,108	1,317	1,276	967	1,284	1,259	1,201	1,158	1,098	1,015	1,294	14,164
耳鼻咽喉科	1,047	1,000	1,144	1,039	940	1,003	987	1,099	1,023	912	973	1,184	12,351
皮膚科	480	452	489	521	623	441	463	463	433	425	415	445	5,650
小児科	199	212	216	203	241	238	240	230	293	228	194	233	2,727
精神科	239	240	253	260	210	264	238	226	262	230	220	236	2,878
リウマチ・アレルギー科	303	323	315	299	349	328	317	316	300	294	354	357	3,855
形成外科	93	134	125	187	156	193	187	166	169	129	194	237	1,970
血管専門外来	31	32	35	34	40	22	28	22	30	21	27	35	357
腎臓内科	95	95	109	128	134	57	124	88	101	101	107	99	1,238
乳腺甲状腺外科	309	287	385	343	314	308	307	289	286	266	272	368	3,734
泌尿器科	312	312	358	341	327	368	380	330	392	310	327	335	4,092
内科	297	405	425	384	464	370	435	432	451	540	509	460	5,172
一般外科	7	15	21	17	10	4	6	21	15	17	11	8	152
合計	15,621	15,387	17,221	16,327	16,386	16,024	16,155	15,666	16,500	15,068	15,022	16,910	192,287

つくばトータルヘルスプラザ

【総括】

1．2017 年度の実績報告

2016 年度と比べて 2017 年度の受診者数は、全体で 2.8% の受診者数増加があった。特に院内健診では 5.2% の受診者数増加がみられた。主な要因としては、婦人科検診（乳腺エコー・マンモグラフィ・子宮がん）の検査数を増やしたことが挙げられる。また、人間ドックの受診者数も 1.7% の増加があった。しかし、2017 年度の目標であった 1 月～ 3 月の人間ドック受診者数 1,000 名／月に対しては、どの月も達成することが出来なかった。

フェニックスの延べ来館者数は、2016 年度に比べて 11.36％増加した。1 日平均延べ来館者数は 102.49 名と目標である 1 日 100 名を超えた。通所リハビリテーションは､月曜日から金曜日までと拡大し利用回数を増やした。引き続き広報活動に力を入れていきたい。

学会や講演会活動は、日本総合健診学会学術大会に 1 演題を発表した。2016 年度よりスタートした各企業への講演活動も保健師、理学療法士、トレーナーが連携を取りながら継続した。

2．2018 年度の課題・目標

2018 年度は新規オプション項目を増やしていきたい。また、閑散期である 1 月～ 3 月の人間ドック受診者数を 1,000 名／月とする。通所リハビリテーションについては、午後のみの枠であったが、利用者の増員に対応できるように午前中の枠を増やしていきたい。学会活動についても、日本人間ドック学会と日本総合健診学会にそれぞれ演題発表を行っていく。

［ 文責：福原圭介 ］

【人事】

氏　名	役　　職	診　療　科	勤　務
中原　　朗	つくばトータルヘルスプラザ施設長	消化器内科	常（HP）
山根　一秀	つくばトータルヘルスプラザ顧問	リウマチ・アレルギー科	常（HP）
本橋　　歩	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	消化器内科	常（HP）
小松あかね	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	婦人科	常（HP）
設楽佐代子		消化器内科	常（HP）
清水　郁子		代謝内科	常（HP）
助川慎一郎		血液内科	非（THP）
真家紘一郎		血液内科	非（THP）
丸山ゆみ子		血液内科	非（THP）
小原　　直		血液内科	非（THP）
宮内　　卓		循環器内科	非（THP）
芳賀　厚子		循環器内科	非（THP）
長谷川純郎		循環器内科	非（THP）
中森　　容		消化器内科	非（THP）

福田由紀子		消化器内科	非（THP）
岡田　純代		代謝内科	非（THP）
金津　赫生		内科	非（THP）
島　さつき		内科	非（THP）
廣瀬　千尋		内科	非（THP）
柳　　久子		内科	非（THP）
江辺　厚子		内科	非（THP）
齊田　英恵		内科	非（THP）
中村　優子		婦人科	非（THP）
小竹　文雄		放射線科	非（THP）
野中美喜子		小児科	非（THP）
佐藤　　泉		リウマチ・アレルギー科	非（THP）

【業務実績】

人間ドック、健康診断受診者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人間ドック	日帰り	754	945	1170	1142	1118	1071	1118	1049	1010	834	934	757	11902
	一泊	2	1	0	0	1	2	2	2	4	4	1	1	20
	脳ドック	9	36	59	56	51	44	54	55	51	39	42	33	529
	レディース	17	20	13	18	25	11	18	18	19	15	22	85	281
ドック		777	972	1211	1178	1167	1109	1158	1096	1062	872	967	862	12431
院　内		586	1067	1613	1506	1674	1490	1655	1745	1627	1338	1372	927	16600
巡　回		4622	1836	2503	1265	1957	1440	1566	2015	505	119	1177	518	19523

検査別実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
胃内視鏡検査	297	309	304	302	334	302	324	308	304	283	280	314	3661
乳腺エコー検査	321	344	517	512	570	512	568	540	536	488	507	512	5927
マンモグラフィ検査	166	192	397	402	439	451	454	455	441	393	421	315	4526
子宮細胞診検査	299	412	734	820	756	774	876	828	721	739	772	560	8291

（件）

部位別精検指示及び実施者数

		胃部X線	胃内視鏡	胸部X線	心電図	便	腹部超音波	乳房	子宮細胞診
精検指示者数	2016年度	717	139	529	1149	1231	275	282	86
	上半期	778	66	252	639	672	193	176	69
精検実施者数	2016年度	384	48	256	51	182	93	139	48
	上半期	293	17	84	33	88	72	85	45

フェニックス延べ来館者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2461	2363	2610	2582	2687	2721	2667	2548	2320	2218	2273	2581	30031

フェニックスイベント

名　　称	件数	開催日
ノルディックウォーキング体験会	10 名	2017.4.30
ノルディックウォーキング体験会	14 名	2017.5.28
交流会（スポーツ・ゲーム）	21 名	2017.5.28
交流会（スポーツ・ゲーム）	12 名	2017.6.25
ノルディックウォーキング体験会	12 名	2017.7.30
交流会（スポーツ・ゲーム）	9 名	2017.7.30
フェニックス夏イベント	19 名	2017.8.27
ノルディックウォーキング体験会・やさしいノルディック教室	14 名	2017.9.24
交流会（スポーツ・ゲーム）	10 名	2017.10.29
ノルディックウォーキング体験会	14 名	2017.12.24
クリスマスイベント	8 名	2017.12.24
ノルディックウォーキング体験会	12 名	2018.1.28
リハビリテーションスポーツ体験会	8 名	2018.1.28
ノルディックウォーキング体験会	12 名	2018.2.25
ボッチャ大会	25 名	2018.2.25
ノルディックウォーキング体験会	10 名	2018.3.25
卓球バレー大会	16 名	2018.3.25

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
中原　朗、山根一秀、本橋歩、坂本真樹、鈴木美帆、野口須美子、興野千春、古澤弦、吉原　桂、矢島枝美、風野和之	当院における健康教室の効果と現状	第 46 回大会 日本総合健診医学会	名古屋	2018.1
鈴木美帆、興野千春、二瓶久美子	「生活習慣病といわれたら…食事摂取で知っておいてほしい事」「日常生活で実践できる身体づくり」	講演（企業）	つくば	2017.4
鈴木美帆、野口須美子、関澤智光	「タバコと健康の害について・禁煙の仕方」「呼吸筋を鍛える運動とストレッチで気分転換！」	講演（企業）	つくば	2017.5
設楽佐代子、関澤智光	ロコモ予防体操 「将来寝たきりにならないために」	講演（企業）	つくば	2017.5
設楽佐代子、関澤智光	健康講座 1　肥満と生活習慣病 「肥満と生活習慣病…平成 28 年度健康診断結果表をもとに」「運動による減量のためのヒントとトレーニング」	講演（企業）	つくば	2017.6
坂本真樹、興野千春、関澤智光	健康講座 2　健康的な減量をめざして（前編）「食事の適正カロリーを知ろう！」「継続するための有酸素運動」	講演（企業）	つくば	2017.8
鈴木美帆、野口須美子、関澤智光	「タバコと健康」「呼吸筋を鍛える運動とストレッチで気分転換！」	講演（企業）	つくば	2017.9
中原　朗	最近の話題（茨城県感染症流行情報・労働自殺・喫煙率・日本人の平均寿命・肥満からの脱却等）	講演（企業）	つくば	2017.10
坂本真樹、野口須美子、関澤智光	生活習慣病の予防について　食事と運動「生活習慣病といわれたら…食事摂取で知っておいてほしい事」「運動による減量のためのヒントとトレーニング」	講演（企業）	つくば	2017.10

中原　朗	最近の話題（茨城県感染症流行情報・労働自殺・喫煙率・日本人の平均寿命・肥満からの脱却等）	講演（企業）	つくば	2017.10
坂本真樹、興野千春、二瓶久美子	健康講座 「食事の適正カロリーを知ろう！」「肥満と腰痛」	講演（企業）	つくば	2017.11
鈴木美帆、野口須美子、関澤智光	「空腹の対処法」「続けよう！毎朝の健康習慣」	講演（企業）	つくば	2017.11
坂本真樹、興野千春、関澤智光	健康講座３　健康的な減量をめざして（後編）「いつもの食事を見直してみませんか？」「運動に関するＱ＆Ａとメニューバリエーション」	講演（企業）	つくば	2017.12
設楽佐代子、関澤智光	健康講座４　生活習慣病とストレス対策「脳心血管病の予防について」「ストレスや腰痛の軽減のために」	講演（企業）	つくば	2018.2
本橋　歩	メンタルヘルス講習 「ストレスを知り、ストレスに向き合う」「上司、同僚のサポートが必要」「風通しをよくするコミュニケーションのこつ」「うつを知り、うつを直そう」	講演（企業）	坂東	2018.3
二瓶久美子	ストレッチ、エアロビクス、ピラティス	出張指導（団体）	下妻	2017.4 ～ 2018.3
塚田優子	ストレッチ、頭の体操、低強度の筋トレ、チェアエクササイズ	出張指導（団体）	つくば	2017.4 ～ 2018.3
山口可奈、古徳卓也	集団でのボール運動、模倣ゲーム、ストレッチ体操等・つくば市在住障害のある小学生	出張指導（市町村）	つくば	2017.6 ～ 2018.3
二瓶久美子、関澤智光	ピラティス、ロコモ予防体操	出張指導（企業）	つくば	2017.7 ～ 2018.2
関澤智光	職場フィットネスルームでのサーキットトレーニング	出張指導（企業）	つくば	2017.5 ～ 2018.3
秋山泰蔵	介護予防、肩こり・腰痛・膝痛予防、認知症予防	出張指導（市町村）	つくば	2017.5 ～ 2018.2
神宮史明、雨澤隆穂	腰痛予防体操、サーキットトレーニング	出張指導（企業）	つくば	2017.10
神宮史明、関澤智光、雨澤隆穂	体力測定・20 ～ 50 歳代	出張指導（企業）	つくば	2017.7
神宮史明、二瓶久美子	生活習慣病・腰痛予防のためのエクササイズとセルフケア	出張指導（企業）	坂東	2017.10
関澤智光	市民公開講座（肥満よさらば）の一部（メタボ体操）	出張指導（市町村）	つくば	2017.11

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

介護老人保健施設　つくばケアセンター

【総括】

1．2017 年度の実績

昨年度、当施設では満床を維持しつつ在宅支援型を実践することを目標として運営に取り組んできた。その結果、2017 年 4 月から在宅復帰率 30％を達成し、維持することで 2017 年 10 月から「在宅復帰・在宅療養支援機能加算」の算定を可能とした。そして、ご利用者またはご家族の希望に沿った看取り介護の実施し、施設医との連絡体制、併設医療機関である筑波記念病院との連携、吸引等の看護処置体制を整備した。一方、通所リハビリテーションでは一昨年に引き続き利用者数が伸び悩み、やはり増員が課題である。

訪問リハビリテーションは過去最高の実績であったが、訪問セラピスト一人あたりの平均実施件数は 4.2 件であった。訪問セラピスト一人あたりの実施件数を増やすために、人員調整、訪問ルート調整、間接業務の見直しなどを年度末より始めたところなので、来年度の実績につながるように努力する。

2．2018 年度の課題・目標

入所では、報酬改定により在宅支援型から加算型（在宅復帰・在宅療養支援機能加算（Ⅰ）を算定）に移行した施設基準等を維持し、ご利用者とご家族の満足度向上を目指し、今年度は特に職員の研修を重点的に行っていく。通所では、デイケアの特徴を活かしつつ、ご利用者が楽しめるプログラムを行い、利用者数 1 日平均 30 名を目標とする。訪問リハビリでは、実施回数の目標を訪問セラピスト一人あたり 1 日 5 件とし、より多くの利用者様に利用していただけるよう取り組むとともに、日々の安全運転を心がける。

［文責：磯山誠次］

【業務実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
入　　所	103	104	102	104	107	101	103	102	102	104	104	106	1242
ショートステイ（予防含む）	8	11	8	16	14	17	17	20	18	17	10	12	168
通所リハビリ（予防含む）	80	84	88	81	83	82	85	88	82	76	74	73	976
訪問リハビリ（予防含む）	251	251	260	264	266	265	274	273	274	274	276	286	3214

（単位：名）

【資格保有者数】

正看護師	14 名
准看護師	4 名
介護福祉士	32 名
社会福祉士	2 名
ケアマネジャー	9 名
ヘルパー 2 級	0 名
理学療法士	25 名
作業療法士	8 名
言語聴覚士	6 名

（2017 年 4 月 1 日現在）

【年間行事】

	行事内容	備　　考
4 月	お花見会	
5 月	母の日会	
6 月	父の日会	
7 月	七夕会	
9 月	納涼祭	ご家族参加者:大人187名、ボランティア32名
	祝寿会	
10 月	運動会	
11 月	演奏会	
12 月	クリスマス会	
1 月	新年会	
2 月	豆まき会	
3 月	ひなまつり会	

つくば訪問看護ステーション

【総括】

1．2017 年度の実績報告

看護師 6 名、理学療法士 1 名・作業療法士 2 名（法人内兼務）、事務 1 名（医事課兼務）で、人事異動はあったが体制は継続した。

実績を見ると、延べ利用者数、利用件数とも 2016 年度より上回り、少ない人数ながらも目標の 4,000 件を達成した。前年比では、新規利用者数が 35.3％増、筑波記念病院退院患者数が 78.9％増、在宅での看取りが 54.3％増と大幅に増えている。これは、在宅部門カンファレンスや院外の他職種との連携に努めたことが結果に繋がったと考える。

2．2018 年度の課題・目標

件数増加に伴う、業務の煩雑化と残業時間の延長がみられたことに対して、看護計画マニュアル作成等で業務改善を図り、更に人材育成を強化していきたい。また、満足度調査を実施し、課題を明確にして質の良い看護が提供できるよう努力していく。

利用件数は、4,500 件を目指す。

［文責：鈴木房江］

【業務実績】

項　　目	2016 年度	2017 年度	前年比【%】
延べ利用者数(1)	707	886	25.3
新規利用者数	51	69	35.3
筑波記念病院退院患者	19	34	78.9
利用者件数(2)	3,948	4,238	7.3
利用時間【min】(3)	245,903	257,865	
1 件あたりの平均利用時間【min】	62.3	60.8	－ 2.4
在宅での看取り	11	17	54.5

引用資料
（1）利用実績表（期間）：全体［実人数］
（2）訪問職員別実績一覧表（実績回数）
（3）訪問職員別実績一覧表（訪問 / 業務時間）

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

筑波記念病院　統　計

患　者　統　計

科別外来患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2016	242	246	204	212	225	169	165	190	220	266	219	196	2,554
	2017	191	233	169	223	189	220	194	180	227	287	236	237	2,586
消化器内科	2016	722	773	804	765	866	829	806	784	853	957	854	846	9,859
	2017	730	732	838	856	850	855	889	788	961	891	840	854	10,084
血液内科	2016	459	483	474	493	455	504	496	492	534	639	496	541	6,066
	2017	466	514	514	535	589	552	554	504	589	659	623	549	6,648
神経内科	2016	111	107	114	120	148	127	126	99	96	86	79	75	1,288
	2017	62	69	71	61	66	64	68	57	61	55	52	60	746
代謝内科	2016	39	41	47	66	37	43	48	62	69	87	46	64	649
	2017	43	41	42	44	49	45	49	105	86	111	74	80	769
呼吸器内科	2016	42	48	38	65	57	52	38	29	23	34	24	38	488
	2017	68	82	49	70	56	51	59	60	56	108	60	49	768
消化器外科	2016	222	169	220	235	167	171	180	175	190	179	181	164	2,253
	2017	173	189	172	175	182	169	175	149	147	170	157	131	1,989
呼吸器外科	2016	84	84	55	80	72	68	93	80	91	63	80	73	923
	2017	55	59	80	96	66	70	70	83	57	82	59	57	834
心臓血管外科	2016	140	117	161	169	152	151	117	109	132	148	120	142	1,658
	2017	129	145	171	144	157	162	179	178	160	228	164	195	2,012
脳神経外科	2016	190	175	180	172	165	169	144	152	174	171	139	188	2,019
	2017	143	160	153	131	151	155	140	109	177	137	116	161	1,733
整形外科	2016	468	440	427	426	487	484	460	431	465	497	437	433	5,455
	2017	385	471	437	490	535	528	435	376	499	524	497	631	5,808
婦 人 科	2016	31	23	23	18	25	15	33	22	17	15	13	16	251
	2017	20	22	14	7	25	25	20	11	28	20	19	22	233
眼　　科	2016	19	19	28	14	10	14	17	23	21	19	21	14	219
	2017	13	15	11	15	7	16	29	13	17	13	12	14	175
耳鼻咽喉科	2016	44	36	43	37	45	38	49	45	32	28	36	32	465
	2017	47	30	37	43	33	38	46	57	37	33	32	42	475
皮 膚 科	2016	2	1	2	1	2	2	0	4	2	2	1	2	21
	2017	1	2	1	2	0	0	3	1	0	0	0	2	12
小 児 科	2016	460	444	486	499	560	560	549	565	588	561	578	662	6,512
	2017	595	629	626	669	660	640	652	633	651	622	615	735	7,727
精 神 科	2016	657	558	640	634	626	626	621	582	623	575	552	626	7,320
	2017	565	592	442	297	334	286	334	309	311	301	295	309	4,375
麻 酔 科	2016	54	37	46	35	58	55	45	37	32	36	41	51	527
	2017	37	36	41	35	40	39	31	40	23	35	31	35	423
放射線科	2016	51	42	46	44	44	41	38	40	35	30	43	34	488
	2017	48	40	52	53	47	52	47	42	50	32	29	64	556
リハビリテーション科	2016	2	10	11	2	6	26	30	49	73	68	81	107	465
	2017	86	105	132	97	130	118	108	103	84	70	79	83	1,195
リウマチ・アレルギー科	2016	7	5	8	3	3	5	4	3	3	1	2	2	46
	2017	6	5	5	4	8	5	6	7	7	5	13	8	79

形成外科	2016	7	6	8	11	11	9	1	1	8	10	7	10	89
	2017	5	11	8	6	7	7	8	6	6	6	10	7	87
血管専門外来	2016	4	3	4	2	4	1	6	2	3	8	5	0	42
	2017	0	1	3	4	3	3	6	5	2	4	4	6	41
腎臓内科	2016	3	4	5	6	3	5	5	4	2	2	4	5	48
	2017	2	2	6	5	5	7	6	9	14	9	16	10	91
乳腺甲状腺外科	2016	188	174	209	184	187	163	188	186	171	174	202	193	2,219
	2017	169	146	180	190	191	151	195	177	168	159	160	203	2,089
泌尿器科	2016	34	21	30	27	21	20	30	34	38	31	34	29	349
	2017	25	28	28	19	18	27	26	27	34	22	20	19	293
内　　科	2016	52	24	83	53	46	94	33	11	8	9	26	7	446
	2017	36	7	5	13	40	18	35	23	26	20	44	22	289
一般外科	2016	2	6	7	1	11	3	11	10	7	14	25	25	122
	2017	21	19	9	22	13	11	6	5	20	16	7	3	152
救　　急	2016	0	0	0	0	0	0	124	156	260	186	153	210	1,089
	2017	151	152	239	131	189	78	174	195	108	247	249	280	2,193
合　　計	2016	4,336	4,096	4,403	4,374	4,493	4,444	4,457	4,377	4,770	4,896	4,499	4,785	53,930
	2017	4,272	4,537	4,535	4,437	4,640	4,392	4,544	4,252	4,606	4,866	4,513	4,868	54,462

救急車搬送患者記録

		年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
患者数（搬送台数）		2016	220名	216名	203名	182名	230名	224名	206名	227名	252名	317名	264名	300名	2841名
			217台	215台	201台	179台	227台	221台	202台	224台	246台	314台	259台	296台	2801台
		2017	225名	250名	204名	253名	222名	228名	266名	238名	247名	324名	242名	218名	2917名
			223台	245台	201台	250台	220台	224台	257台	235台	271台	321台	239台	217台	2903台
症度別	入　院	2016	96名	105名	90名	84名	95名	100名	99名	112名	132名	183名	162名	195名	1453名
			40%	39%	38%	37%	38%	42%	48%	47%	42%	47%	50%	49%	43%
	外　来		124名	111名	113名	98名	135名	124名	107名	115名	120名	134名	102名	105名	1388名
			61%	61%	62%	63%	62%	58%	53%	53%	58%	53%	50%	51%	57%
	入　院	2017	133名	149名	107名	139名	112名	129名	155名	132名	162名	174名	114名	130名	1636名
			59.1%	59.6%	52.5%	54.9%	50.5%	56.6%	58.3%	55.5%	65.6%	53.7%	47.1%	59.6%	56.1%
	外　来		92名	101名	97名	114名	110名	99名	111名	106名	112名	150名	128名	88名	1308名
			40.9%	40.4%	47.5%	45.1%	49.5%	43.4%	41.7%	44.5%	45.3%	46.3%	52.9%	40.4%	44.8%
診療科別	内科系	2016	137名	143名	128名	119名	159名	97名	72名	105名	119名	150名	122名	145名	1496名
			62.3%	66.2%	63.1%	65.4%	69.1%	43.3%	35.0%	46.3%	47.2%	47.3%	46.2%	48.3%	52.7%
	外科系		83名	73名	75名	63名	71名	76名	74名	57名	70名	90名	77名	82名	891名
			37.7%	33.8%	36.9%	34.6%	30.9%	33.9%	35.9%	25.1%	27.8%	28.4%	29.2%	27.3%	31.4%
	救急科							51名	60名	65名	63名	77名	65名	73名	454名
								22.8%	29.1%	28.6%	25.0%	24.3%	24.6%	24.3%	16.0%
	内科系	2017	114名	134名	107名	125名	107名	109名	121名	129名	137名	179名	144名	129名	1535名
			50.7%	53.6%	52.5%	49.4%	48.2%	47.8%	45.5%	54.2%	55.5%	55.2%	59.5%	59.2%	52.6%
	外科系		59名	75名	57名	79名	57名	76名	78名	65名	86名	98名	69名	60名	859名
			26.2%	30.0%	27.9%	31.2%	25.7%	33.3%	29.3%	27.3%	34.8%	30.2%	28.5%	27.5%	29.4%
	救急科		53名	41名	40名	49名	58名	43名	67名	44名	51名	47名	29名	29名	310名
			23.6%	16.4%	19.6%	19.4%	26.1%	18.9%	25.2%	18.5%	20.6%	14.5%	12.0%	13.3%	10.6%
交通事故		2016	21名	20名	26名	20名	25名	29名	27名	34名	15名	33名	25名	33名	308名
			15%	17%	13%	14%	14%	16%	14%	15%	13%	10%	13%	9%	13..4%
		2017	18名	25名	25名	25名	9名	30名	34名	21名	29名	22名	10名	13名	261名
			8.0%	10.0%	12.3%	9.9%	4.1%	13.2%	12.8%	8.8%	11.7%	6.8%	4.1%	6.0%	8.9%

ドクターヘリ搬送患者数

年　度	合　計
2016	17 名
2017	18 名

平均在院日数（一般病棟）

	年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平　均
循環器内科	2016	11.6	10.2	11.4	11.0	9.7	12.4	12.7	10.1	10.0	11.4	10.5	12.0	11.1
	2017	12.1	9.4	9.1	9.1	9.8	10.1	10.1	11.2	9.8	14.9	13.4	11.3	10.9
消化器内科	2016	13.1	13.2	15.8	15.6	14.5	16.4	18.4	15.8	13.0	14.4	15.4	14.0	15.0
	2017	16.0	13.8	17.1	14.5	15.7	14.3	14.2	14.1	11.8	14.8	15.9	12.8	14.6
血液内科	2016	25.0	20.4	19.3	21.2	20.9	21.6	22.0	22.9	18.6	21.8	22.8	20.1	21.4
	2017	19.5	22.1	20.5	20.7	24.9	18.7	20.0	18.4	17.0	19.5	20.7	26.1	20.7
神経内科	2016			2.0					8.0					5.0
	2017		12.0	5.0	8.0						24.7	4.0	34.0	14.6
代謝内科	2016	14.9	11.9	20.6	10.0	17.2	16.4	18.0	16.4	11.1	13.0	18.8	11.7	15.0
	2017	14.7	26.5	18.7	16.7	14.8	16.3	9.0	17.4	15.0	21.8	11.0	15.5	16.5
呼吸器内科	2016	11.0	23.2	18.0	10.6	15.2	16.1	16.4	16.0	16.5	22.7	24.4	21.0	17.6
	2017	19.9	20.1	21.8	16.6	16.8	17.2	16.9	20.4	19.7	29.6	21.1	21.9	20.2
消化器外科	2016	11.5	17.1	18.0	13.7	15.1	17.3	18.3	13.2	15.3	15.2	14.6	15.5	15.4
	2017	15.3	14.9	16.3	18.1	14.9	15.6	16.1	14.4	13.9	14.8	18.4	17.3	15.8
呼吸器外科	2016	7.7	11.1	17.7	11.9	13.5	11.5	15.4	11.5	12.2	13.2	13.0	18.6	13.1
	2017	14.3	17.2	11.5	14.0	10.2	13.2	11.7	11.5	10.5	10.6	10.2	10.2	12.1
心臓血管外科	2016	10.8	8.4	7.8	8.5	8.8	7.4	8.3	9.0	8.5	10.3	7.8	7.7	8.6
	2017	8.7	7.7	7.7	8.8	8.0	7.2	8.8	9.2	10.4	10.3	10.1	9.7	8.9
脳神経外科	2016	17.7	21.2	21.7	22.3	14.7	21.7	21.1	25.3	21.1	18.7	16.9	14.8	19.8
	2017	19.2	17.0	16.6	15.3	15.7	13.8	15.0	16.9	16.4	19.6	20.8	18.9	17.1
整形外科	2016	21.3	24.2	23.4	23.5	17.3	18.7	22.1	21.5	22.1	22.7	22.1	18.6	21.5
	2017	21.6	23.1	22.1	20.3	18.1	18.6	21.2	22.2	19.1	18.7	17.0	16.6	19.9
婦 人 科	2016	12.0	7.5	9.8	8.8	6.4	8.7	6.6	7.0	8.0	6.8	8.9	5.7	8.0
	2017	9.8	9.6	8.4	7.2	10.9	5.8	10.0	6.8	8.8	5.7	6.8	7.4	8.1
眼　　科	2016	1.0	1.0	1.4	2.5	1.2	1.2	2.3	1.2	1.2	1.3	1.4	1.8	1.5
	2017	1.4	1.2	1.4	1.9	1.2	2.3	1.9	1.8	1.5	1.2	0.9	1.9	1.6
耳鼻咽喉科	2016	5.2	7.5	6.8	9.5	9.9	7.3	5.6	5.7	4.8	4.7	5.9	5.9	6.6
	2017	7.2	4.8	8.5	7.6	4.6	5.0	4.8	7.5	7.2	7.2	5.8	6.4	6.4
皮 膚 科	2016							10.0	2.0					6.0
	2017													
合　　計	2016	14.7	15.0	15.5	14.9	14.0	15.5	16.4	15.0	14.0	15.6	14.8	14.0	15.0
	2017	14.9	14.5	14.6	14.4	14.3	13.4	14.1	14.7	13.3	15.7	15.7	14.9	14.5

※回復期リハ、療養病棟を除く

入院延べ患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2016	1,375	1,407	1,274	1,208	1,114	1,312	1,357	1,252	1,293	1,479	1,285	1,512	15,868
	2017	1,300	1,355	1,183	962	1,047	1,116	1,077	1,185	1,316	1,473	1,195	1,185	14,394
消化器内科	2016	1,259	1,487	1,498	1,724	1,647	1,758	1,796	1,521	1,364	1,747	1,785	1,874	19,460
	2017	1,576	1,538	1,511	1,437	1,619	1,617	1,615	1,600	1,451	1,517	1,522	1,672	18,675
血液内科	2016	1,639	1,719	1,602	1,460	1,559	1,586	1,665	1,680	1,616	1,849	1,598	1,958	19,931
	2017	1,752	1,965	2,018	2,123	1,956	1,690	1,916	1,776	1,612	1,915	1,611	1,824	22,158
神経内科	2016	113	128	167	135	109	67	73	68	94	108	82	90	1,234
	2017	64	111	129	164	206	122	66	53	37	69	78	83	1,182
代謝内科	2016	171	133	143	215	220	295	255	279	167	211	232	211	2,532
	2017	224	350	281	172	232	224	185	221	287	301	254	302	3,033
呼吸器内科	2016	369	411	415	300	365	343	367	385	381	620	643	628	5,227
	2017	736	869	797	650	626	596	664	652	760	1,034	714	670	8,768
消化器外科	2016	750	965	909	961	899	832	1,075	758	773	708	898	987	10,515
	2017	981	971	896	947	884	810	988	858	794	790	829	766	10,514
呼吸器外科	2016	182	346	289	305	331	283	237	266	299	189	225	279	3,231
	2017	315	341	280	279	251	358	361	380	306	307	179	178	3,535
心臓血管外科	2016	352	335	397	405	349	363	377	411	421	391	431	452	4,684
	2017	473	459	454	436	477	418	454	553	481	583	467	466	5,721
脳神経外科	2016	2,427	2,550	2,304	2,224	1,901	1,833	1,955	1,852	1,839	1,810	1,614	1,713	24,022
	2017	1,427	1,276	1,359	1,372	1,435	1,274	1,345	1,458	1,516	1,788	1,838	2,061	18,149
整形外科	2016	2,327	2,313	2,292	2,428	2,004	2,090	2,359	2,399	2,402	2,388	2,528	2,508	28,038
	2017	2,309	2,156	2,259	2,542	2,414	2,146	2,403	2,422	2,272	2,160	2,274	2,257	27,614
婦 人 科	2016	60	46	80	63	16	54	33	25	41	61	32	32	543
	2017	40	68	70	18	92	43	35	30	59	32	48	44	579
眼　　科	2016	41	46	40	49	29	38	42	48	28	38	40	79	518
	2017	37	52	50	61	28	61	60	67	58	68	41	62	645
耳鼻咽喉科	2016	61	93	110	99	163	136	137	104	87	61	132	146	1,329
	2017	147	114	191	151	101	142	129	126	180	156	91	112	1,640
皮 膚 科	2016	0	0	0	0	0	3	31	52	62	62	56	0	266
	2017	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	2016	0	0	49	199	356	599	548	647	747	696	619	724	5,184
	2017	648	645	485	510	552	648	779	679	625	495	411	457	6,934
泌尿器科	2016	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	2017	0	5	2	1	16	0	0	0	0	0	3	2	29
内　　科	2016	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	2017	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般外科	2016	0	44	43	95	27	56	31	42	111	241	184	179	1,053
	2017	170	270	208	277	172	264	269	250	392	550	412	277	3,511
救 急 科	2016	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	4	1	10
	2017	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　　計	2016	11,126	12,023	11,613	11,870	11,089	11,649	12,338	11,790	11,725	12,663	12,388	13,373	143,647
	2017	12,199	12,545	12,173	12,102	12,108	11,529	12,346	12,310	12,146	13,238	11,967	12,418	147,081

新入院患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2016	83	98	78	67	82	72	60	77	84	88	89	103	981
	2017	68	98	79	75	74	87	86	75	96	72	64	74	948
消化器内科	2016	77	101	88	99	105	95	73	83	83	126	98	102	1,130
	2017	81	88	88	84	99	91	100	95	94	92	82	97	1,091
血液内科	2016	49	68	72	54	67	70	63	59	62	83	59	81	787
	2017	69	82	82	78	63	67	83	74	72	93	66	56	885
神経内科	2016	0	1	2	1	1	1	0	1	0	0	0	1	8
	2017	0	3	2	3	2	0	2	3	1	1	2	0	19
代謝内科	2016	11	8	7	18	10	11	9	11	5	11	9	13	123
	2017	13	6	9	5	14	8	13	9	11	9	12	15	124
呼吸器内科	2016	23	15	19	21	21	16	24	19	17	21	15	21	232
	2017	25	31	16	28	23	25	19	24	23	21	12	18	265
消化器外科	2016	61	55	49	60	51	45	51	48	46	54	59	58	637
	2017	61	57	53	53	56	54	59	44	49	56	46	36	624
呼吸器外科	2016	15	17	14	19	23	18	14	21	23	10	16	16	206
	2017	19	17	17	18	23	24	20	21	13	21	16	20	229
心臓血管外科	2016	34	42	55	46	45	43	45	47	50	41	49	55	552
	2017	54	56	66	48	54	48	54	57	37	66	40	45	625
脳神経外科	2016	43	45	35	29	42	35	35	35	36	48	58	62	503
	2017	40	40	46	53	49	49	57	59	62	51	47	64	617
整形外科	2016	78	57	60	58	65	80	69	72	63	74	66	71	813
	2017	61	58	65	82	75	81	76	72	68	82	84	81	885
婦 人 科	2016	4	7	11	7	2	8	6	6	6	14	4	7	82
	2017	6	9	11	1	10	7	2	8	7	7	8	7	83
眼　　科	2016	25	28	20	21	18	21	19	25	19	18	23	26	263
	2017	24	25	25	29	15	24	27	26	20	29	21	28	293
耳鼻咽喉科	2016	9	13	14	10	17	15	25	17	16	14	22	24	196
	2017	20	21	23	17	14	21	23	17	18	19	13	16	222
皮 膚 科	2016	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	2017	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	2016	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	2017	0	2	1	1	4	0	0	0	0	0	3	2	13
リハビリテーション科	2016	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2017	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	5
内　　科	2016	1	3	6	1	1	1	0	0	0	0	0	0	13
	2017	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般外科	2016	0	1	3	3	2	2	6	9	10	16	18	25	95
	2017	22	22	17	22	14	17	10	18	21	21	8	3	195
救　　急	2016	0	0	0	0	0	0	4	4	6	9	5	4	32
	2017	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　　計	2016	513	559	533	514	552	534	503	535	526	627	590	669	6,655
	2017	563	616	600	597	589	603	633	603	592	640	524	563	7,123

手術件数（入院・外来）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	入院	24	27	27	16	17	28	30	24	27	22	25	20	287
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	入院	39	39	49	39	54	38	47	36	45	49	40	54	529
	外来	54	42	54	47	53	47	52	51	55	35	46	52	588
血液内科	入院	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	3	8
	外来	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
消化器外科	入院	49	37	42	36	37	40	36	36	25	34	33	27	432
	外来	4	7	5	10	9	7	11	10	10	11	8	6	98
呼吸器外科	入院	12	9	2	4	8	7	8	8	2	10	4	4	78
	外来	8	6	2	11	3	7	3	4	3	2	3	5	57
心臓血管外科	入院	35	29	46	32	43	28	34	44	34	36	37	35	433
	外来	6	8	12	11	6	9	10	7	11	8	7	7	102
脳神経外科	入院	14	13	22	32	13	10	21	21	17	19	19	17	218
	外来	3	5	2	1	2	2	1	5	6	5	0	7	39
整形外科	入院	60	55	68	66	73	72	57	71	64	69	80	75	810
	外来	7	11	3	11	16	12	8	11	25	15	9	15	143
婦 人 科	入院	6	6	14	0	6	5	1	7	5	5	5	6	66
	外来	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
眼　　科	入院	21	26	24	25	20	26	26	24	18	31	20	26	287
	外来	9	12	7	15	3	11	24	14	16	8	8	11	138
耳鼻咽喉科	入院	7	7	11	5	7	10	4	12	5	3	5	5	81
	外来	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	1	0	5
皮 膚 科	入院	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	外来	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
形成外科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	7	11	7	6	8	7	8	7	7	7	8	8	91
合　　計	入院	268	248	305	257	278	264	264	283	244	280	268	272	3231
	外来	98	103	95	115	101	103	118	110	133	91	90	111	1268

※手術室・血管造影室・内視鏡室・救急処置室で行ったもの全て

手術件数（入院のみ・時間帯別）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	日勤	21	27	27	15	14	26	27	23	24	18	24	20	266
	緊急	3	0	0	1	3	2	3	1	3	4	1	0	21
消化器内科	日勤	36	37	46	38	50	35	40	33	43	48	38	53	497
	緊急	3	2	3	1	4	3	7	3	2	1	2	1	32
血液内科	日勤	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	3	8
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器外科	日勤	44	36	41	35	37	39	34	35	22	32	33	26	414
	緊急	5	1	1	1	0	1	2	1	3	2	0	1	18
呼吸器外科	日勤	12	9	2	4	8	7	8	8	2	7	4	4	75
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
心臓血管外科	日勤	34	29	43	31	36	26	34	40	33	32	32	33	403
	緊急	1	0	3	1	7	2	0	4	1	4	5	2	30
脳神経外科	日勤	14	10	20	23	13	10	17	15	14	15	17	9	177
	緊急	0	3	2	9	0	0	4	6	3	4	2	8	41
整形外科	日勤	58	52	67	66	69	65	56	70	60	65	79	73	780
	緊急	2	3	1	0	4	7	1	1	4	4	1	2	30
婦 人 科	日勤	6	6	14	0	6	5	1	7	5	5	5	6	66
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼　　科	日勤	21	26	24	25	20	26	26	24	18	31	20	26	287
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	日勤	7	7	11	5	7	10	4	11	5	3	5	5	80
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
皮 膚 科	日勤	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形成外科	日勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　　計	日勤	254	239	295	244	260	249	247	266	228	258	257	258	3055
	緊急	14	9	10	13	18	15	17	17	16	22	11	14	176

病床利用率

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般病棟	2016	83.2%	87.7%	87.3%	87.1%	80.1%	82.4%	82.4%	81.2%	78.6%	85.6%	96.9%	94.8%
	2017	87.0%	87.9%	86.8%	83.1%	84.3%	82.9%	85.0%	88.5%	82.8%	89.1%	90.3%	84.5%
特定集中	2016	87.1%	78.6%	84.6%	74.2%	71.0%	52.1%	72.2%	76.7%	73.4%	89.5%	81.3%	88.3%
	2017	87.5%	77.0%	85.4%	67.3%	52.4%	57.1%	65.7%	77.9%	71.0%	75.0%	82.1%	71.8%
回復期リハ	2016	97.3%	93.6%	94.0%	92.7%	88.5%	89.9%	94.2%	93.8%	95.5%	95.2%	97.7%	94.0%
	2017	96.8%	92.7%	95.5%	93.9%	96.0%	89.9%	96.3%	97.2%	97.2%	96.3%	97.9%	93.2%
地域包括ケア	2016	－	－	－	－	－	－	－	－	－	86.8%	87.0%	87.2%
	2017	78.8%	76.6%	80.4%	72.8%	70.9%	70.1%	75.7%	78.0%	80.5%	96.8%	90.9%	79.9%
療養病棟	2016	77.4%	84.0%	82.6%	82.8%	78.9%	85.3%	90.5%	88.5%	85.1%	88.7%	93.1%	92.2%
	2017	90.1%	86.8%	89.1%	91.7%	85.3%	88.9%	90.3%	89.2%	88.9%	95.3%	97.0%	96.1%
合　　計	2016	86.1%	85.9%	88.0%	88.3%	84.2%	78.4%	81.7%	87.0%	87.1%	81.7%	81.7%	86.4%
	2017	87.6%	87.2%	87.3%	84.1%	84.3%	83.0%	85.9%	88.4%	84.7%	91.3%	91.9%	86.2%

主な指導料・管理料

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
救急医療管理加算1	592	826	810	813	793	718	759	680	699	649	529	508	698
救急医療管理加算2（その他）	375	516	408	332	376	338	312	629	667	611	440	345	446
夜間休日緊急搬送医学管理料	85	104	79	88	79	84	96	113	107	145	121	97	100
特定集中治療室管理料3（7日以内）	123	123	112	118	103	110	127	135	150	152	123	139	126
特定集中治療室管理料3（14日以内）	24	8	41	20	14	23	18	25	21	21	20	19	21
麻酔管理料1（閉鎖循環式全身麻酔）	124	97	128	108	125	109	117	105	79	97	116	100	109
麻酔管理料1（脊椎麻酔）（硬膜外麻酔）	2	4	2	1	2	6	0	0	1	1	2	3	2
病理組織標本作製	296	314	358	374	380	326	290	341	319	322	326	334	332
画像診断管理加算1（単純撮影）	796	857	822	884	865	871	932	859	863	940	828	826	862
画像診断管理加算2（CT，MRI）	878	938	946	936	970	984	974	902	991	951	892	970	944
外来化学療法加算2（ベルケイド含む）	63	93	94	95	88	87	83	76	75	83	85	92	85
外来栄養食事指導料　初回・2回目	0	0	0	0	34	40	47	52	75	66	70	71	38
入院栄養食事指導料1　初回・2回目	66	84	65	70	80	50	82	120	98	87	111	112	85
集団栄養食事指導料	6	4	3	3	1	8	2	5	6	0	0	2	3
薬剤管理指導料　※1・2含む	788	845	872	807	904	820	934	863	866	775	733	716	827
退院時薬剤情報管理指導料	180	180	196	168	199	197	202	195	213	173	183	203	191
薬剤情報提供料	281	303	238	335	319	338	316	280	349	582	417	302	338
無菌治療室管理加算	165	143	104	142	192	194	204	167	127	138	185	225	166
無菌製剤処理料1	234	217	221	252	215	201	201	233	192	201	210	210	216
無菌製剤処理料2	282	256	250	231	163	133	140	144	136	150	197	163	187
リハビリ総合計画評価料	605	586	576	591	597	543	571	599	611	610	614	637	595
退院時リハビリテーション指導料	147	146	152	164	181	172	176	168	187	135	173	177	165
在宅患者訪問リハビリ指導料	21	18	17	19	19	18	19	28	31	20	27	27	22
医療機器安全管理料	25	20	24	16	20	20	20	24	27	35	35	27	24
初診料	463	533	438	505	503	470	446	493	611	832	549	466	526
選定療養費（初診）※自費 2,160円	177	238	164	208	214	189	152	181	282	462	244	167	223
診療情報提供料（Ⅰ）	448	435	373	250	285	241	219	250	278	223	230	272	292
診療情報提供料（Ⅱ）	0	0	0	1	2	1	1	0	1	2	0	0	1
退院前訪問指導料	28	29	25	30	42	30	38	36	27	16	30	30	30
在宅療養指導料	0	0	1	2	1	1	1	1	1	0	2	2	1
在宅患者訪問診療料	0	0	0	0	0	0	2	2	0	5	1	3	1
訪問看護指示料	5	2	4	2	7	3	5	9	4	1	6	7	5
在宅自己注射指導管理料	25	15	26	19	25	23	20	25	28	23	26	28	24
在宅人工呼吸、酸素療法、持続陽圧呼吸療法指導管理料	0	0	0	7	8	2	6	7	2	4	11	11	5
在宅寝たきり患者処置指導管理料	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1
悪性腫瘍特異物質治療管理料	128	148	145	156	133	148	142	148	133	150	141	128	142
特定薬剤治療管理料	39	25	29	20	22	29	27	37	45	27	46	44	33
特定薬剤治療管理料（4箇月目移行）	7	7	11	10	4	7	6	4	6	3	0	1	6
特定薬剤治療管理加算（臓器移植）	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
特定薬剤治療管理加算（臓器移植以外）	16	27	14	13	12	11	14	20	13	4	9	3	13
肺血栓塞栓症予防管理料	104	87	111	101	101	103	106	105	82	93	106	88	99
褥瘡評価実施加算（療養病棟）	946	902	863	934	913	836	793	822	838	935	794	685	855
介護支援連携指導料	5	8	4	3	15	17	17	19	12	5	14	8	11
栄養サポートチーム加算	26	42	33	41	18	23	34	30	30	15	35	41	31
退院支援加算1 イ 一般病棟	96	90	100	91	101	96	109	108	109	88	93	83	97
退院支援加算1 ロ 療養病棟	2	3	1	1	0	6	4	2	3	5	1	1	2
救急・在宅等支援療養病床初期加算	135	109	211	133	105	142	228	499	757	552	494	508	323

地域がん登録部位別件数

部位名	第１段階　ICD-O-2　形態コード	第２段階　ICD-O-3　形態コード	件数
口腔・咽頭		C00-14	0
食道		C15	6
胃		C16	76
小腸		C17	5
結腸		C18	73
直腸		C19	29
肝臓		C22	12
胆嚢・胆管		C23-24	10
膵臓		C25	17
喉頭		C32	1
肺		C33-34	52
骨・軟部			0
皮膚（黒色腫含む）		C44	0
乳房		C50	5
子宮頚部		C53	0
子宮体部		C54	0
子宮		C55	1
卵巣		C56	1
前立腺		C61	0
膀胱		C67	0
腎・他の尿路		C67,C64-66,C68	1
脳・中枢神経系		C700,C71,C722-C729,C751-753	0
甲状腺		C73	0
悪性リンパ腫	959-972/974-975	リンパ腫	31
多発性骨髄腫	973,976	骨髄腫	16
白血病	980-994	白血病	10
他の造血器腫瘍	995-998	造血器腫瘍	15
その他（原発不明）		その他	4
			365

院内・院外　研修・講演会一覧

医局（内科カンファレンス）

内　　容	発　表　者	場　　所	年　月　日	参加者数
急激に進行した粟粒結核の症例	黒江崇史	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.4.19	21
骨髄癌腫瘍症で小細胞癌マーカー高値であった症例	石川陽子			
症例報告「心臓カテーテルアブレーション治療後に剥離性食道炎をきたした１例」	山野晃生	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.5.10	18
症例報告「肝動脈造影中に冠攣縮の経過を観察した冠攣縮性狭心症の一例」	横山昌平	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.5.17	17
抄読会「TP53 and Decitabine in Acute Myeloid Leukemia and Myelodysplastic Syndromes」	前川翔太			
症例報告「11年間無治療の２型糖尿病により高度の自律神経障害を合併した１例」	九原利京	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.5.31	14
抄読会「Empagliflozin and Cerebrovascular Events in Patients With Type 2 Diabetes Mellitus at High Cardiovascular Risk」	埴原弘直			
症例報告「突然の心窩部痛で発症し急性腹症と考えられた一例」	伊藤嘉美	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.6.14	17
抄読会「Teprotumumab for Thyroid-Associated Ophthalmopathy」	大西真悠子			
救急症例検討会「めまいを主訴に救急要請された一例」	角田健太	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.6.21	12
放射線科 レクチャー「茨城県シミュレーショントレーニング巡回器機」	鯨岡結賀	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.6.28	12
予演会「著明な好酸球増多を呈した肺細胞癌の剖検例」	ヘアリチュケ・マティーナ綺香			
死亡症例検討会「退院サマリーによる」	佐藤祐二	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.7.5	14
循環器内科レクチャー「大動脈弁留置術（TAVI）勉強会」	榎本強志	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.7.12	19
症例報告「急性膵炎後5年の経過で発症した膵仮性動脈瘤の1例」	埴原弘直	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.7.26	13
抄読会「Childhood Adiposity, Adult Adiposity, and Cardiovascular Risk Factors」	角田健太			
第３５回　CPC「AMLに対するアザチジンでびまん性肺胞出血をきたした一例」	粕谷英暢	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.9.6	17
脳悪性リンパ腫に巨大子宮腫瘍を合併した症例	ヘアリチュケ・マティーナ綺香			
症例報告「冠攣縮性狭心症の診断後２ヶ月の経過で発症した急性心筋梗塞の一例」	前川翔太	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.9.13	19
抄読会「経肛門的バルーンアシスト内視鏡で診断し、緊急手術で救命したメッケル憩室出血の一例」	久原利京			
救急症例検討会「イレウス疑いで救急搬送された一例」	加藤佑介	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.9.27	15
意識障害にて搬送された一例	ヘアリチュケ・マティーナ綺香			
死亡症例報告「退院サマリーによる」	添田敦子	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.10.4	12
退院サマリーによる	榎本強志			
退院サマリーによる	一色雄裕			
血液内科レクチャー「高齢者の薬物誤嚥について」	佐藤祐二	筑波記念病院 S棟２階大会議室	2017.10.11	15

症例報告「急性胆嚢炎」	張本　亮	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.10.25	16
抄読会「Effect of Intensive Blood-Pressure Treatment on Patient-Reported Outcomes」	佐々木憲人			
症例報告「多量な血栓を伴う右冠動脈を責任病変とした急性心筋梗塞症例」	髙久瑠璃子	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.11.1	19
CPC（研修医 1 年目）「急性骨髄性白血病（M4）の治療中に脳出血を来した一例」	大西真悠子	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.11.8	20
腰痛を主訴に受診し経過観察目的一日で死亡した一例	髙久瑠璃子			
症例報告「トルバプタンが著効したネフローゼ症候群による難治性浮腫の一例」	加藤佑介	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.11.15	19
症例報告「長い間インスリン自己注射を拒否し入院後インスリン導入した一例」	粕谷英暢	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.11.29	18
抄読会「Bezlotoxumab for Prevention of Recurrent Clostridium difficile Infection」	髙久瑠璃子			
代謝内科レクチャー「糖尿病について」	藤原　淳	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.12.6	15
CPC「症例側発表：左大量血胸により来院 3 時間後に死亡した神経線維腫 1 型の症例」	角田健太	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.12.13	15
病理側発表：左血胸を来した髄膜瘤合併神経線維腫症 1 型、右乳癌術後の症例	佐々木憲人			
生存中に組織型の推定が困難であった胆道悪性腫瘍の症例	加藤佑介			
症例報告「1gG4 関連硬化性胆管炎の経過中に非閉塞性腸間膜虚血を発症した一例」	ヘアリチュケ・マティーナ綺香	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.12.20	9
抄読会「Outcomes of Patients With Double-Hit Lymphoma Who Achieve First Complete Remission」	張本　亮			
救急症例検討会「頭痛・めまい・気分不快を主訴に救急外来を受診した一例」	大西真悠子	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2017.12.27	14
救急症例検討会「転倒により鈍的腎損傷を来した 1 例」	久原利京			
死亡症例検討会「退院サマリーによる」	血液内科　佐藤祐二	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2018.1.10	13
消化器レクチャー「炎症性腸疾患」	池澤和人	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2018.1.17	19
症例報告「再発悪性リンパ腫に対し自家移植を行った症例」	角田健太	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2018.1.31	16
抄読会「Primary care-led weigh t management for remission of type2 diabetes(DiRECT):an open-label,cluster-randomised trial」	ヘアリチュケ・マティーナ綺香			
内科カンファレクチャー「肺結核の診断」	大塚盛男	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2018.2.7	19
症例報告「超高齢で発症した急性心筋梗塞に対して PCI を施行した一例」	大西真悠子	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2018.2.14	18
症例報告「急性骨髄性白血病再発に対する造血幹細胞移植の検討」	佐々木憲人	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2018.2.28	14
抄読会「CD55 Deficiency, Early-Onset Protein-Losing Enteropathy, and Thrombosis」	加藤佑介			
症例報告「体液管理に難渋した連合弁膜症、肥大型心筋症を背景にもつ慢性心不全急性増悪の一例」	太　拓也	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2018.3.7	18
抄読会「Effect of azithromycin on asthma exacerbations and quality of life in adults with peristent uncontrolled asthma(AMAZES):a randomised,double-blind,placebo-controlled trial」	飯島麻里絵			

第２回　筑波記念病院研修医学術集会「低血糖発作を繰り返しインスリノーマと診断した一例」	張本　亮	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2018.3.10	22
頭痛・嘔吐を主訴に救急搬送された慢性硬膜下血腫と診断された 19 歳女性	髙久瑠璃子			
階段で転倒し顔面打撲を主訴に独歩で来院した一例	加藤佑介			
原発性副甲状腺機能亢進症と診断した一例	ヘアリチュケ・マティーナ綺香			
スタンチン服用中で、重労働後に発症した横紋筋融解症の一例	角田健太			
ステロイド治療が著効した高齢発症の顕微鏡的多発性血管炎の一例	大西真悠子			
内頸動脈中心静脈カテーテル挿入時にループを形成した二例	佐々木憲人			
救急症例検討会「88 歳　男性　腰痛」	張本　亮	筑波記念病院 S 棟 2 階大会議室	2018.3.14	17
明らかな外傷歴のない椎体骨折の一例	髙久瑠璃子			

看護部

部署	氏　名	研　修　名	研　修　日	場　所	主　催　者
ICU	秋葉　優花	フィジカルアセスメント研修	H29.10.21	古河	友愛記念病院（高橋眞人）
	廣瀬麻吏恵	フィジカルアセスメント研修	H29.10.21	古河	友愛記念病院（高橋眞人）
	和泉田理会	ハート先生の心電図	H29.4.17	東京	
		BLS　プロバイダーコース	H29.6.24	水戸	
		脳神経看護	H29.7.9	東京	
	岩淵　愛恵	「健やかに生き抜き、穏やかな終末期を迎えるために」	H29.12.9	つくば	日本尊厳死協会（平野国美）
		エキスパートナース看護セミナー 2018　褥瘡･創傷セミナー	H30.1.14	東京	照林社
		脳神経看護	H29.7.9	東京	
		フィジカルアセスメント研修	H29.10.21	古河	友愛記念病院（高橋眞人）
	有川　彩香	脳神経看護	H29.7.9	東京	
		呼吸器		東京	
		BLS プロバイダー	H29.10.8	茨城	日本 ACLS 協会
		フィジカルアセスメント研修	H29.10.21	古河	友愛記念病院（高橋眞人）
	大森　秀輔	BLS プロバイダー	H29.10.8	茨城	日本 ACLS 協会
		ACLS プロバイダー	H29.7.29､7.30	つくば	日本 ACLS 協会
		ISLS コース	H29.10.10	千葉市	日本救急医学会
		フィジカルアセスメント研修	H29.10.21	古河	友愛記念病院（高橋眞人）
		モニター講習会　ベーシックコース	H29.11.16	つくば	
		第 11 回東京呼吸療法セミナー	H29.12.3	池袋	東京臨床工学技士会
		ISLS スキルアップ研修勉強会	H30.1.31	千葉	千葉救急医療センター
		麻酔科医が教える！術後全身管理 10 の要点	H30.3.17	東京	
	飯田　孝子	第 44 回日本呼吸器療法医学会	H29.5.27	神戸	日本呼吸器療法医学会
	飯泉　優子	検査値・パニック値はこれだ	H29.6.21	東京	メディカ出版
		感染対策セミナー	H29.9.1	東京	日本感染管理支援協会
	國府田宏美	救急・ICU における患者・家族ケア	H29.12.2	東京	メディカ出版
		「終末期ケア」～自然のみとり　川上嘉明	H30.1.13	つくば	県看護連盟
	吉田　　聖	特定行為にかかる研修	H29.4～	つくば	筑波大学病院
	川崎　　歩	皮膚排泄ケア	H29.5.31～8.29	水戸	県看護協会
		プラクティカル看護セミナー　補助循環と血液浄化法	H29.6.24	東京	医学教育研究所
		「健やかに生き抜き、穏やかな終末期を迎えるために」	H29.12.9	つくば	日本尊厳死協会（平野国美）
		エキスパートナース看護セミナー 2018 褥瘡・創傷セミナー	H30.1.14	東京	照林社（真田弘美）

ICU	近藤　千恵	2017 感染対策セミナー	H29.9.1	御茶ノ水	日本感染管理支援協会
	宮内　友香	心臓血管外科	H29.6.3	東京	医学教育研究所
		補助循環と血液浄化法	H29.6.24	東京	医学教育研究所
	横倉　宏美	看護学生実習指導者講習会フォローアップ研修	H29.5.20	埼玉	AMG キャリアサポートセンター
	荒木　雅之	「検体採取から始まる感染症治療、感染管理」	H29.5.19	つくば	筑波大学病院
		第6回 BDセミナー 抹消輸液管理に潜む5つの患者リスク	H29.8.26	東京	(株)日本ベクトン・ディッキンソン
		2017 感染対策セミナー	H29.9.1	御茶ノ水	日本感染管理支援協会
		第 5 回つくばハートカンファレンス	H29.10.20	つくば	Medtronic
		平成 29 年度院内感染対策講習会	H30.2.27、2.28	東京	一般社団法人日本感染症学会
	吉葉　瑛子	救急看護学会災害看護初期対応セミナー	H29.5.13	千葉	救急看護学会
		AMAT 研修	H29.6.24	東京	全日本病院協会
		PUSH 認定インストラクター取得	H29.6.25	東京	大阪ライフサポート協会
		PUSH 指導者養成講習	H29.7.6、7.7	記念病院	筑波記念病院
		DPAT 研修（DPAT 隊員取得）	H29.8.5、8.6	水戸	DPAT 事務局
		災害初期対応セミナー	H29.9.2、9.3	福島	日本救急看護学会
		BHELP 研修	H29.9.24	横浜	
		PUSH コース（ダイワハウス）	H29.10.12	つくば	筑波記念病院
		PUSH 指導者講習会	H30.1.27、1.28	つくば	大阪ライフサポート協会
		AMAT 研修	H30.2.18	つくば	全日本病院協会
	友常　哉子	看護研究	H29.7.29	横浜	メディカ出版
	加賀谷結花	救急看護	H29.8.30～ H30.1.11	水戸	県看護協会
		ナース・救急隊員のための心電図セミナー「基礎不整脈」	H29.10.30	水戸	メディカルシステム研究所
		〃　　「虚血・電解質コース」	H29.12.22	東京	〃
		ICLS 第 23 回つくば常総 ICLS コース	H29.8.6	つくば	つくば常総地区 MC 協議会
	渡部　亮介	第 13 回クリティカルケア看護学会学術集会	H29.6.10、6.11	仙台	
		フィジカルアセスメント研修	H29.9.30	古河	友愛記念病院
総合外来	大信田　孝	自己血輸血研修会	H29.10.7	埼玉	埼玉県自己血輸血研修会
		自己血輸血医師看護師制度認定試験	H29.10.20、10.21	東京	自己血輸血医師看護師制度協議会
		第 4 回輸血関連認定看護師養成部会研修	H29.11.25	笠間	県輸血関連認定看護師養成部会
		日本自己血輸血学会教育セミナー	H29.12.9	東京	日本自己血輸血学会
	島田　美沙	自己血輸血研修会	H29.10.7	埼玉	埼玉県自己血輸血研修会
		自己血輸血医師看護師制度認定試験	H29.10.20、10.21	東京	自己血輸血医師看護師制度協議会
内視鏡センター	長戸　正子	県消化器内視鏡技師会	H29.11.5	つくば	県消化器内視鏡技師会
	神馬　美姫	大腸内視鏡検査前処置不良対策セミナー	H29.6.6	つくば	EA ファーマ
		消化器内視鏡技術研究会	H29.8.6	船橋	千葉県消化器内視鏡技師会
		県消化器内視鏡技師会	H29.11.5	つくば	県消化器内視鏡技師会
		第 93 回日本消化器内視鏡学会	H29.5.13	大阪	
	田崎　美佳	市民公開講座@つくば「がんを語る」「消化器のがん」	H29.5.21	つくば	筑波記念病院
		大腸内視鏡検査前処置不良対策セミナー	H29.6.6	つくば	EA ファーマ
	沼崎　栄子	大腸内視鏡検査前処置不良対策セミナー	H29.6.6	つくば	EA ファーマ
		県消化器内視鏡技師会	H29.11.5	つくば	県消化器内視鏡技師会
	海老原幸恵	消化器内視鏡技術研究会	H29.8.6	船橋	千葉県消化器内視鏡技師会
		県消化器内視鏡技師会	H29.11.5	つくば	県消化器内視鏡技師会
		第 18 回日本医療マネジメント学会県支部学術集会	H29.9.16		
	中川　麻理	市民公開講座@つくば「がんを語る」「消化器のがん」	H29.5.21	つくば	筑波記念病院
		健やかに生き抜き穏やかな終末期を迎える為に	H29.12.9	つくば	日本尊厳死協会関東甲信越支部
		県消化器内視鏡技師会	H29.11.5	つくば	県消化器内視鏡技師会

手術室	橋本　由加	第３回県手術看護勉強会「手術体位」	H29.7.1	茨城	県手術看護認定看護師会
	河野　尚子	心臓カテーテルのすべて	H29.7.30	東京	医学教育研究所
		基礎を応用したフィジカルアセスメント	H29.9.30	古河	友愛記念病院
	大熊かおり	県実習指導者講習会	H29.7.19～10.20	水戸	県看護協会
		基礎を応用したフィジカルアセスメント	H29.9.30	古河	友愛記念病院
	小口さやか	感染看護（上級編）	H29.5.30、6.15	水戸	県看護協会
		心臓血管外科手術の看護のポイント	H29.9.10	東京	日総研
		血液ガスがわかるセミナー	H29	東京	メディカ出版
		日本手術医学会	H29.10.6、10.7	東京	
	塚本絵莉香	看護記録疑問解決コーナー	H29.9.3	東京	エキスパートナース
	相賀　理衣	看護研究（基礎編）	H29.5.22、5.25	水戸	県看護協会
	長谷川　恵	看護研究（基礎編）	H29.5.22、5.25	水戸	県看護協会
		心臓カテーテルのすべて	H29.7.30	東京	医学教育研究所
	細田　隆文	教育担当者の役割・教育に関する知識 新人の成長を支援できる提案集の作成ーポートフォリオを活用	H29.6.20～6.27	水戸	県看護協会
		大動脈弁置換術（TAVI）勉強会	H29.7.12	つくば	（株）エドワースライフサイエンス
		オリンパス故障実績と機器取り扱いについて	H29.5.18	〃	オリンパス
		デブリッター勉強会	H29.6.1	〃	双葉
		ビデオスコープの故障予防法	H29.6.1	〃	オリンパス
	赤城　寛子	心臓カテーテルのすべて	H29.7.30	東京	医学教育研究所
		BLS	H29.7.2	稲敷	稲敷消防
		ICLS	H29	つくば	つくば常総地区 MC 協議会
	藤沼　里佳	救急看護	H29.8.30～12.8	水戸	県看護協会
		つくば、常総 ICLS コース	H29.8.6	常総	つくば常総地区 MC 協議会
		稲敷消防 BLS コース	H29.7.2	牛久	稲敷消防
		つくば、常総 ICLS アシスタント	H29	つくば	
	加藤　沙季	術前看護を術中に活かそう	H30.2.19		
	関　　悠夏	滅菌業務研究会	H30.2.18	茨城	
	高橋　愛美	術前看護を術中に活かそう	H30.2.19		
		第３回県手術看護勉強会「手術体位」	H29.7.1	茨城	県手術看護認定看護師会
救急外来	古澤　則子	看護管理ワークショップ「学ぶ組織の作り方」	H29.5.18	つくば	県看護連盟（浅香えみ子）
	田口　京子	ICLS　アシスタントインストラクターとして参加	H29.6.17	筑波大学	
		PUSH 認定インストラクター評価コース	H29.6.24	東京	大阪ライフサポート協会
		越谷 ICLS インストラクター研修	H29.7.26	越谷	CATS
		ICLS　アシスタントインストラクターとして参加	H29.10.28	筑波大学	筑波大学附属病院（下條 Dr.）
		ICLS　アシスタントインストラクターとして参加	H29.11.3	記念病院	
		PUSH インストラクターとして大曽根小学校	H29.12.7	つくば	
		PUSH インストラクターとして上郷小学校	H29.12.15	つくば	
		ICLS　アシスタントインストラクターとして参加	H30.2.18	取手	
	櫻井江利子	救急看護学会災害看護初期対応セミナー	H29.5.13	千葉	救急看護学会
		ICLS インストラクターとして参加	H29.6.17	筑波大学	筑波大学附属病院（下條 Dr.）
		PUSH 指導者養成講習	H29.7.6、7.7	記念病院	筑波記念病院
		きぬ外傷セミナー	H29.7.22	つくば	つくば常総 MC コントロール
		ICLS ／外傷	H29.10.1	牛久／阿見	霞ヶ浦 MC（小山・青木 Dr.）
		ICLS　アシスタントインストラクターとして参加	H29.10.28	筑波大学	筑波大学附属病院（下條 Dr.）
		ICLS　アシスタントインストラクターとして参加	H29.11.3	つくば	つくば常総 MC コントロール
		JSEPTIC 看護部会セミナー	H2911.12	東京	JSEPTIC 看護部会
		ICLS　アシスタントインストラクターとして参加	H30.3.3	つくば	

救急外来	櫻井江利子	ICLS　アシスタントインストラクターとして参加	H30.3.4	つくば	つくば常総 MC コントロール
		ICLS　アシスタントインストラクターとして参加	H30.3.24	土浦	土浦 MC
	岡野　麻由	PUSH 指導者講習会	H29.7.6、7.7		
		JPTEC プロバイダー	H29.7.22		
		ICLS 指導者ワークショップ	H29.7.26		
	大西沙弥香	傾聴講座体験	H29.8.27	柏	産業カウンセラー協会
		PUSH 指導者講習会	H29.10.14、10.15	東京	大阪ライフサポート協会
		「看護っておもしろい」連盟研修	H29.11.4	水戸	県看護連盟
		JPTEC（ミニ）	H29.8	つくば	
1号棟2階	鏑木　優希	「防ぎえた死」をなくすための救急初期対応　sideC	H29.10.15	東京	メディカ出版
		ICLS コース	H29.11.3	つくば	つくば常総メディカルコントロール
	高野　佑香	急性期術後の呼吸器ケア	H29.6.24	東京	メディカ出版
		「看護っておもしろい!ナイチンゲールの名言の数々」	H29.11.4	東京	県看護連盟
	萩谷　久枝	「ちょっと変な人？と思う学生の対応法」	H29.12.3	土浦	県看護教員連絡会
		平成 30 年度診療報酬改定の概要　石田まさひろ議員	H29.3.10	水戸	県看護連盟
	大和田道代	看護研究（基礎編）～初めてみよう看護研究～	H29.5.22～5.25	水戸	県看護協会（山口幸恵）
		看護研究（上級編）～看護研究を指導するために～	H29.11.6、11.7	水戸	県看護協会（大柴幸子）
		「ちょっと変な人？と思う学生の対応法」	H29.12.3	土浦	県看護教員連絡会
	山本　清夏	茨城県緩和ケア研修会	H29.2.10、2.11		
		感染看護初級編	H29.9.21、10.26	水戸	県看護協会
	長谷　知佳	感染看護初級編	H29.9.21、10.26	水戸	県看護協会
	谷貝　直美	感染管理／サーベイランス　洗浄・消導・滅菌	H29.5.30	水戸	県看護協会
		アウトブレイク時の対応／教育　健康管理	H29.6.15	水戸	県看護協会
	飯岡まり子	重症度、医療看護必要度評価者院内指導者研修	H29.6.18	東京	
		「終末期ケア」～自然のみとり　川上嘉明	H30.1.13	つくば	県看護連盟
2号棟3階	藤田　羊子	心臓血管外科パーフェクトケア	H29.6.3	東京	医学教育研究所
		補助循環と血液浄化法	H29.6.24	東京	医学教育研究所
		「終末期ケア」～自然のみとり　川上嘉明	H30.1.13	つくば	県看護連盟
	根本　千秋	救急隊員のための心電図セミナー「不整脈、虚血、.....」	H29.5.25、5.26	茨城	メディカルシステム研修
		PCI の看護	H29.6	御茶ノ水	
	小張　広樹	救急看護研修	H29.8.30～H30.1.11	水戸	県看護協会
	星野　仁美	褥瘡セミナー	H29.11.19	牛久	牛久愛和総合病院
	石川　真希	救急隊員のための心電図セミナー「不整脈、虚血、.....」	H29.5.25、5.26	茨城	メディカルシステム研修
	徳瀬　千穂	心臓血管外科パーフェクトケア	H29.6.3	東京	医学教育研究所
		心臓カテーテルのすべて	H29.7.30	東京	医学教育研究所
	寺田　　綾	PUSH 指導者養成講習	H29.7.6、7.7	記念病院	茨城 PUSH 事務局
	塚原　みき	救急隊員のための心電図セミナー「不整脈、虚血、.....」	H29.5.25、5.26	茨城	メディカルシステム研修
			H29.6	東京	
		心不全患者の緩和ケア、意志決定支援、家族ケア	H29.7.15	東京	高田弥寿子
		モニター・12 誘導心電図	H29.12.2	東京	渡辺重行
	中山　恵美	実習指導者講習会	H29.7.19～10.20	水戸	県看護協会
	杉山　晴子	人工呼吸器管理	H29.8.9	東京	
	宮川　明子	看護学生指導者講習会フォローアップ	H29.5.20	埼玉	
		看護研究（基礎編）初めてみよう看護研究	H29.5.22～5.25	水戸	（山口幸恵）
		循環器五大疾患の看護と術後患者へのケア	H29.6.11	東京	（平野国美・弓野大）
		在宅死のススメ（応用編）	H29.10		
	國井知恵子	ICLS コース	H29.11.3	茨城	

S棟3階東	飯島　果穂	末期癌患者へのスピリチュアルケアと家族ケアのポイント	H29.8.5	東京	メディカ出版（沼野尚美）
		ストーマ研修	H29.9.3	牛久	（相澤春梨）
		ストーマ研修	H29.10.1	牛久	（相澤春梨）
		がん医療における精神症状の早期発見と対応について	H29.12.4	霞ヶ浦	土浦医師会・県薬剤師会
		緩和ケアの最近の動向（輸液・栄養管理を含めて）	H29.12.9	つくば	（木澤義之）
		ダンザック　シンプルケアセミナー	H29.12.16	水戸	（大山瞳）
	大山　雄也	ダンザック　シンプルケアセミナー	H29.12.16	水戸	（大山瞳）
	大和田千夏	ダンザック　シンプルケアセミナー	H29.12.16	水戸	（大山瞳）
	坂口　秋恵	ストーマ研修	H29.9.3	牛久	（相澤春梨）
		ストーマ研修	H29.10.1	牛久	（相澤春梨）
		ダンザック　シンプルケアセミナー	H29.12.16	水戸	（大山瞳）
	関　　夏妙	ダンザック　シンプルケアセミナー	H29.12.16	水戸	（大山瞳）
	芹川　夕未	末期癌患者へのスピリチュアルケアと家族ケアのポイント	H29.8.5	東京	メディカ出版（沼野尚美）
	永田　好恵	（人工呼吸器）苦手克服セミナー	H30.1.13	東京	メディカ出版（塩見一成）
	三田寺里絵子	（人工呼吸器）苦手克服セミナー	H30.1.13	東京	メディカ出版（塩見一成）
	飯竹沙友里	ストーマ勉強会　事例検討会	H29.10.22	牛久	（牛久愛和 WOC）
	小祝　美紀	日本看護連盟総会	H29.6.15	東京	日本看護連盟
		ストーマ勉強会	H29.9.1	茨城	ホリスター
	小林　千恵	ストーマ勉強会	H29.9.1	茨城	ホリスター
		診療介護報酬同時改定を見据えた看護必要度ステップアップ研修	H29.11.5	東京	マネジメント学会
		診療報酬制度改定と今後の看護対策	H30.3.10	水戸	茨城県看護連盟
	人見　真紀	退院支援養成研修会	H29.5.30～6.9	水戸	茨城県看護協会
	久松　　瞳	ストーマ勉強会	H29.9.1	茨城	ホリスター
	桂木　菊江	ストーマ勉強会	H29.9.1	茨城	ホリスター
		ストーマ勉強会　事例検討会	H29.10.22	牛久	（牛久愛和 WOC）
	保土山耕平	ストーマ勉強会	H29.9.1	茨城	ホリスター
	古谷左都子	診療介護報酬同時改定を見据えた看護必要度ステップアップ研修	H29.11.5	東京	マネジメント学会
	鈴木　　彩	褥瘡ケア「実践力」養成講座	H29.7.23	東京	（切手俊弘）
		整形外科看護の基本を振り返ろう！ part Ⅱ	H29.12.2	東京	（星亮良）
		在宅褥瘡ケアの底上げをしよう	H30.3.18	つくば	（木下幹雄・中村朋子）
		ハイリスク患者のアドバンス・スキンケア	H30.1.14	東京	（真田弘美）
	中村　有沙	看護セミナー 2017	H30.3.12	東京	照林社（石松伸一）
	新保　由依	感染看護基礎編	H29.9.21、10.26	水戸	県看護協会
		看護連盟若手会員研修会	H29.11.4	水戸	県看護連盟
	吉村　真衣	血培	H29.5.9	茨城	
		第２回心不全ハートチームセミナー	H29.9.14	茨城	
		緩和ケア	H29.12.4		
	谷口　明子	皮膚排泄ケア　創傷治癒に関する代謝と栄養	H29.5.31	茨城	県看護協会
		褥瘡ケア（予防）	H29.6.21	茨城	県看護協会
		褥瘡ケア（治療）	H29.7.5	茨城	県看護協会
		失禁ケア	H29.7.6	茨城	県看護協会
		ストーマケア	H29.8.29	茨城	県看護協会
	三村　彩子	重症度医療看護必要度評価者院内指導者研修	H29.6.18	東京	マネジメント学会
		ナースのための人工呼吸器管理	H29.7	東京	メディカル情報サービス
	青天目早織	基礎を応用したフィジカルアセスメント　高橋真人	H29.9.3	古河	友愛記念病院
	川津　実穂	基礎を応用したフィジカルアセスメント　高橋真人	H29.9.3	古河	友愛記念病院

S棟3階西	飯島　雄希	第13回日本クリティカル看護学会学術集会	H29.6.10、6.11	仙台	日本クリティカル看護学会
		ACLSプロバイダーコース	H29.7.2	東京	日本ACLS協会
	猪瀬　里美	病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上	H29.11.20	つくば	県病院協会
		1日でマスターする脳神経外科	H29.7.9	御茶ノ水	医学教育研究所
		2017重症度医療看護必要度評価者院内指導者	H29.6.18	秋葉原	日本臨床看護マネジメント学会
	上田　　葵	1日でマスターする脳神経外科	H29.7.9	御茶ノ水	医学教育研究所
	澤田　清香	1日でマスターする脳神経外科	H29.7.9	御茶ノ水	医学教育研究所
	古橋　愛未	1日でマスターする脳神経外科	H29.7.9	御茶ノ水	医学教育研究所
	千葉真奈美	看護、介護士が行うエンゼルケア・死化粧	H29.6.10	東京	日総研
		感染対策セミナー	H29.7.18	御茶ノ水	NPO
		診療・介護報酬同時改定を見据えた看護必要度ステップアップ	H29.11.5	東京	日本臨床看護マネジメント学会
S棟4階東	沼尻　麻美	エキスパートナース養成講座　脳神経外科	H29.7.9	東京都御茶ノ水	医学教育研究所
		茨城看護連盟若手会員研修会	H29.11.4	水戸	茨城看護連盟
		可能性を広げるための排泄サポート	H29.11.18	茨城県立医療大学	一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク
	羽生　明弘	茨城県看護職員認知症対応力向上研修	H29.7.13、7.27、8.22	水戸	茨城県看護協会
	石川しのぶ	なし			
	齋藤　陽子	看護連盟と役割と活動について	H29.5.18	つくば	茨城看護連盟
		第32回日本静脈経腸栄養学会	H29.2.23	岡山	
		実習指導者講習会	H29.7.19～10.20	水戸	茨城県看護協会
		第17回茨城PDNセミナー	H29.6.10	つくば	
		リハビリ排泄講習会	H29.11.18	県立医療大	
	今村真智子	茨城県看護職員認知症対応力向上研修	H29.7.13、7.27、8.22	水戸	茨城県看護協会
		第15回日本癌治療学会アップデート教育コース	H30.1.27	つくば市国際会議場	一般社財団法人日本癌治療学会
	大坪　奈々	エキスパートナース養成講座　脳神経外科	H29.7.9	東京都御茶ノ水	医学教育研究所
		茨城看護連盟若手会員研修会	H29.11.4	水戸	茨城看護連盟
	皆川　隆志	ICFと看護	H29.7.29	三田NNホール	回復期リハビリテーション病棟協会
		回復期リハビリテーション看護師　認定コース	H29.9.18～H30.1.13	三田NNホール	回復期リハビリテーション病棟協会
		「転倒・転落」予防のための勉強会	H29.12.7	東京 日本医師会館	認定病院患者安全推進協議会
		リハビリテーション・ケア合同研究大会　久留米2017	H29.10.19～20	久留米シティプラザ	
	黒田　昌宏	心電図の読み方　渡辺重行		御茶ノ水	
	森　　純子	第17回茨城PDNセミナー	H29.6.10	つくば	
		可能性を広げるための排泄サポート	H29.11.18	県立医療大	回復期リハビリテーション病棟協会
		重症度医療看護必要度評価者院内指導者研修	H29.6.18	秋葉原	日本臨床看護マネジメント学会
	飯村　智成	可能性を広げるための排泄サポート	H29.11.18	県立医療大	回復期リハビリテーション病棟協会
	宮川　愛理	第26回整形外科看護セミナー	H29.5.14	東京	医学の友社
	坂本　　彩	BLSヘルスケアプロバイダーコース	H29.6.24	水戸	日本ACLS協会
		ICLS（第24回つくば常総MC-ICLS）	H29.11.3	つくば	日本救急医学会
	鎌野　　舞	退院調整看護師養成研修（基礎編）	H29.5.30～6.9	水戸	県看護協会

S棟4階西	大好　蘭	日本運動器看護学会	H29.12.2	東京	
		「終末期ケア」～自然のみとり　川上嘉明	H30.1.13	つくば	県看護連盟
	武笠　友美	運動器学会	H29.12.2	東京	
	清水　清美	「現場に生かす認知症の対応」 本間昭	H29.7.29	水戸	県看護連盟
		「診療報酬制度改定と今後の看護対策」	H30.3.10	水戸	県看護連盟
	青木　周平	実習指導者講習会	H29.7.19～10.20	水戸	県看護協会
	嶋田茄於里	日本運動器看護学会	H29.12.2	東京	
S棟5階東	高橋久美子	認定看護師教育課程　フォローアップ研修	H29.9.8	埼玉	埼玉県立大学
		エビデンスに基づくエンゼルケア	H29.9.4	東京	m．hank
		末期がん患者へのスピリチュアルケアと家族ケア	H29.8.6	東京	メディカ出版
		肝・胆・膵の解剖・疾患・治療の知識	H29.10.28	東京	〃
		看取り期のケアとエンゼルケア	H29.12.11	東京	m．hank
		県疼痛緩和を考える看護の会	H30.1.20	茨城	（株）協和発酵キリン
		認定看護師スキルアップセミナー	H30.2.24	東京	日本赤十字看護大学
		看護師のエンバーマーが教えるエンゼルケア＆メイク	H30.3.15	東京	日総研
	吉田　奈美	看護管理ワークショップ「学ぶ組織の作り方」	H29.5.18	つくば	県看護連盟
		生と死を考える会	H29.5.27	千葉	NPO 法人生と死を考える会
		2017 関東がんサバイバーシップともに考えよう	H29.5.28	新宿	ジャパンフォーリブストロング
		「比較宗教論Ⅱ」	H29.11.26	つくば	上智大学グリーフケア研究所
		死にどう向き合うか	H29.12.2	流山	NPO 法人生と死を考える会
		「終末期のケア」 ～自然のみとり～	H30.1.13	記念病院	県看護連盟
		生きることに必要な専門職のかかわりとは	H30.2.17	千葉	日本仏教看護、ビハーラ学会
	飯竹　美里	県緩和ケア研修会	H30.11.18、11.19	つくば	がん診療連携協議会
	丹澤かおり	県緩和ケア研修会	H29.9.10、9.17	古河	
	椎名裕美子	県緩和ケア	H29.12.2、12.3	つくば	筑波大学
	山田　麗華	ケースで学ぶ認知症	H29.9.9	横浜	メディカ出版
		県緩和ケア研修会　A　B	H29.9.10、9.17	古河	
		認知症ケア加算	H29.9.16	秋葉原	S-QUE
		認知症看護認定看護師教育課程（試験）	H29.12.6	山梨	
	柴崎枝里香	県緩和ケア研修会	H30.11.18、11.19	つくば	がん診療連携協議会
	平山　奈穂	院内急変　～君ならどうする～	H29.11.21	水戸	
	河野　雅美	肝・胆・膵の解剖・疾患・治療の知識	H29.10.28	東京	メディカ出版
	川口恵里奈	がん化学療法（基礎編）副作用とセルフケア支援を中心に	H29.11.1	水戸	県看護協会
	本多　瞳	がん化学療法（基礎編）副作用とセルフケア支援を中心に	H29.11.1	水戸	県看護協会
2号棟4階	高橋　一枝	「学ぶ組織の作り方」 浅香えみ子	H29.5.18	つくば	県看護連盟
		在宅褥瘡セミナー	H29.6.16	〃	日本褥瘡学会
		「地域包括ケアにおける看護の役割」 黒江保健師	H29.6.22	水戸	県看護協会
		「摂食・嚥下」 基礎編	H29.7.17	水戸	県看護協会
		〃　応用編	H29.8.7	水戸	〃
		県介護支援専門員　専門研修課程Ⅱ	H29.8.22～12.25	水戸	県長寿福祉課
		「終末期のケア」 ～自然のみとり～　川上嘉明	H30.1.13	記念病院	県看護連盟
	佐藤　陽子	看護研究計画書の書き方から学ぶ失敗しない看護研究	H28.7.29	横浜	メディカ出版
		生きることに必要な専門職のかかわりとは	H30.2.17	千葉	日本仏教看護
	山形　裕樹	第２回茨城 DPAT 隊員研修	H29.8.5、6	水戸	
		認知症ケア学会地域大会	H29.10.29	千葉	認知症ケア学会

2号棟4階	藤倉　聡	JTAS プロバイダーコース	H29.11.18、11.19	神奈川	日本臨床救急医学会
		救急看護	H29.8.30	水戸	県看護協会
	下村久美子	～誰でも出来る摂食嚥下シリーズ第６弾～	H29.7.21	土浦	土浦市歯科医師会
		訪問看護精神講習会	H29.8	東京	
	菅原さとみ	健やかに生き抜き穏やかな終末期を迎える為に	H29.12.9	つくば	県医師会
		転倒・転落予防のための勉強会～シンポジウム形式～	H29.12.7	東京	認定病院患者安全推進協議会
2号棟5階	谷口　麻理	地域包括ケア病棟の活用のポイント	H29.6.15	土浦	医療連携セミナー
		第１回つくば地区研修会地域包括ケアシステム構築の取り組み	H29.10.7	つくば	県看護協会
		訪問看護ステーション出向研修成果報告会	H29.12.19	水戸	〃
		地域包括ケアシステム	H30.3.23	つくば	つくば市役所
		在宅看護学術集会	H29.9.14、9.15	つくば	日本看護協会
	成沢　玲奈	モニター心電図講習会	H29.11.16		日本光電
	小松崎健一	「現場に生かす認知症の対応」本間昭	H29.7.29	水戸	県看護連盟
	松崎美奈子	地域包括ケア病棟の活用のポイント	H29.6.15	土浦	医療連携セミナー
		認知症対応力向上研修	H29.7.13～8.22	水戸	県看護協会
		病院看護師の為の認知症ケアスキル習得講座	H30.2.17、2.18	水戸	特定非営利活動法人認知症ケア
	横瀬しのぶ	看護管理者研修ファーストレベル	H29.7.4～	水戸	県看護協会
		看護管理ワークショップ①「学ぶ組織の作り方」浅香えみ子	H29.5.18	つくば	県看護連盟
		看護管理ワークショップ②　石田まさひろ	H30.3.10	水戸	〃
	友部　伸子	「転倒・転落」予防のための勉強会	H29.12.7	東京	
	小貫　明穂	「現場に生かす認知症の対応」本間昭	H29.7.29	水戸	県看護連盟
	中村　頼政	AHA　BLS プロバイダー	H29.5.17	船橋	日本 ACLS 協会
		AHA　ACLS プロバイダー	H29.8.11、8.12	宇都宮	〃
		心電図モニター（ベーシック）	H29.11.16	つくば	日本光電
介護士	大渕　直美	救急蘇生法（PUSH コース）研修	H29.5.25	S棟２階大会議室	業務委員
		前期医療安全研修	H29.6.8	S棟２階大会議室	業務委員
		介護士接遇研修	H29.7.18	S棟４階東病棟	病棟
		患者の権利　医療の倫理　セキュリティーセミナー	H29.8.3	S棟２階大会議室	外部
		第一回褥瘡予防　再発予防研修	H29.11.2	S棟２階大会議室	業務委員
		後期医療安全研修	H29.12.11	S棟２階大会議室	業務委員
	山口　恵子	救急蘇生法（PUSH コース）研修	H29.5.25	S棟２階大会議室	業務委員
		前期医療安全研修	H29.6.8	S棟２階大会議室	業務委員
		危機管理研修	H29.6.6	S棟２階大会議室	業務委員
		セキュリティーセミナー（情報セミナー等）	H29.8.10	S棟２階大会議室	外部
		患者の権利　医療の倫理	H29.8.31	S棟２階大会議室	外部
		後期医療安全研修	H29.12.11	S棟２階大会議室	業務委員

介護士	寺澤久仁子	前期医療安全研修	H29.6.8	S棟2階 大会議室	業務委員
		患者の権利　医療の倫理	H29.8.21	S棟2階 大会議室	外部
		認知症対応力向上研修	H29.11.6	筑波大	筑波大
		後期医療安全研修	H29.12.18	S棟2階 大会議室	業務委員
	菊池　理沙	前期医療安全研修	H29.6.8	S棟2階 大会議室	業務委員
		認知症対応力向上研修	H29.11.6	筑波大	筑波大
	三原　喜紀	後期医療安全研修	H29.12.18	S棟2階 大会議室	業務委員
		救急蘇生法（PUSH コース）研修	H30.3.30	S棟2階 大会議室	業務委員
	塚越　菊枝	前期医療安全研修	H29.6.5	S棟2階 大会議室	業務委員
		患者の権利、医療の倫理、関連法規とその導守、ハラスメント等	H29.8.21	S棟2階 大会議室	外部
		後期医療安全研修	H29.12.18	S棟2階 大会議室	業務委員
		救急蘇生法（PUSH コース）研修	H30.3.30	S棟2階 大会議室	業務委員
	大塚　明美	救急蘇生法（PUSH コース）研修	H29.5.25	S棟2階 大会議室	業務委員
		前期医療安全研修	H29.6.12	S棟2階 大会議室	業務委員
		患者の権利、医療の倫理、関連法規とその導守、ハラスメント等	H29.8.31	S棟2階 大会議室	外部
		後期医療安全研修	H29.12.18	S棟2階 大会議室	業務委員
	飯村　智成	前期医療安全研修	H29.6.8	S棟2階 大会議室	
		患者の権利、医療の倫理、関連法規とその導守、ハラスメント等	H29.8.21	S棟2階 大会議室	
		後期医療安全研修	H29.12.18	S棟2階 大会議室	
		救急蘇生法（PUSH コース）研修	H30.2.22	S棟2階 大会議室	
		茨城ポジショニングセミナー①	H29.6.29	S棟2階 大会議室	
	飯村　智成	茨城ポジショニングセミナー②	H29.7.8	S棟2階 大会議室	
		茨城ポジショニングセミナー③	H29.7.30	S棟2階 大会議室	
		接遇について	H29.10.31	病棟	

リハビリテーション部

内　　容	講　　師	場　　所	年　月　日	参加者数
小児領域 A コース	岸本光夫	筑波記念病院	2017.8.26、8.27	15
小児領域 B コース	岸本光夫・根本浩則	筑波記念病院	2017.11.25、11.26	6
つくば地域リハ・セミナー第 25 回症例検討会		筑波記念病院	2017.10.14	107
つくば地域リハ・セミナー第 26 回症例検討会		筑波記念病院	2018.3.24	78

第 49 回小児リハビリテーションネットワーク会議 小児療育における小児科医師の役割など情報提供		筑波記念病院	2017.6.23	53
第 50 回小児リハビリテーションネットワーク会議　事例検討会		筑波記念病院	2017.12.1	46
茨城ポジショニングセミナー 2017 第 1 回『ポジショニングの基礎』	伊藤亮子	筑波記念病院	2017.6.29	173
茨城ポジショニングセミナー 2017 第 2 回『実技』	伊藤亮子	筑波記念病院	2017.7.8	65
茨城ポジショニングセミナー 2017 第 3 回『症例検討』	伊藤亮子	筑波記念病院	2017.7.30	44
茨城シーティングセミナー 2017 第 1 回『シーティングの基礎』	山崎泰広	筑波記念病院	2017.11.2	95
茨城シーティングセミナー 2017 第 2 回『シーティングによる骨盤の傾きへの対応』	山崎泰広	筑波記念病院	2017.11.7	84
茨城シーティングセミナー 2017 第 3 回『重度障害者への対応』	山崎泰広	筑波記念病院	2017.11.20	57
茨城シーティングセミナー 2017 第 4 回『シーティングの実践①』	山崎泰広	筑波記念病院	2017.12.3	47
茨城シーティングセミナー 2017 第 5 回『シーティングの実践②』	山崎泰広	筑波記念病院	2017.12.3	47

地域医療連携部（地域医療連携公開講座）

内　　容	講　　師	場　　所	年　月　日	参加者数
当院における SGLT-2 阻害薬の使用経験	藤原　淳	筑波記念病院	2017.4.14	47
心不全合併 2 型糖尿病症例における SGLT-2 阻害剤の使用経験	筑波大学医学医療系 瀬尾由広			
外部施設からの病原分離菌の現状	大森美恵子	筑波記念病院	2017.4.21	82
当院施設への ICT ラウンドの介入から見えたもの	星　典子			
当院における DPP4 阻害薬の処方状況と併用薬に関する調査	垣内祥宏	筑波記念病院	2017.5.26	44
SGLT2 阻害薬の当院での使用経験	藤原　淳			
喘息治療と吸入指導のポイント	みなのクリニック 内科呼吸器科 井上雅樹	筑波記念病院	2017.6.9	67
慢性咳嗽の最近の話題	筑波大学医学医療系 檜澤伸之			
当院における PCI 後の抗血栓療法について	内田靖人	筑波記念病院	2017.7.11	62
心房細動合併出血・血栓ハイリスク患者に対する抗血栓療法の新しい治療戦略	順天堂東京江東高齢者医療センター 宮内克己			
痙縮の総論	安岡利一	筑波記念病院	2017.7.21	85
痙縮に対するボツリヌス治療	土浦協同病院 岡田恒夫			
救急医療の変遷～日本の場合、私の場合～	小豆畑病院 小豆畑丈夫	筑波記念病院	2017.7.28	82
形成外科・創傷外科の新たな展開と地域での形成外科病診連携	東京医科大学病院 松村　一	筑波記念病院	2017.8.25	61
痙縮に対するリハビリテーション	飯塚　陽	筑波記念病院	2017.9.8	81
痙縮に対する ITB 療法	聖隷浜松病院 増田洋亮			
当院内視鏡センターにおける医療安全への看護師の取り組み	飯島洋子	筑波記念病院	2017.9.29	65
薬剤性消化管傷害と内視鏡診断治療	自治医科大学 大澤博之			

当院に救急搬送された精神科事案	立川法正	筑波記念病院	2017.10.6	42
高齢者不眠の薬物療法と注意点	東京女子医科大学 稲田　健			
最新血管造影装置紹介　－低侵襲治療を目指して－	株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン 佐山春香	筑波記念病院	2017.10.27	34
最新血管造影装置の使用経験　－当院での症例紹介－	桐原祥典			
第 9 回つくば内視鏡ライブセミナー	NTT 東日本関東病院 大圃　研	筑波記念病院	2017.11.11	106
SGLT2 阻害薬の使用経験～糖尿病内科の立場から～	藤原　淳	筑波記念病院	2017.11.24	62
SGLT2 阻害薬の腎に及ぼす影響～腎臓内科の立場から～	筑波大学医学医療系 森戸直記			
循環器医療における糖尿病を科学する － SGLT2 阻害薬の位置づけ－	国立循環器病研究センター 北風政史			
第 9 回地域連携 PEG の会 筑波記念病院における地域連携の現状	齊藤　勲	つくば国際会議場	2017.12.9	45
筑波記念病院におけるがん患者リハビリテーション	後藤吾郎			
緩和ケアの最近の動向について（輸液･栄養管理も含めて）	神戸大学医学部附属病院 木澤義之			
平成 30 年度　診療報酬改定の概要について	田辺三菱製薬株式会社 藪野恵一	筑波記念病院	2018.1.26	108
第 6 回つくば ESD/ 病理カンファランス	臺　勇一 越智大介	筑波記念病院	2018.2.21	17
緊急検査、迅速検査対応が有効な免疫検査項目の話題とピットフォール ～ BNP、高感度トロポニン、NGAL、プロカルシトン、甲状腺ホルモン～	アボットジャパン株式会社 土田貴彦	筑波記念病院	2018.2.23	25
認知症と地域包括ケア	成島クリニック 成島　浄	筑波記念病院	2018.3.23	72
ゼロから始める認知症診療 ～このように考えると診断と治療は難しくない！～	愛知県認知症疾患医療センター 川畑信也			

医療法人社団 筑波記念会 2017年度年報

発行者：医療法人社団 筑波記念会
〒 300-2622　茨城県つくば市要 1187-299
TEL 029-864-1212
FAX 029-864-8135
http://tsukuba-kinen.or.jp/

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL